統計數理研究輯報

第 6 號

假釋放豫測
に関する統計的研究
I

昭和 27 年 2 月

統計數理研究所

東京都世田ヶ谷區三軒茶屋町 10

この輯報は実際問題について準備の段階から計画，実施，処理に到る間に必要な統計数理的考え方，技術を述べたものである。ねらいは実際に役に立つ報告ということである。

之は其の性質からいつて，統計数理の研究者だけでなく，調査，分析等広くこのような実証的な仕事にたずさわる人々の参考となるようにと願つて刊行するものである。

發行所　東京都世田谷區三軒茶屋町十
統計數理研究所
編集責任者　林　知己夫
印刷所　東京都文京區高田豐川町十三
莊文社印刷所
古田義雄

假釋放豫測
に関する実證的研究*

第一編　序　説

第二編　調査の実施 …… 5頁上

第三編　分析の結果 …… 13頁上
- 第一、失敗者グループの諸特性 …… 14頁上
- 第二、主として犯数別にみた諸特性 …… 24頁上
- 第三、在社会期間の立場からみた失敗者グループの特性 …… 185頁下
- 第四、成功者の実態 …… 227頁下
- 第五、失敗者と成功者との比較 …… 258頁下

第四編　附　録 …… 340頁下
- I. 調査票と行刑表とにおける記入のちがひ
- II. 外国の例についての成功率

後　語 …… 350頁下

此の上巻に於ては第三篇
第一、失敗者グループの諸特性
第二、主として犯数別にみた諸特性、迄を記述する。

前書き

この研究は統計数理研究所、法務府矯正保護研修所との協同研究になるものである。

研究の実際は当研究所の林知己夫、石田正次、田熊雅子、研究所の西村克彦、吉川弘の協同研究によりなるものである。

実施に関しては横浜刑務所の多大な御援助にあづかった。深く感謝の意を表するものである。

全体の企画は主として林・西村・石田、分析、記述は主として林、集計、計算は主として石田・田熊がこれに当った。

* 文部省科学試験研究費による研究の一部である。

第一篇　序

1. 目的

此の研究の目的は假釋放の許否を判定するに当つて，もつとも科学的な根據を與へようとするにある。即ちここで受刑者の社会的豫後をもつとも正しく豫測し，その見込が良好ならば釋放すると言ふ立場をとり，その豫測を科学的立場にもとづいて行ふには如何にすべきかと言ふ点を統計数理的に解決することを目的としてゐるのである。

2. 従來得てゐる成果

我々がこの目的に沿つて行つた成果の一部は

1.「假釋放の豫測」　研修資料第1輯（1949）
中央刑務官練習所

2.「再犯調査の基礎」－豫測方法の展開－（1950）
ケースワーク研究会

に述べてある。この外これに関係あるものとして

3.「假釋放豫測における一つの科学的立場」
法学志林，第48巻第4号（1950）

4.「統計数理的数量化の問題」　統計数理研究所講究録
（1950）第6巻 1,2,3,11号
及びその補遺
（C. Hayashi, On the Quantification of Qualitative Data from the Mathematic-Statistical Point of View, An approach for Applying the Method to the Parole Prediction, The Annals of the Institute of Statistical Mathematics. Vol. II. No1. 1950）

がある。

1. には，科学的立場よりする假釋放豫測に関する米国の研究を論述したもの，及びその研究に必要な統計的技術を論述したものがのせられてゐる。

2，には以下のべようとする研究の豫備的なものとして，全国の假釋放取消者の分析（假釋放取消申報により，在社会期間と種々の要因との関係を論述した）、假釋放豫測するにあたつて，社会的豫後を豫測するか，その豫測の信頼度を大にするには如何にすべきかと言ふことに対する理論的研究，米国の研究状況の補遺がのべられてある。　なほ本研究はこれにつづくものであつて，以上得られた成果をさらに展開しようとするものである。

我々の研究に直接参考となる文献（邦書）は

犯罪心理学（吉益脩夫）　東洋書館　1948

犯罪人（〃）　〃　1948

犯行の心理（植松正）　立花書房　1950

犯罪者の成行の豫見（吉益脩夫）刑法雑誌 第1巻第2号 1950

等である。

㊟ 1. 外国文献で最近特に注目せられるものとして

(1). Ohlin (L.E) and Durcan

The Efficiency of Prediction in Criminology (The American Journal of Sociology 1949)

がある。これについては附録においてのべてみる。この外本研究で参考にした文献は大体次の通りである。

多くの人の共著　法律政治の心理学　河出書房

王生道経　犯罪者の性格と社会教育　童支書房

植松正　裁判心理学　世界社

雑誌　橋（月刊 刑政）1949. 11月号

植松正　「社会調査の理論と実際」の中　犯罪調査

ケートレー　人間について

ドローリビシュ　道徳統計と人間の自由意志

牛島義夫　不良化傾向の早期発見

植松正　民族と犯罪

佐伯千仞　戦争と社会犯罪学

植松　正　刑事法学研究　有斐閣

小野清一郎　本邦犯罪現象の認識　嘉久屋書房

田藤重光　刑法の近代的展開

註2. (ロ) Sheldon and Eleanor Glueck (Harvard Law School) Unraveling Juvenile Deliquency, The Common Wealth Fund. 1950.

がある。これはdeliquencyとnon-deliquencyのものをいろいろの標識において比較したもので今行はうとする我々の方法に近い。両者のグループで年令,一般知能,人種,居住地の状況,の様な外見的なものの上では差のない様にしておいて,ダイナミックなもの,社会文化的なもの,身体的なもの,頭の働き,知的behaviour,性格感情的なものにおける差をみてゐるのである。家庭生活の状況(質),家庭における少年の状況,学校における少年の状況,社会における少年の状況,身体の状況,言語,行ひからみた知能,知能の質とダイナミック,性格,感情のダイナミックス,についてそれぞれこまかくしらべあげ両者の差をχ^2検定によつてしらべいかなる標識において差があるかをみて,次に不良化の豫測を行はおうとしてゐるものである。

註(ハ) Ohlin (L.E) Selection for Parole, Russell Sage Foundation, 1951.
一般的な解説書であるが始めから終りまでのプロセスの説明してあるのがよい。

註3. 本研究の外全国の再入受刑調査表の分析を目下行ひつゝある。これは本研究の一面を補足するものとなる。

3. 本研究の概要

此の研究では横浜刑務所を一つのmodelとして えらび,ここの受刑者について調査を行つたものである。この調査の主目的は受刑者の社会的豫後を正しく豫測するにはいかなる要因(Factor)を調査をしたらよいか,又その中最も豫測効率のよいFactorは何であるかと云ふことをみるにあつた。そのため横浜刑務所についての仮釈放成功者,失敗者について調査票による調査を行ひその結果を統計数理的立場をとりつつ分析したものである。本研究の結果の内容は以下のべる通りである。

第二編　調査の実施

第一章

此の調査の狙ひ

假釋放を行ふにさいして，まづその受刑者についているいろいろの事項（Factor，要因とよぶことにする）について調査し，その社会的豫後を豫測するのであるが，まづ第一に注目すべきは「調査しうる事項」が過去，現在の事，及び將來に対する希望，將來の環境推測，推定にかぎられてゐることである。　ここで判定された受刑者は釋放されて種々の環境，境遇の中に入つてゆくのである。　この環境，境遇はあらかじめ豫測せられるものと大に異つてゐることもあろう。　さうしたとき釋放時調査した事項が全く同一の受刑者であつても帰りゆく環境，境遇の差によつて，又そのうけとり方（各自のそれに対処する方法）によつてことなつた豫後が生れることは当然考へられると思ふ。　ここが受刑者の社会的豫後判定即ち假釋放判定のむづかしいところである。

釋放前の調査によつて知り得た要因だけによつて豫後をなるべく正確に知らうとするのであるから，調査の要因として有効なのは「いかなる境遇，環境にあつても再犯しない様にせしめる根づよい要因」と言ふことになる。　つまりこの要因をもつものはある境遇環境に入つても再犯をしないと言ふ様なことになる。

我々の第一の目的はこの犯罪に対して強い抵抗力を示す根づよい要因を見出さうとすることにある。

このために假釋放時に得られるであらう調査事項を釋放成功者，失敗者について調査し（項目は種々工夫する），両者を分別するに有力な要因を見つけ出すことになるのである。

この要因が見出されるならば次にこの多くの要因を綜合して，ますます強力な複合要因を見出すことになるのである。

第　二　章

調　査　の　実　施

この調査では準備調査の意味において，調査実施に便利な横浜刑務所関係の受刑者を調査の対象とすることにした。

前述の目的のため假釈放成功者，失敗者両方を調査することにした。

直接対象は失敗者については昭和22年9月1日から昭和23年9月30日迄に假釈放されたもの，成功者については昭和22年8月から昭和23年12月末日の間釈放されたもの（1513名）についてであった。

(註)．両者の間に多少時期的にずれのあるのは調査実施上の都合によつてであつた。

まづこの調査の場合の成功者，失敗者の定義をのべておかう。

成　功　者：その期間に假釈放在社会期間1ヶ年以上にわたり無事故のもの

失　敗　者：その期間に假釈放され（昭和24年12月―25年1月）現在再犯して受刑中のもの（これは所謂上記の成功者に対応するものではないが調査の都合上止むを得なかつた。しかしこれは失敗の一つのモデルである）

この両者の定義について相当問題もあらうかと考へられるが，在社会期間1ヶ年以上のものを成功者と考へたのは，全国的な假

釋放取消者の分析（再犯調査の基礎参照）にしたがつたものであつて，これによると，ここにあらはれた再犯者の約95％（追跡期間があまり長くないのでこの数はさらに増加すべきものかもしれない）が，1ヶ年以内に犯罪をしてゐると見做されたからである。① なほ，さらに安全のため1ヶ年以上をとつてもよかつたのであるが資料の関係からするのが適当であると考へられた。②

㊟ ① 横浜刑務所昭和22年23年の資料によると假釋放者中1ヶ年以内に罪を犯すものは約28％存在した。
又昭和22年中に釋放し昭和25年8月迄に再入しないもの（成功率）は横浜刑務所で69.4％失敗の率は30.6％である。
なほ参考のため同期間の全国刑務所の状態をあげてみると次の様になつた。 全国平均の失敗者の率は34.7％である。

◎ 昭和22年中に釋放して昭和25年8月迄に再入せざるものの率

刑務所	釋放	再入せざる	成功率%	刑務所	釋放	再入せざる	成功率%
姫路	414	275	66.4	浦上			
横浜	1839	1277	69.4	佐世保	721	618	85.7
京都	1282	702	54.7	栃木	814	420	51.6
金澤	720	569	79.1	笠松			
宮城	1053	785	74.4	久里浜			
府中	3632	2257	62.2	宇都宮	565	362	64.1
千葉	1401	764	54.6	八王子	155	105	67.8
名古屋	1250	862	69.0	青森	552	362	65.6
熊本	646	405	62.7	神戸	3221	2380	73.9
帶広	213	110	51.7	下関	694	689	99.2
新潟	682	360	52.8	富山	258	194	75.3

刑務所	釋放	再入せさる	成功率%	刑務所	釋放	再入せさる	成功率%
高知	493	273	55.4	豊多摩	381	252	66.2
福岡	2495	1816	72.7	札幌	1221	830	67.9
松山	318	177	55.7	川越	704	635	90.1
大分	1164	780	67.0	名古屋拘	76	37	48.7
山口	824	95	11.5	山形	183	147	80.3
大阪	3740	2064	55.2	水戸	115	94	81.8
尾道	287	190	66.3	前橋	1173	625	53.3
甲府	366	241	65.9	岡山	956	812	85.0
広島	771	355	46.1	東京拘	1313	1023	78.0
徳島	321	119	37.0	北方	173	104	60.1
静岡	826	555	67.3	長崎	1287	841	65.5
長野	1097	819	74.7	加古川			
福井	263	241	91.7	鳥取	299	230	76.9
旭川	117	104	89.0	滋賀	1103	749	67.9
松本	468	224	48.0	高松	946	645	68.2
鹿児島	1366	1113	81.6	水戸	862	502	58.3
釧路	174	171	98.3	新潟			
松江	613	423	69.0	岐阜	800	399	49.9
小倉	692	400	57.8	秋田	282	174	61.2
和歌山	32	31	96.8	三重	688	397	57.7
網走	455	211	46.4	三次	190	89	46.9
宮崎	635	417	65.7				

	釋放	再入せさる	成功率%	失敗率%
計	50,381	32,900	65.3	34.7

㊟ ②1ヶ年以上にわたるものは再犯した者であつても今調査の対象としても十分捕捉できなかつた。

又成功者とみなされてゐるものの中に，犯罪を犯していながら，今なほ逮捕されぬものも含まれて居ると考へられるが，これは資料輯集の立場から止むを得なかつた。

この対象について次の様な調査を行つた。

1．失敗者について

これについては調査票A型，及び行刑表，得点表を調査した。調査票A型は面接調査によるものであつた。これについては後述

2．成功者について

これについては調査票B型についてまづ調査した。これは成功者と目されてゐるものについて郵送調査を行つたものである。この中返答のあつたものについて行刑表，得点法の調査を行つた。回答のなかつたもの、住所不明のものについては得点票の調査を行つた。

調査に選ばれた実数は次の通りであつた。　失敗者は今受刑中の対象となるもの165名，であつた。　失敗者と目されたものは我々の書類調査（昭和24年10月）に於ては314名であつたが，各所に移送されたものもあつて，調査実施時（昭和24年12月－21年1月）我々の対象とした失敗者は165名にすぎなかつた。　これが調査の資料となつたものである。（この点疑問の余地はあるが調査実施上止むを得なかつた。）

一方我々の調査対象の成功者とは成功者と目されてゐるものの中当時受刑中の状況，釋放時の状況から連絡が容易につくものと考へられた495名であつた。　この495名はまづ成功者と考へられるものの中の上の部にそくするものと考へられる。

しかしこの中252名は住所が曖昧であった。　したがつてこれについては端書を以てあらかじめ所在調査を行つた。

かうして243名の所在の明白なものと端書調査によつて住所の明白になつたもの39名，計282名について昭和25年2月一5月に調査票B型を発送して回答を求めた。

これは第二表その2の様な手紙を添へて回答ある様依頼した。この中回答のあつたものは45名であつた。

なほ回答のあつたものの内訳は，直ちに回答のあつたもの40名，再度依頼して回答のあつたもの5名であつた。　回答のないものはのこりの237名である。

この内訳を示すと次の様になる。

- 成功者総数 495（上の部と考へられるもの）
  - 初めより調査票を(243)送付したもの
    - 回答あり(29)Ⓐ
    - 回答なし(214)
      - 調査票再送したもの(100)
        - 回答あり(5)Ⓑ
        - 回答なし95Ⓒ
      - 調査票を再送せぬもの，住所不明で郵便のかへされたもの(114)Ⓓ
  - 端書で所在調査したもの(252)
    - その回答あつたもの(39)［これに調査票送付］
      - 調査票回答あり(11)Ⓔ
      - 調査票回答なし(28)Ⓕ
    - ないもの(213)Ⓖ

この郵送の場合，自由人を対象とした事の性質上，回答を義務づけ，或は強制する様なことは出來なかつたし，又行はうともしなかつた。　したがつて回答率は甚だ低かつたのではあるがこれにも拘らず回答のあつたものは極めて好意的，協力的なものであると見做すことが出來，まづ成功してゐる集団とみなしてよいで

あらうから（しかもこの面倒な調査に応ずる程度のものと考へられるであらうから）失敗者と全く対蹠的なもの，両極端と考へて差支へなからう。　したがつて両者の比較は成功，失敗の両端の比較として一まづ我々の研究に対して参考となると思はれる。

さて成功者の中でも，住所不明のもの，回答なきものと回答あつたものでは夫々性質を大に異にしてゐると考へられるので一応得点表をしかるべきものについてとりよせ比較分析してみることにした。　例へば成功者と目されてゐるものでも，回答なきもの（上の表で言ふと㋒，㋓，㋖，㋗ なるもの）では既に悪事をなして居るもの（犯罪あるもの）の多い可能性がある様なことも考へられるからである。

㊟　以上の様に調査対象となつたサンプルは一刑務者のものであり，且つ限られた一時期のものであり，また成功者，失敗者も定義のようなものであり，或は備つたものであるかもしれないが，この様な問題に対する逐次近似により目的へ近づく第一歩としての第一近似としての意味をもつものと考へられる。

調査の実施を表にまとめてみると，

	失敗者	成功者	
		Ⓐ Ⓑ Ⓔ	Ⓒ Ⓓ Ⓕ
調査票	A型 面接 ○ 165	B型 郵送 45	×
行刑表	○	○	×
得点表	○	○	○

両者の比較（両端と考へられる）

㊟ 1. ○印 ; 得た資料

×印 ; 資料とらぬもの

数字 : 得た資料の数

〃 2. Ⓒ,Ⓓ,Ⓕ, のものの中資料を得たものの数は237に比してきはめて少いが, これは諸種の都合により利用できる資料がこれのみしか得られなかつたためである。

さてここに用いた調査票A型, B型, 行刑表得点表知能, 向性検査は第一, 第二, 第三, 第四, 第五表の通りである。

調査表は成功者, 失敗者の分について同一としたかつたのであるが, 調査の内容上実施上種々困難と思はれるものがあつたのでA型, B型とした。

調査票の内容は主として釋放時調査し得られる様なものをとつたのであるが, 再犯者, 成功者の実態をしるために附加的事項をも加へておいた。

内容は機械的なもの, 身体, 素質, 遺傳的なものの外に生活史的な立体的なもの, 心理的なものも加へる様にした。

調査票A型

1. 基礎的事項
2. 立体的にみた生活史
3. 最初の不良行為, 前犯, 本犯に就ての犯行に関する事項
4. 受刑中の体験に関する事項
5. 釋放後在社会期間の行動に関する事項
6. 犯行, 裁判, 逮捕に関する心理的反応
7. 家族, 社会に対する現在の態度

調査票B型

1. 現在の職業生活
2. 生活様態(社会, 家庭, 生活のありさま)
3. 司法関係者に対する態度

4. 罪に対する現在の態度，心理

A，B 型で同一の質問を重畳させた所もあるが，B型の主なねらひは罪を制止する原因を探究するにあつた。

第　三　篇

分　析　の　大　綱

分析は「豫測方法の展開」（前掲資料）に於ける理論を用ひて Parole Prediction Table を作成することを主眼点とするが，これに用ふる資料は行刑表，得点表，調査表である。

さらに失敗者，成功者の（生活）実態，精神実態を把握しようとする。

かくして假釈放基準の決定，受刑者の教育，前科あるものの保導（Case work の立場）の一つの参考たらしめる。このために

Ⅰ．失敗者の実態把握

とくに在社会期間を長からしめてゐる要因の発見

Ⅱ．成功者の実態把握

かくして罪を犯さぬ様にしてゐる要因を見出す

Ⅲ．Ⅰ，Ⅱ をあはせ，両者をわける強い要因を見出す．又，失敗者，成功者の ~~各共~~ 通項目に対する結果（反応）と比較。かくして両者を分別する強い要因を剔抉し假釈放判定のための参考たらしめると共に「展開」の理論を用いて Prediction Table を作成する。

㊟ 以下の分析結果はそのとられたサムプルの母体を常に考へて解釈せられねばならない。

ここでは煩にわたる程度にこまかく分析を行つた。　しかしこの場合ではサンプル数が僅少になり，意味の薄くなつた場合もないではないが，分析方法の一つのモデルをあたへる意味において行つたものである。

なお以下の分析において假説検定論の考へ方が用いられる。

この場合「有意な差がある」等「有意」と言ふ言葉を用いるが，これは「現在得てゐる資料」からこれこれのことのおこることは偶然でない何ゝ意味ある関係があると言ふ事を一定の信頼度（主として 99 %，時には 95 %）を以て言ひ得られると言ふことを意味するものである。

「有意でない」と言ふのは「これこれの資料」ではランダムでない何ゝ意味ある関係があるとは結論できないことをつまり偶然でもこれくらいなことはおこり得る。　したがつてこの資料からは偶然か否かは結論できないと言ふことを意味してゐるのである。　時により顕著な差はみられないと言ふ言葉も使つてあるがこれは「有意な差」と同じ意味である。

用ひる検定としては主として関係の有無をみるための χ^2 検定（或は χ_c 検定 — Fisher・Yates —）或は S_α^2 検定（林知己夫，適合度の検定と χ^2 検定．調査錄．第6巻，第4号参照，この時有意の規準としては判別値が用ひられる）が用ひられてゐる。

第　一

失敗者グループの諸特性

§1.　失敗者グループの總括的にみた一般的特性

（イ）年　令　構　成　（数へ年）

年令	実数	比率%	一般の男子の統計(20才以後について)* %	前調査** %
21-25	67	40.6	16.9	34.1
26-30	46	27.9	12.0	22.2
31-35	19	11.5	11.8	16.1
36-40	10	6.1	11.6	11.7
41-45	15	9.1	10.4	15.9
46以上	8	4.8	37.3	
計	165	100.0	100.0	100.0

(註) * は昭和22年度の全国總計

** は再犯調査の基礎に行った全国統計

こころみに今度の調査と前調査との結果とべ年令分布でどれほどのくひちがひがあるかをみるために χ^2 検定を行ってみると

$$\chi^2 = 9.68 \quad (\text{自由度 } 4)$$

$$0.05 > P_r\{\chi^2 > 9.68\} > 0.02$$

となる。

きわめて差がある（全国總計の如き）とは言へないであらう。

(四) 学　歴

	失敗者		*学歴でつくった構成 市・男	全国・男
	実数	%	%	%
ナシ			0.2	1.1
小学中退	16	9.7	1.1	3.1
小学卒業	45	27.2	10.8	19.9
高小中退	11	6.7	41.2	3.8
〃 卒業	69	41.8		46.3
中学実業 中退	14	8.5	5.4	2.8
〃 卒業	10	6.1	26.9	15.5
高専 中退 卒業			10.7	5.2
大学 中退 卒業			3.7	2.3
計	165	100.0	100.0	100.0

＊　学歴でつくった構成とは「全国統計」（読み書き能力調査の年令×学歴別分布結果）から年令構成を本失敗者のに合せてつくった学歴構成である。　つまり年令構成は失敗者群と同様にした時の全国学歴構成である。

学歴は低目であることが注目される。

(八) 職　業

	(本犯犯行時) 実数	%	(前犯出所後) 実数	%	前調査 %
ナシ	48	29.1	51	30.9	55.5
人夫、土工	47	28.5	53	32.1	16.3
俸給生活	10	6.1	9	5.5	3.1
商人	17	10.3	21	12.7	5.4
農業	5	3.0	13	7.9	7.8
大工等職人	10	6.1	18	10.9	9.4
遊興的徒食	24	14.5			1.6
不明	4	2.4			0.9
計	165	100.0	165	100.1	[illegible]

本犯犯行時と前犯出所後との職業との間には[illegible]差はないが，前調査のとは相当な開きを示してゐる。

刑務所の特色か又は時代の差とも言へるかもしれない。

		本犯行時	出所后就いた
計		165	165
不明	不明	4	
ナシ	ナシ	48	51
人夫土工	人夫土工	34	36
	船員	1	1
	日傭	12	16
俸給生活者	大工業工員	4	7
	俸給者	6	2
商人	サービス	2	9
	商的産人	4	4
	商工業主	3	1
	露店	2	4
	ヤミヤ	6	3
農業	漁業	1	4
	農林業	4	9
大工左官	大工,トビ,左官	7	12
	小工業工員	3	6
遊興的徒食	遊興的	10	
	徒食	14	

なほ，細かい職業別にすると上のようになる（実数）

年令＼兵役	有	無	計
21~22	0	21	21
23~25	17	29	46
26~30	34	12	46
31~35	11	8	19
36~40	2	8	10
41~45	3	12	15
46以上	2	6	8
計	69	96	165

（二）　兵　役

これは年令との関係でみる必要がある。

兵役のあるもの約42％である。

（ホ）婚　姻　関　係

age	正式	内縁	ナシ	昔あり,今なし	計	ナシ/計	ナシ+昔あり今なし/計
21~25	2	7	56	2	67	83.7%	86.5%
26~30	4	1	34	7	46	73.9	89.1
31~35	4		5	10	19	26.3	79.0
36~40	2	1	5	2	10	50.0	70.0
41~45	3	2		10	15	0.0	66.7
46~	2	2		4	8	0.0	50.0
計	17	13	100	35	165	60.7	81.9

29　34.5　75.8

これと昭和25年度市部及び全国男子における統計（有配，無配の統計），但し（　）内は全国のものと比較してみるにナシ（無し＋昔あり今なし）の比率が失敗者グループがナシ（含一生婚）の率（現在配偶者ないもの）が著しく多いことがわかる。

なお婚姻したものの中初婚の年令をみると25.6才であり全国統計よりの推定によれば24.8才であまり顕著なものは見当らない。

２０才以上の男

	市部における無配の%	全国における無配の%
Total	30.5	
20～24	88.4	83.5
25～29	44.1	35.8
30～34	12.1	10.2
35～39	7.0	5.5
40～44	6.8	5.9
45～49	6.3	6.9
50～54	9.2	9.9
55～59	14.0	13.7
60以上	28.2	29.0

（ヘ） 犯罪関係

（i） 犯数別にみると

犯	実数	%	前調査
2	90	54.6	46.9%
3	50	30.3	24.3
4	12	7.3	10.0
5	5	3.0	6.8
6以上	8	4.8	12.0
計	165	100.0	100.0

（ii） 罪質別にみると

罪質	実数	%	前調査
窃盗	132	80.0	84.5%
強盗	9	5.5	3.0
恐喝	5	3.0	1.3
詐欺	13	7.9	5.9
放売運搬	4	2.4	2.0
政令違	1	0.6	0.1
横領	1	0.6	0.6
その他			2.6
計	165	100.0	100.0

である。 全く著しい差があるとは見受けられない。又，共犯関係の有無をみると

	実数	%
あり	49	29.7
なし	116	70.3
計	165	100.0

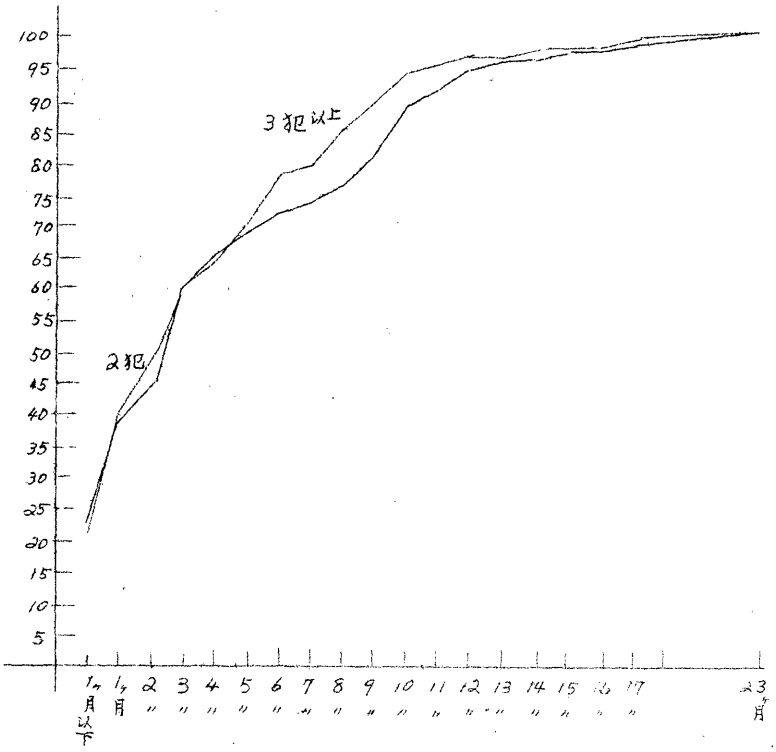
となってゐる。

以下分析するに当つて犯数と在社会期間，年令との関係をみておくことである。

まづ在社会期間と犯数との関係をみるために Cross tabulation をつくつてみると，

在社会期間 ＼ 犯	2	3	4	5	6	計
1ヶ月以下	21	10	4	0	0	35
1ヶ月	13	12	2	1	1	29
2〃	7	5	1	0	2	15
3	13	5	1	0	1	20
4	5	3	0	0	0	8
5	2	2	0	2	0	6
6	4	3	1	2	1	11
7	1	1	0	0	1	3
8	3	2	1	0	0	6
9	4	2	1	0	0	7
10	7	2	1	0	1	11
11	3	1	0	0	0	4
1年以上	7	2	0	0	1	10
計	90	50	12	5	8	165
12月	3	1				
13〃	1					
14					1	
15	1					
17	1	1				
23	1					

となる。　2犯，3犯について累積頻度の曲線をかいてみると



となり著しい差はみとめられなかった。

以上の分析を検定論の立場から明らかにするためにカテゴリーをあつめると

在社会期間＼犯	2	3	4以上	計
0 1	34	22	6	64
2 3 4 5 6	31	18	11	60
7 以上	25	10	6	41
計	90	50	25	165

となる。　ここで χ^2 検定を行ひ犯数と在社会期間との関係があると認められるか否かをみると

$\chi^2 = 1.96$　　自由度 4

$Pr\{\chi^2 > 1.96\} \fallingdotseq 0.78$

となり有意な差は認められない。　次に在社会期間と年令

との関係をみると

年令＼在社会期間	0 1	2 3 4 5 6	7以上	計
0 1	46	40	27	113
それ以上	18	20	14	52
計	64	60	41	165

となる。

ここで χ^2 検定を行ふと

$$\chi^2 = 0.564 \quad (自由度2)$$

となり

$$Pr\{\chi^2 > 0.564\} = 0.78$$

で有意な差はみとめられない。

つまり犯数，年令と在社会期間との関係は分布の上で我々の場合甚だしくあるとは結論できない。

分析は犯数と在社会期間とを中心にして行ふのがよいと考へられるが以上の結果によつて以下の分析では一応さの cross tabulations を用ひることなく犯数は犯数，在社会期間は在社会期間と別個に分析して行くことしよう。

㊟ 犯数別に分析するとき，在社会期間がほぼ同じ割合で分布されてゐるので，犯数別にみたときある項目について検出されたた有意的な差異は，在社会期間のふくまれる割合の差異によつて生じたものではなく，一応犯数そのものによる（勿論複合的なものではあるが）か或は両者の interaction の差異によるかであることが言はれると考へても大過はないものと思ふ。

在社会期間別に分析するとき年令，犯数の関係も上述の通りになる。したがつて在社会期間別にみたいろいろな特性は年令に直接由来することが少いものとして，年令との cross tabulation

をとらなくともそれが除かれて分析されてあることになる。

第二 主として犯数別にみた諸特性.

1. 一般的特性

(イ) 年 令

年令 / 犯	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～	計
2	42	27	11	5	2	3	90
3	23	17	4	1	4	1	50
4～	2	2	4	4	9	4	25
計	67	46	19	10	15	8	165

ここで，年令と犯数との関係をみるに χ^2 検定を行ふと（年令を 21－25，26～30，31～40，41以上，犯数を2犯，それ以外とする） $\chi^2 = 12.1$ （D.F. 3）となり，両者の関係があり年令が高いほど犯数の多いことが見受けられる前調査と同様の傾向であつた。けだし，当然であろう。

(ロ) 知 能

	6A	5C+ 5B	4C	3C－ 3D	2D	計
2 犯	1	15	29	15	2	62
3 犯	3	3	17	12		35
4～		2	11	5	1	19
計	4	20	57	32	3	116

（八）　向　性

	内3	2	1	正	外1	2	3	不明	計
2犯		7	11	23	17	3		1	62
3犯	1	3	10	10	8	2	1		35
4～		1	5	4	7	2			19
計	1	11	26	37	32	7	1	1	116

（二）　学　歴

	小中退	小卒	高小中退	高小卒	中中退	中卒	計
2犯	9	24	5	41	9	2	90
3犯	3	11	5	23	4	4	50
4～	4	10	1	5	1	4	25
計	16	45	11	69	14	10	165

$\chi^2 = 1.06$ （D.F.3）　で，犯数と学歴構成との間には有意な差がみうけられない．．

（ホ）　兵　役

兵役	なし	あり	計
2犯	50	40	90
3犯	28	22	50
4以上	18	7	25
計	96	69	165

年令との関係もあるが，兵役の有無と犯数とはさう関係があるとは考へられない．

（ヘ） 職　業 （犯行時のもの）

	なし	人夫大工	徒食	大工左官	勤労	商人	農	不明	計
2犯	22	24	12	5	9	10	4	4	90
3犯	17	15	9	2	1	5	1		50
4〜	9	8	3	3		2			25
計	48	47	24	10	10	17	5	4	165

$\chi^2 = 5.0$ （D.F. 5） であり犯数別にみて職業上の差はみうけられない。

（ト） 父母の有無 （行刑表）

	父母あり	父実母義	父実母なし	母実父なし	父母なし	父義母なし	計
2犯	16	2	10	18	16		62
3犯	9	2	5	6	12	1	35
4〜		1	1	4	13		19
計	25	5	16	28	41	1	116

前受刑時（現在ではない）における父母の有無をみたものである。

（４） 婚 姻 関 係

2 犯

age	正 式	内 縁	ナ シ	昔あり今なし	計	ナシ/計 %
0	1	3	37	1	42	88.1
1	4	1	19	3	27	70.3
2	4		2	5	11	18.2
3	1	1	3		5	60.0
4				2	2	0.0
5	1	1		1	3	0.0
計	11	6	61	12	90	67.8

3 犯

0	1	4	17	1	23	73.9
1			13	4	17	76.5
2			1	3	4	25.0
3				1	1	0.0
4	2			2	4	0.0
5				1	1	0.0
計	3	4	31	12	50	62.0

4 犯以上

0			2		2	100.0
1			2		2	100.0
2			2	2	4	50.0
3	1		2	1	4	50.0
4	1	2		6	9	0.0
5	1	1		2	4	0.0
計	3	3	8	11	25	32.0

犯数別，年令別には著しい差はない様である。

結婚回数を見るに（既婚者）

犯＼回数	1	2	3	4	計
2	15	2	0	0	17
3	6	1	0	0	7
4	3	1	1	1	6

である。

既婚ではあるが今はおないものをみるに

犯＼回数	1	2	3	4	5	6	計
2	12	0	0	0	0	0	12
3	10	2	0	0	0	0	12
4	7	3	0	0	0	1	11

内死別 1，不明 1.

内死別 1

内死別 2.

内死別 1.

離婚4回 死別2回
70才以上の老人
（61に以上）

全体的に著しい特異的傾向のものは見受けられなかつた。

2. 趣味．娯楽

［イ］

犯数	賭博．マーヂャン	其ノ他	計
2	8	82	90
3	6	44	50
4以上	3	22	25
計	17	148	165

で，検定を行ふに賭博，マーヂャン趣味は犯数別に差がみとめられなかつた。しかしこれは Stress ある環境の下での調査であるからその様な趣味があると言ふものが少いので全体の数字としては信ぜられないかもしれない。　唯さうであつても犯数別にさう言つたものの比率の間に差のないことは面白いことであ

る。　（或はうその傾向，正直に言つたものの傾向に差がみられないと言ふことである。）

（ロ）　賭博の程度

賭博の程度	多	中	少	ナシ	不明	計
2犯	13	9	13	55		90
3犯	10	9	6	23	2	50
4以上	3	6	5	11		25
計	26	24	24	89	2	165

ないもの半数程度で犯数間に有意差はみられなかつた。しかし，半数程度は陳述の虚偽とにらみ合せ著しいものと思はれる。

（ハ）　飲酒喫煙の程度

喫煙の程度	多	中	少	ナシ	計
2犯	13	60	10	7	90
3犯	6	28	11	5	50
4以上	8	13	1	3	25
計	27	101	22	15	165

飲酒の程度	多	中	少	ナシ	計
2犯	14	26	20	30	90
3犯	14	7	11	18	50
4以上	6	9	6	4	25
計	34	42	37	52	165

喫煙では犯数別に差なく飲酒でも $\chi^2 = 4.0$ (D.F.6) で有意の差なく，これらの程度は犯数にかかわりがないことがわかる。

［21］　性生活の整，不整

解答のあつたものは少かつたが，あるもののみをとると

整	不整	不明	計
37	11	117	165

の様な結果があつた。

3. 環境，及び生育環境

(イ) 家族における犯罪者の有無

年令＼犯数	2	3	4以上	計
21～25	1(妹)	1(兄)	0	2
26～30	3 (父)(弟)(兄)	0	0	3
31～35	0	0	1(兄)	1
36～40	0	0	0	0
41～45	0	0	0	0
46以上	0	0	1(兄)	1
計	4	1	2	7

家族における犯罪者は少い様に思はれる．全体的にみて約4%である。しかし，全国的統計からみるとき4%の数字は大なるものと考へられる。

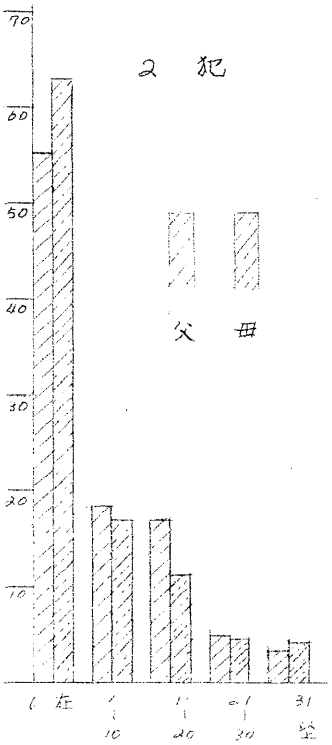
㊟ 全国世帯数約1600万世帯受刑者8万からみてこの数字は大きい。

(ロ) 生育環境特に父母死別年令との関係

父母健在，失つたときの本人の年令をとってみると（横縦軸の数字，又失つた年令）次の様になる。

2 犯

母＼父	在	1～10	11～20	21～30	31～	その他	不明	
在	29	2	5	3	1		5	45
1～10	3	5	1	1	1	1		12
11～20	4		2			1	1	8
21～30	2		1					3
31～	1		1		1			3
その他	3	4				1	1	9
不明	1	3	3				3	10
計	43	14	13	4	3	3	10	90



3犯について

母＼父	在	1-10	11-20	21-30	31-	その他	不明	計
在	13	1	4	1	1		1	21
1-10	3		2	1			1	7
11-20	2	2	5				1	10
21-30								
31-								
その他	2					4		6
不明	3		1				2	6
計	23	3	12	2	1	4	5	50

4犯以上について

母＼父	在	1-10	11-20	21-30	31-	その他	不明	計
在		1	2	1		1		5
1-10	1	1	1		1		1	5
11-20		1	1	1				3
21-30				1	1			2
31-				2	2			4
その他								
不明	1	1		1			3	6
計	2	4	4	6	4	1	4	25

これを全体まとめ合せてみると，

母＼父	在	1～10	11～20	21～30	31～	その他	不明	計
在	42	4	11	5	2	1	6	71
1～10	7	6	4	2	2	1	2	24
11～20	6	3	8	1		1	2	21
21～30	2		1	1	1			5
31～	1		1	2	3			7
その他	5	4				5	1	15
不明	5	4	4	1			8	22
計	68	21	29	12	8	8	19	165

となる。

ここに言ふ不明とは忘却したもの，記載のないもの，其他とは父，母が離婚，再婚してあるものを言ふ。（つまり有るが実質的には自己にとつてないとも言へるようなものである）

次は特に15才迄の父母の状態をみると

母＼父	死亡	不和	離婚	再婚	別居	道楽	健在	行方不明	計
死亡	14			9			10	3	36
不和		1							1
離婚			6			2			8
再婚	3		1						4
別居					2				2
道楽									
健在	10						99		109
牽公	1					1			2
行方不明	1							2	3
計	29	1	7	9	2	3	109	5	165

となる。　15才迄に父母を共になくなしたものは約8.5％である。　片親をなくしたものは22.4％，両親共健在であつたもの60％である。

なお，関東地方におけるランダム，サンプリングによる調査（教育研究所，久保舜一，瀬川良夫，島津一夫氏による"社会の青少年に及ぼす影響についての調査の中の一項目，サムプル数 3000）によると通常の新制中学の生徒においては，両親ないもの 1.53 % であり，これにくらべてもきわめて多いものと思はれる。なほ犯罪心理学（吉益）の 141 P によるも本所太平小学校 5，6 年生についての調査によるも両親なきもの 2.5 %の数を得てあることを上述の裏書としよう。

さて，全体の結果を犯数別にまとめてみると

	父母健	母無	父無	父母なし	其他	不明	計
2犯	29	10	11	13	10	17	90
3犯	13	5	7	10	6	9	50
4犯～		1	4	12	1	7	25
全	42	16	22	35	17	33	165

となる。年令の点を考へ合せてみるとさう甚だしい差があるとは思へない。これらの数字は唯それ丈では興味のないものであるが一般統計（漠然乍ら存在してゐない）とくらべて始めて意味をもつものである。将来の参考のためかかげておくものである。なほ青少年の受刑者の例については吉益，犯罪心理学，139 P ― 146 P（犯罪性人格環境，家族）に見られる。これと比較のため一応20才迄に父母を失くしたものを父なし，母なしそれ以上の場合は父母ありと見做して集計してみると次の様になる。（これは一応各人の年令を20才に引きもどして現状調査したことになる）

ここで χ^2― 検定を行つてみると

$$\chi^2 = 4.05 \ (D.F.4)$$

となり，犯数と特性との間に著しい関係はみとめられぬと言へよう。

	父母あり	父なし	母なし	父母なし	其他不明	計
2　犯	37	9	9	8	27	90
3　犯	15	5	6	9	15	50
4犯～	7	3	3	4	8	25
全	59	17	18	21	50	165
%	35.8	10.3	10.9	12.7	30.3	100.0

この結果と上述の著書のものをくらべてみるに，我々の場合，其他，不明があるため（当然其他は出てくるものと思はれるが，著書の例にはそれがない）何とも言へない。

しかし，父母ありについては相当の一致がみられる。　父母共になしについてもかなり近い。　不明其他は心理的にみて父母ありの項には入らぬものとすれば興味がある。（検討は今後の研究に俟つ）

ここで其他不明を今かりに なし と見做して，我々の場合集計してみると（其他は なし に入れることは一応首肯できる。

不明は忘却，敢て言はなかつたと見做して一応心理的にみて，なしとみることが出来るかもしれない，假りにさうしてみよう。）

次の様になる。　これは全く参考程度で信ずるには足りない。

第一に現在のもの

	父母あり	父なし	母なし	父母なし	計
2　犯	29	16	14	31	90
3　犯	13	8	10	19	50
4犯～		5	2	18	25
計	42	29	26	68	165
%	25.4	17.6	15.8	41.2	100.0

次に20才当時としたもの（この時上にのべた假定はますます怪しくなるのは言ふまでもない）

	父母あり	父なし	母なし	父母なし	計
2　犯	37	14	13	26	90
3　犯	15	6	11	18	50
4犯 ～	7	4	5	9	25
計	59	24	29	53	165
%	35.8	14.5	17.6	32.1	100.0

(ハ)　15才迄の生育環境

これは調査票の生育歴の所からまとめたものである。總括的にみるとその間に

	実父母に育てられたもの	主として実父に	主として実母に	両親の手を離れたもの
実数	88	23	11	43
%	53.4	13.9	6.7	26.0

である。

その育て方をみると

生育て方 計	きびし	普通	寛大	放縦	家庭円満	不明	計
良い	1						1
悪い		1				1	2
普通	13	17	6	3	11	14	64
病弱	1	1					2
貧困	3	1		2	2	4	12
不明		1				6	7
計	18	21	6	5	13	25	88

次に主として実父，実母にそだてられたものをみると

主として実父

生計＼育て方	きびし	稍きびし	普通	寛大	放縦	家庭円満	家庭不円満	冷淡	不明	計
良い	1								1	2
稍良い										
普通	2		3	1	2		2	2	4	16
稍貧										
貧困									1	1
不明									4	4
計	3		3	1	2		2	2	10	23

主として実母

生計＼育て方	きびし	稍きびし	普通	寛大	放縦	家庭円満	家庭不円満		不明	計
良い										
稍良い										
普通			2			1			1	4
稍貧							1			1
貧困	2								2	4
不明						1			1	2
計	2		2			2	1		4	11

なぜ片方にのみそだてられたかをみると，下の様になる，死亡の場合が多いのを知る．

同時でない父母

	主として父	主として母	計
先親死亡	18	9	27
別居	4 *		4
離婚	1	2	3
計	23	11	34

註．＊父母の間を往復しているもの1を含む

・実親の手を離れたもの

生計＼育て方	きびしい	稍きびし	普通	寛大	放縱	家庭円満	家庭不円満	不明	計
良い				1				1	2
稍良い									
普通	1		2	2		2	1	2	10
稍貧									
貧困	1		1	1				4	7
不明	1				4			19	24
計	3		3	4	4	2	1	26	43

となる。　その後のそだてた人をみると

実父母の手から離れて了ったもの.

原因＼保護者	祖父母	叔父母	親戚	兄弟姉妹	他人	継母	養父母	父の妾	計
両親死亡	1	3	2	3	1	1	1		12
片親死亡	1	2							3
家庭不和									
生活困難									
養子							2		2
奉公					12				12
片親死片親行方不明	1	2							3
手傳	1			1					2
父母離別	1	1							2
片親死再婚	2	1					1		4
不明		1						1	2
棄られる					1				1
計	7	10	2	4	14	1	4	1	43

他人によりそだてられたものが多いのは注目に値する。

次に，育て方と生計との関係をみると

生計＼育て方	きびし	普通	寛大	放縦	家庭円満	不円満	冷淡	不明	計
良い	2		1					2	5
稍良い		1						1	2
普通	16	24	9	5	14	3	2	21	94
稍貧	1	1				1			3
貧困	6	2	1	2	2			11	24
不明	1	1		4	1			30	37
計	26	29	11	11	17	4	2	65	165

となるが生計と育て方との間には，この資料からは有意な関係はみられない。

次に，ここで育て手と育て方との関係をみると

	きびし	普通	寛大	家庭円満	放縦	家庭不満	冷淡	不明	奉公	計
両実	18	21	6	13	5			25		88
主として母	2	2		2		1		4		11
主として父	3	3	1		2	2	2	10		23
両方と離れ	3	3	4	2	4	1		20	6	43
計	26	29	11	17	11	4	2	59	6	165

となる。

育て手と生計の様子をみると

	良い	稍良	普通	稍貧	貧困	不明	奉公	計
両実	1	2	64	2	12	7		88
主として母			4	1	4	2		11
主として父	2		16		1	4		23
離れたもの	2		10		7	15	6	43
計	5	2	94	3	24	31	6	165

となる。　これからは決定的なことは言へないが，今後の参考のためかかげておく。

次に，犯数別にみると，

育て方

	きびしい	普通	寛大	家庭円満	放縦	家庭不円満	冷淡	不明	奉公	計
2犯	16	18	5	8	4	2	2	29	6	90
3犯	8	10	6	4	2	1		19		50
4犯				4	2			6		12
5～	2	1		1	3	1		5		13
計	26	29	11	17	11	4	2	59	6	165

生計

	良い	稍良	普通	稍貧	貧困	不明	奉公	計
2犯	4	1	49	2	12	16	6	90
3犯	1	1	33	1	8	6		50
4犯			5		1	6		12
5～			7		3	3		13
計	5	2	94	3	24	31	6	165

で，犯数別には著しい傾向は見受けられない。15才迄の父母の状態をみると

父母の状態（15才迄）

父	死	不和	離婚	再婚	別居	道楽	健在	行方不明		計
2犯	18		4	4	1	3	57	3		90
3犯	6		2	4	1		35	2		50
4犯	4		1				7			12
5～	1	1		1			10			13
計	29	1	7	9	2	3	109	5		165
母	**死**	**不和**	**離婚**	**再婚**	**別居**	**道楽**	**健在**	**行方不明**	**奉公**	**計**
2犯	17		6	3	1		60	2	1	90
3犯	13		2		1		33	1		50
4犯	4			1			6		1	12
5～	2	1					10			13
計	36	1	8	4	2		109	3	2	165

であるがこれについても著い有意な差はみられない。

4. 犯罪関係について

(イ) 罪質

前犯，本犯の関係をみると

本犯＼前犯	窃盗	詐欺	強盗	恐喝	政令違反	ゾウ物関係	殺人未遂傷害	計	%
窃盗	120	6	1	2		1	1	131	79.4
詐欺	4	8		1				13	7.9
強盗	9							9	5.5
恐喝	5						1	6	3.6
政令違反		1						1	0.6
ゾウ物関係	2					2		4	2.4
横領		1						1	0.6
計	140	16	1	3		3	2	165	100.0
%	84.9	9.7	0.6	1.8		1.5	1.2	100.0	

窃盗が共に多く窃盗，詐欺の数は安定してゐる。数が少いため多少疑問であるが強盗が本犯に於て多く見られるのは犯罪の大膽化から言つてうなづかれる所である。詐欺は他のものにくらべ再び詐欺を犯す傾向がみうけられる。これは前調査と同様の結果である。

以上の様なことを統計的にはつきりみるために次の様な検定を行ふことが必要である。

(i) 本犯と前犯との marginal 分布構造上に差があるか否かをみてみると（（窃盗）（詐欺）（其他）に分類する）

$$\chi^2 = 6.24 \quad (D.F.2)$$

でこれより小なる χ^2 の値を得る確率は 2% と 5% との間にあり，さらに検討を要する問題である。

しかし，構成要素の χ^2 の値をみると窃盗 0.30，詐欺 0.31，其他 5.63 であつて，窃盗，詐欺の率は，前犯，本犯を通じて安定してゐるものと言へよう。問題は其他である。

(ii) 分類を窃盗，其他にわけて 2×2 分割表の検定を行ふと $\chi_c = 4.5$ となり，前犯と本犯との関係が深いことが知られる。

(iii) 次に犯罪の固着性をしらべてみよう。全体の率は安定しても固着性は別に考へねばならない。

固着性をみるためには $n \times m$ 分割表の検定方法ではよくない。これは（m）の方と（n）の方との属性間の関係の有無をみようとするものである。

さて，固着性の検定をするために

$t_2 \backslash t_1$	A_1	A_2	----	A_k	
A					$N_{1\cdot}$
⋮			N_{ij}		
⋮					
A_k					$N_{k\cdot}$
	$N_{\cdot 1}$			$N_{\cdot k}$	N

Sample 数を考へる。

さうして

$$\chi^2 = \sum_{i=1}^{k} \frac{\left(N_{ij} - \frac{N_{\cdot i}}{N}\frac{N_{i\cdot}}{N}N\right)^2}{\frac{N_{\cdot i}}{N}\frac{N_{i\cdot}}{N}N}$$

$$+ \frac{\left(\sum_{i \neq j} N_{ij} - \left(1 - \sum \frac{N_{\cdot i}}{N}\frac{N_{i\cdot}}{N}\right)N\right)^2}{\left(1 - \sum \frac{N_{\cdot i}}{N}\frac{N_{i\cdot}}{N}\right)N} \left(\begin{matrix} D.F. \\ (k-1)^2 \end{matrix}\right)$$

をつくりこれにより検定を行ふ。假設は周辺分布が一定の時（i, i）それ以外の所へのサムプルの配分が t_1，t_2 でランダムであると言ふことになる。つまり（$i\ i$）（それ以外の所）の所にかたまるか或は全くかたまらぬか否かをみるための検定である。

サムプルの値が小さいときは χ^2 の分散を計算* チェブイレエフの不等式により検定すればよいのである。

(註) * 林知己夫　適合度と χ^2 検定　講究録第6巻第4号参照

これによると前犯と本犯との間の罪質の固着性は，窃盗，詐欺其他にわけてとつてみると　$\chi^2 = 41.4$（D.F.4）　となり，有意であり，固着性は強いものと見てよい。

この χ^2 の要素をみると，窃盗では 0.7047，詐欺では 36.1 其他は 4.6 であつて，詐欺の固着性の強いため，まづこの結果の出てゐるものとみても大過はない。　其他のものについても窃盗についても，(これは絶対数は共に多いが固着性の概念には入らない。)，固着性があるとは言へないであらう。

(IV) 強盗は，本犯の方が多いか否かをみるために強盗，其他にわけて 2×2 分割表の検定を行ふと $\chi_c = 2.25$（longer tail）で有意である。　つまり　この資料からは本犯の方が強盗が多いと結論してよいであらう。

次に，最初の不良（犯を構成しない程度のもの，したがつて軽度のもの）あるものとないものにわけてみる。つまりさいしよから犯罪を犯したものと，本犯罪を犯す前に軽度の悪をおかしたことのあるものと分けてみるのである。　一応質的に差があるものと考へられるからである。

不良行為のあるものは 74 人（45.5 %）である。　不良行為を犯したものの年令は 17.8 標準偏差は 4.1 である。

犯行した時を，戦前，戦中，戦後とわけてみると，年令は夫々 16.4，19.6，20.6　となりやや高くなつてゐる傾向があるのではないかと豫想される（戦前，戦中では差がみとめられる）。

この年令分布を示すと（次頁）

m	σ	年令 / 時代	8	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
16.4	3.8	戰前	1	2	2	2	3	3	4	5	6	5	6	
19.6	4.3	戰中					1		2	2	2	3	2	1
20.6	2.3	戰后									1	1	1	2
17.8	4.1	計	1	2	2	2	4	3	6	7	9	9	9	3

	21	22	23	24	25	28	30	計
戰前	2		1	2	1			45
戰中	1	2		2		1	1	20
戰后	1		2	1				9
計	4	2	3	5	1	1	1	74

となる。

さて，不良行爲あるものについてみると，

本犯 \ 前犯	窃盗	詐欺	強盗	恐喝	政令違反	ゾウ物関係	殺人未遂	計
窃盗	58	1	1	1				61
詐欺	1	3		1				5
強盗	3							3
恐喝	2						1	3
政令違反		1						1
贓物関係	2							2
計	66	5	1	2			1	75

不良行為ないものについてみると

本犯＼前犯	窃盗	詐欺	強盗	恐喝	政令違反	ゾウ物関係	傷害	計
窃盗	62	5		1		1	1	70
詐欺	3	5						8
強盗	6							6
恐喝	3							3
横領		1						1
ゾウ物関係						2		2
計	74	11		1		3	1	90

となり、両者の間に傾向的に差はみとめられない。

最初の不良行為と本犯，前犯との関係をみると，次の様になる。今後の参考資料となると思れるので一応かかげておく。

不良＼前	窃盗	詐欺	強盗	恐喝	殺人未遂	計
窃盗	16	1		2		19
経違反	1	1				2
喧嘩	12	1	1		1	15
不良狩	4	1				5
賭博	11	1				12
不法所持	2					2
放浪	2					2
傷害	1					1
その他	10					10
恐喝	1					1
思想犯	1					1
家出	3					3
ゾウ物	1					1
不明	1					1
計	66	5	1	2	1	75

不良＼本	窃盗	詐欺	強盗	政違反	ゾウ物	恐喝	計
窃盗	15	3			1		19
経違反	2						2
喧嘩	11		2	1		1	15
不良狩	4	1					5
賭博	11	1					12
不法所持	2						2
放浪	2						2
傷害						1	1
その他	8		1			1	10
恐喝	1						1
思想犯	1						1
家出	3						3
ゾウ物					1		1
不明	1						1
計	61	5	3	1	2	3	75

次に犯数別に罪種をみると，

罪　質（前犯）

	2犯	3犯	4犯	5以上	計
窃盗	75	45	9	11	140
故意	1	1			2
詐欺	10	2	3	1	16
恐喝	2	1			3
傷害		1			1
強盗	1				1
ｶﾞ保	1				1
殺人未遂				1	1
計	90	50	12	13	165

罪　質（本犯）

	2犯	3犯	4犯	5以上	全
窃盗	67	44	9	11	131
詐欺	9	2	2		13
強盗	7	2			9
政令違反	1				1
賍物運搬	2			1	3
恐喝	1	2		1	4
家宅侵入			1		1
故意	1				1
横領	1				1
恐喝ｻｷﾞ	1				1
	90	50	12	13	165

で，犯数間に著しい差はみとめられない．

犯数別に不良行為あるものと，ないものとわけてみると

	あるもの	ないもの	計
2　犯	44	46	90
3　犯	19	31	50
4犯以上	12	13	25

χ^2 ― 検定を行ふと $\chi^2 = 1.616$ （D.F 2）

となり，犯数と不良行為の有無との間に有意な関係はみとめられない。

犯数別にさらにこまかくみると罪質の点では次の様になる。

2　犯，罪質

本＼前	窃盗	詐欺	強盗	恐喝	ガ保	故意	
窃盗	63	1	1	2			67
詐欺	2	7					9
強盗	7						7
恐喝	1						1
政令反		1					1
運搬	1				1		2
恐喝サギ	1						1
故意						1	1
横領		1					1
	75	10	1	2	1	1	90

3 犯

前＼本	窃盗	故意	詐欺	恐喝	傷害	
窃盗	39	1	2		1	43
詐欺	1			1		2
強盗	2					2
恐喝	3					3
	45	1	2	1	1	50

3犯以上のものについては初犯との関係をみる必要があるがそれについて一応とってみると

3 犯　　罪質の関係

前＼初	窃盗	詐欺	徴用逃亡	不法所持	公文偽造	不明	
窃盗	23	2	1	1	1	17	45
故意	1						1
詐欺	1	1					2
恐喝		1					1
傷害						1	1
	25	4	1	1	1	18	50

である。　不明が多いのは（調査票でとる様にして居なかった）遺憾であった。

4 犯以上では

前＼本	窃盗	詐欺	恐喝	ゾウ物	計
窃盗	19			1	20
詐欺	2	2			4
殺人			1		1
計	21	2	1	1	25

となるが犯数間には前犯，本犯の関係に全体の傾向とくらべ著し

い差はみとめられない。　又，さらに犯数別に最初の不良行為あるものと，ないものにわけてとつてみると

（2犯，不良行為あるもの）

本＼前	窃盗	詐欺	強盗	政令違反	賦物運搬	恐喝	
窃盗	31	1	1			1	34
詐欺	1	3					4
強盗	3						3
政令		1					1
運搬	1						1
恐喝	1						1
	37	5	1			1	

（2犯．不良行為のないもの）

本犯＼前犯	窃盗	強盗	詐欺	恐喝	故意	賦物が保	
窃盗	31		1	1			33
強盗	4						4
詐欺	2		3				5
恐喝							
横領			1				1
恐喝サギ	1						1
故意					1		1
運搬						1	1
	38		5	1	1	1	46

（3犯，不良行為あるもの）

本＼前	窃盗	恐喝	
窃盗	17		17
詐欺横領		1	1
恐喝	1		1
	18	1	19

（3犯，不良行為ないもの）

本＼前	窃盗	故意	詐欺	傷害	
窃盗	22	1	2	1	26
詐欺	1				1
強盗	2				2
恐喝	2				2
	27	1	2	1	31

（4犯以上．あるもの）

本＼前	窃盗	殺人	計
窃盗	10		10
恐喝		1	1
ゾウ物	1		1
計	11	1	12

（4犯以上．ないもの）

本＼前	窃盗	詐欺	計
窃盗	9	2	11
詐欺		2	2
計	9	4	13

となるがどの間にも有意な差は認められない。

（ロ）犯罪地

全体についてみると

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計	%
1	30	9	12	10	3	2	4	70	42.4
2	14	8	3	4			4	33	20.0
3	4	4	12	3	3		1	27	16.4
4	1	1	2	3	1		3	11	6.7
5				2				2	1.2
6									
7	5	3		2	1		11	22	13.3
計	54	25	29	24	8	2	23	165	100.0
%	32.7	15.2	17.6	14.5	4.9	1.2	13.9	100.0	

コード，は下の通りである．

1. 住宅地　2. 商店繁華　3. 町はずれ農業地

4. 工場会社学校　5. 倉庫　6. その他　7. 不明

となり，前犯，本犯を通じてみるに個人的には相当うごき，ことなつてゐる。

今，Marginal で差があるか否かをみると $\chi^2 = 12.6$ (D.F.4) となり有意な差がみとめられる。

今 χ^2 の構成要素をみると

住　宅	2.1
商　店	1.1
町はづれ	0.1
其の他	9.4

（工場，倉庫，其の他）

となり，差の生ずるのは工場倉倉等の所であり他はさう変つてはゐない。　今又，上の分類によつて犯罪地の固着性をみると，$\chi^2 = 31.3$ (D.F.9) となつて固着性は強いものとみられる。

ことに町はずれ，其他における寄與が大きい。

これを，罪質別にみると

前　犯

罪質＼犯罪地	1	2	3	4	5	6	7	計
窃盗	50	19	26	21	8	2	14	140
詐欺	3	5	1	2			5	16
強盗			1					1
恐喝		1	1				1	3
ゾウ物	1			1			1	3
殺人未遂							1	1
傷害		1						1
計	54	26	29	24	8	2	22	165

（本　犯）

犯罪地 / 罪質	1	2	3	4	5	6	7	計
窃　盗	58	26	23	11	2		12	132
詐　欺	3	5	2				4	14
強　盗	5		3				1	9
恐　喝	1	1		1			1	4
ゾウ物	1	1					2	4
横　領	1							1
政令違反	1							1
計	70	33	28	12	2		22	165

となる。

犯数別にみると

2　犯

前 / 本	1	2	3	4	5	6	7	計
1	16	4	5	6	3	1	3	38
2	8	6	2				3	19
3	3	3	5	3	2			16
4	1	1	1	2			1	6
5				1				1
6								
7	4	1			1		4	10
計	32	15	13	12	6	1	11	90

3 犯

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	10	3	6	3		1	1	24
2	3			3				6
3	1	1	6				1	9
4				1	1		1	3
5				1				1
6								
7		2					5	7
計	14	6	12	8	1	1	8	50

4 犯

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	4	2	1	1				8
2	3	2	1	1			1	8
3			1		1			2
4			1				1	2
5								
6								
7	1			2			2	5
計	8	4	4	4	1		4	25

まづ，2犯の本犯と3犯の前犯（つまり2犯）との関係をみるに $\chi^2 = 8.4$（D.F.4）となり有意な差はみとめられない。

次に，2犯の本犯と3犯の本犯との関係をみるに $\chi^2 = 2.0$（D.F.4）となり，有意な差はみとめられない。

因に，2犯3犯の前犯の関係をみると $\chi^2 = 3.0$（D.F.4）となる

犯数別に犯罪地の関係にはさう著しい差はみとめられない。

但し2犯の本犯と3犯の前犯との関係よりも本犯は本犯，前犯は前犯の関係の方が強いと言へるかもしれない。

次に，不良行爲あるもの，ないものにわけてみると

全　不良行爲あり

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	14	5	6	2	1		1	29
2	7	5	1	1			1	15
3	1	1	4	1	2		1	10
4		1	2	2			3	8
5				1				1
6								
7	4	1		1	1		5	12
計	26	13	13	8	4		11	75

全　不良行爲なし

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	16	4	6	8	2	2	3	41
2	7	3	2	3			3	18
3	3	3	8	2	1			17
4	1			1	1			3
5				1				1
6								
7	1	2		1			6	10
計	28	12	16	16	4	2	12	90

本犯について不良行爲あるもの，ないものにわけて犯罪地の間に差があるか否かみるに　$\chi^2 = 4.2$　(D.F. 3)　であり，有意な差はみとめられない。

次に，不良行爲あるもの，ないものを犯数別にわけてみると，

2犯，犯罪地，不良あり

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	9	3	2	2	1		1	18
2	4	3	1				1	9
3	1	1	2	1	1			6
4		1	1	1			1	4
5				1				1
6								
7	4				1		1	6
計	18	8	6	5	3		4	44

3犯

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	5	1	3					9
2	1							1
3			2				1	3
4				1			1	2
5								
6								
7		1					3	4
計	6	2	5	1			5	19

4犯，不良あり

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1		1	1					2
2	2	2		1				5
3					1			1
4			1				1	2
5								
6								
7				1			1	2
計	2	3	2	2	1		2	12

2犯，不良なし

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	7	1	3	4	2	1	2	20
2	4	3	1				2	10
3	2	2	3	2	1			10
4	1			1				2
5								
6								
7		1					3	4
計	14	7	7	7	3	1	7	46

3犯　不良なし

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	5	2	3	3		1	1	15
2	2			3				5
3	1	1	4					6
4					1			1
5				1				1
6								
7		1					2	3
計	8	4	7	7	1	1	3	31

4犯　不良なし

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	計
1	4	1		1				6
2	1		1				1	3
3			1					1
4								
5								
6								
7	1			1			1	3
計	6	1	2	2			2	13

であり，犯数間にも関係の上からみて著しい差は認められない。

（八） 動　　機

前犯と本犯との関係をみると

本＼前	0	1	3	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17	計	%
0	19	1	1					2	4		1		2			30	18.2
1								1	1							2	1.2
3				2					3							5	3.0
5				2					1		1				1	5	3.0
6	1			1	1			1	1		1					6	3.7
7	3			1	1	10		4	2		1					22	13.3
8			1				1	1	1							4	2.4
9			1		1		1	14					2			19	11.5
10	6			2	1		1	6	26		2	1				45	27.3
11	2					1			2	2						5	3.0
13								1			4					5	3.0
14																	
15	1				1		1				1		5		1	10	6.1
16														1		1	0.6
17	1				1											2	1.2
不明													1			1	0.6
計	33	1	3	8	6	11	4	30	41	2	11	1	11	1	2	165	100.0
%	20.0	0.6	1.8	4.8	3.6	6.7	2.4	18.2	24.9	1.2	6.7	0.6	6.7	0.6	1.2	100.0	

このコードは

Code	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17
	生活苦	家庭不和	必要費	衝動的	交友不良	怠惰	小遣銭	遊興費	物慾	職業的	賭博	しつと	放浪中困る	なし	復讐
	○	▽	○	×	△	×	△	△	△	×	△	▽	○	×	▽

高い順にみるとサムプルでは

前犯では　10，0，9，（7，13，15）の順

本犯では　10，0，7，9，10，13　の順

であり順位の大なるものではさうくるひはない。

犯別にみると

本＼前	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17	2犯	3犯	4・5以上
1	11 ①	1	1					1 ①	3 1		1		3			18	8	④
2								1	1							1	1	
3				2					1 ①							3	1	①
5				1 ①					1		①				1		3	②
6	1			1	1			1	1		1					4	2	
7	1 ①			1	1	5 ②		2 1 ①	2		1					13	5	④
8			1				1	1	1							3	1	
9			3		1		1	6 1 ①					2			8	10	①
10	3 1 ①			1	1		1	3 3	17 ④		1 1		①			27	12	⑥
11	1 ①					1			1 ①	②			1			2	3	④
13								1			2 1					3	2	
14																		
15	1				1		1				①		2 ①		1	6	2	②
16														①				①
17	1				1											1	1	
不明													1			1		
2犯	18	1	2	4	3	6	3	16	25		6		5		1	90		
3犯	9		1	3	3	3	1	1	10		3		3		1		30	
4,5以上	⑥			①		②		③	⑥	②	②	①	①	①				㉕

犯数別にみると9の所でやや差があるようにみえるが（其の他では大差はない）犯数の大なるにつれて組織的な関係はみとめら

れないため本質的なものでないと思はれる。

不良行爲の有無についてみると，

不良行爲なしの全ぶ

本＼前	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17	不明	計
1	15	1							1				1				18
2									1								1
3				2					3								5
5									1						1		2
6				1				1									2
7	3			1	1	5		3	2								15
8									1								1
9			1					7									8
10	3			2				5	12		1						23
11	2					1			1	1			1				6
13											3						3
14																	
15					1						1		2				4
16														1			1
17																	
不明													1				1
計	23	1	1	6	2	6		16	22	1	5		5	1	1		90

不良行為あり，の全ぶ

前＼本	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17	不明	計
1	4		1					2	3		1		1				12
2								1									1
3																	
5				2							1						3
6	1				1				1		1						4
7						5		1			1						7
8			1				1	1									3
9					1		1	7					2				11
10	3				1		1	1	14		1	1					22
11									1	1							2
13								1			1						2
14																	
15	1						1						3		1		6
16																	
17	1				1												2
不明																	
計	10		2	2	4	5	4	14	19	1	6	1	6		1		75

（二）当時の生活環境

本＼前	1	2	3	5	6	7	8	9	11	12	17	該当外 不明	計
1					1								1
2	1	6	2	1			1	1			1		13
3		8	24	1	1	2	4						40
5				2	2		2	4					10
6		3	1	5	18		4	2					33
7			1		1			1					3
8		1		1		1	12						15
9		4	6	3	8			21					42
11		1											1
12		1							1	1			3
17											1		1
該当外 不明					1							1	2
18								1					1
計	1	24	34	13	32	3	23	30	1	1	2	1	165

当時の生活環境

1 良い
2 普通
3 生計困難
5 徒食
6 職あり
7 職なし
8 よたもの的生活
9 放浪中
11 健康わるし
12 自棄的
17 環境わるし
18 出所后直ぐ

前犯の時，3，6，8，9 のものは，本犯の時も同様の環境である場合が多い。

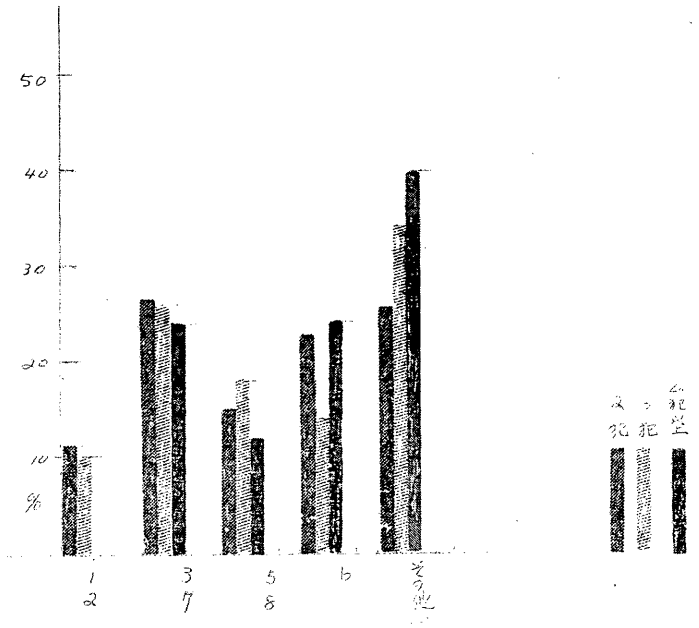
Marginal の分布上に本犯と前犯との間の関係をみるに，$\chi^2 = 8.19$ (D.F.4) であつてこれより大なる χ^2 を得る値は，5 % と 10 %との間にある。 全体的にみてまづ生活環境は本犯の方がやや悪目ではなからうか。 この時のコードのまとめ方は (1,2)，(3,7)，(5,8)，(6) (其他) である。

しかし，次に固着性をみるに $\chi^2 = 134.0$ (D.F.16) であつて固着性は強いものとみとめられるので，本犯も前犯も同様な生活環境において犯罪を犯しておるものが多い傾向にあると考へてよい。

犯数別に本犯のみをみると

全 生活環境 本犯

	2 犯	3 犯	4 犯	5以上	全
1	1				1
2	9	4			13
○3	22	12	2	4	40
△5	8	2			10
6	20	7	3	3	33
○7	2	1			3
△8	5	7	2	1	15
9	20	13	5	4	42
11		1			1
12	2			1	3
17		1			1
18		1			1
該当外	1	1			2
	90	50	12	13	165



	2犯	3犯	4犯	5〜
1,2	10	4		
3,7	24	13	2	4
5,8	13	9	2	1
6	20	7	3	3
その他	23	17	5	5
	90	50	12	13

ここで、分類 1+2, 3+7, 5+8, 6, 其他とわけて犯数別に環境との分布に差があるかどうかをみるに有意な差はみとめ難い。

生活環境

不良行為あり

本＼前	1	2	3	5	6	7	8	9	11	12	17	Dimention 外	計
1													
2	1	4		1			1	1			1		9
3		1	11		1	1	3						17
5				1			1	1					3
6			1	2	8		2	1					14
7					1								1
8		1		1		1	6						9
9		3	4	1	1			8					17
11													
12		1							1	1			3
17													
Dimention 不明					1							1	2
計	1	10	16	6	12	2	13	11	1	1	1	1	75

不良行為なし

本＼前	1	2	3	5	6	7	8	9	11	12	17	Dimention 外	計
1					1								1
2		2	2										4
3		7	13	1		1	1						23
5				1	2		1	3					7
6		3		3	10		2	1					19
7			1					1					2
8							6						6
9		1	2	2	7			13					25

11		1											1
12													
17											1		1
18								1					1
計		14	18	7	20	1	10	19			1		90

Marginalについて本犯同志の生活環境上の差をみるに，$\chi^2 = 2.4$（D.F.4）となり，不良行為の有無において差はみとめられない。　これを不良行為の有無について分類し本犯，前犯の関係をみるに有意な差はみとめられない。

最初の不良行為あるものの本犯との関係をみると，

本犯＼不良	1	2	3	5	6	7	8	9	11	12	17	不明	計
1													
2	2	3					1					3	9
3	1	4	1		1		1					9	17
5		1						1				1	3
6		1			3		1					10	15
7		1											1
8		2					2	1				4	9
9			3	1	2							10	16
11													
12		1					1					1	3
17													
不明			1									1	2
計	3	13	5	1	6		6	2				39	75

（ホ） 共犯関係

共犯関係 × 犯数

犯数＼共犯	有有	有無	無有	無無	無不明	計
2 犯	19	11	12	46	2	90
3 犯	9	6	11	23	1	50
4犯以上	2	3	2	18		25
計	30	20	25	87	3	165

前犯，本犯ともに共犯のないものは約半数であり，共に共犯のあるもの約20％である。犯数別にみても共犯関係に於て差はみとめられない。

次に，年令別にみると

共犯関係 × Age.

Age＼共犯	有有	有無	無有	無無	無不明	計
21－25	18	7	12	28	2	67
26－30	7	8	6	24	1	46
31－35	3	2	4	10		19
36－40	1	1	2	6		10
41－45		2		13		15
46以上	1		1	6		8
	30	20	25	87	3	165
		75		90		

となる。若年の方が共犯が多いのではないかと言ふことをみるために，

	有　有	無有＋有無	無　無	計
21 － 25	18	19	28	65
それ以上	12	26	59	97

とまとめ χ^2－検定を行ふと $\chi^2 = 7.3$ （D. F. 2）となり，これにより小なる χ^2 を得る確率は 2％ と 5％ との間にあり，年令との関係は早急に結論を出すことは出来ない，さらに研究の要があると思はれる．

有有 有無 無有について前犯本犯関係で主犯，共犯，従犯の比率をとつてみると

		主	共	従	不明	計
有有	前	(11) 37.9	(5) 17.3	(12) 41.4	(1) 3.4	(29) 100.0 %
	本	(13) 44.8	(4) 13.8	(12) 41.4	—	(29) 100.0
有無		(8) 42.1	(4) 21.1	(7) 36.8	—	(19) 100.0
無有		(7) 26.0	(10) 37.0	(10) 37.0	—	(27) 100.0
計	前	(19) 39.6	(9) 18.7	(19) 39.6	(1) 2.1	(48) 100.0
	本	(20) 35.7	(14) 25.0	(22) 39.3	—	(56) 100.0

となる。　前犯と本犯との間で共犯関係の種類は大差はない。
カッコ内数字は絶対数

（ヘ）　自首の有無

自首したもの全体を通じ 3％に満たなかつた．

（ト）　情状酌量の有無

	有有	有無	無有	有不明	無無	無不明	不明不明	計
2犯	3	10	6	2	58	7	4	90
3犯	3	3	2	0	37	2	3	50
4犯以上	0	2	1	1	20	0	1	25
計	6	15	9	3	115	9	8	165

2犯の本犯，3犯の前犯についてくらべると

	有	無	不　明	計
2　犯	10	69	11	90
3　犯	5	43	2	50

となる。一応，不明をぬかすと全く差はみられない。

（4）　前犯と本犯との関係（被害，共犯関係で）

前犯と関係のあるものは少いと思はれる。

共＼被	有	無	不　明	計
有	0	4	0	4
無	3	152	0	155
不　明	1	3	2	6
計	4	159	2	165

犯別にみても特色はない。

2 犯

共＼被	有	無	不明	計
有	0	2	0	2
無	1	82	0	83
不明	1	3	1	5
計	2	87	1	90

共有 { 親
同じ 3人

被有 { 同じ別荘
物干等にあるもの
（同じではないらしい）

3 犯

共＼被	有	無	不明	計
有		2		2
無	2	46		48
不明				
計	2	48		50

被有のうち 場所が同じ
場所が家の近くの農家

4 犯

＼	無
無	12

5 犯以上

共＼被	無	不明	
無	12		12
不明		1	1
	12	1	13

（4） 犯罪歴について

居住歴，職歴とあはせたものを犯数別に表すと第一図，第二図，第三図の様になる。

おもてのパラフィン紙は，居住，職，其の他のことを記入してある。

罪質

- ●
  - 青　窃　盗
  - 緑　詐　欺
  - 橙々恐　喝
  - 桃　強　盗
  - 茶　喧　嘩
  - 紫　賭　博
- ●
  - 黄　女　遊び
  - 赤　恩　想
- ▲
  - 黄　不　法　所　持
  - 橙々傷　害
  - 黒　経　済　違　反
  - 青　窃　盗
- ○
  - 赤　運　搬
  - 茶　横　領
  - 青　侵　入
  - 黄　故　意
  - 桃　政　令　違　反
  - 紫　ちょう用逃れ
- △ 緑　家　出

職業 Code

職業	Code
ナシ（不定）	0
人夫土工	1
大工左官トビ	2
徒食	3
大工業工員	4
小工業職人	5
サービス	6
娼婦的	7
ブローカー	8
漁業	9
農業	10
船員	11
鑛業人夫	12
商的産人	13
商工業主	14
俸給者	15
露店	16
日雇	17
闇屋	18
遊興的	19

犯数別に年令の順

上の数字 ------年令

横線
- うす赤　不良から初犯まで
- 赤　在社会期間
- 黒鉛筆　受刑期間

○又は△
- 罪質を表はす（不良行為を含めて）
- その位置は犯行時をあらはす

○又は△の側の数字　犯行時の職業をあらはす

注意　横線の点線になつてゐる箇所は期日不明のためである。

これらの図をいくつかの立場からまとめることが出来る。以下には犯罪関係のみをみよう。　其他のものは関係した項目の時触れることにした。　この所は前の犯罪関係の所とあわせみられたい。

（i）犯行から犯行迄の期間について

在社会期間に関する資料が明瞭に曖昧なため，犯行から犯行迄の期間をとつてみると次の様になつた。

サンプル数 157名

平　均　月　数　（5犯までのものについて）

戦　争	初 ～ 2犯	2犯 ～ 3犯	3犯 ～ 4犯
前 ～ 前	(7)　27.1		
前 ～ 中	(2)　57.5		
前 ～ 后	(5)　57.5	(7)　57.5	(2)　57.5
中 ～ 中	(2)　7.3		
中 ～ 后	(20)　36.2	(3)　46.5	(1)　57.5
后 ～ 后	(121)　15.5	(57)　16.3	(13)　19.2
計	20.4	21.7	18.2

（　）内数字はサンプル数

数字は平均月数である。

㊟　この数字は直ちに在社会期間に関する知識を與へるものではない。　これには在社会期間，刑期，釋放時期等が関係してゐるのである。　然しいづれにしても犯行から犯行までの期間がみぢかいと言ふことは短時日の間に同一人が犯罪を犯し，その人が社会に悪影響を與へてゐることを示してゐるものである。

さて，期間から期間迄の平均，標準偏差を出してみると，

	初～2犯	2～3犯	3～4犯
前——前	27.1 / 19.6		
中——後	36.2 / 15.7		
後——後	15.5 / 8.5	16.3 / 9.2	19.2 / 8.6

平均 / 標準偏差

戦後－戦後の方が以前のものにくらべて，犯から犯までの期間はながく，戦後戦後のものでも犯数が大なるにしたがつても期間のながくなる傾向がみられる。

犯数別にみると

2．犯　　犯罪から犯罪の期間（すべて戦後犯罪）

前－本 / Age	2 月 0～4	7 月 5～9	12.5 10～15	18.5 16～21	24.5 22～27	30.5 28～33	36.5 34～39	計	平均
21～25		11	16	10	3	1	1	42	14.3
26～30	1	5	16	2	3			27	12.9
31～35		2	4	3	2			11	15.3
36～40		1	3		1			5	13.8
41～45		1	1					2	9.8
46～		1	1		1			3	14.7
計	1	21	41	15	10	1	1	90	13.9

年令によつていちぢるしい差はみとめられない。

平均的にみると約1年2ヶ月である。

3犯についてみると（初犯と2犯との関係）次の様になる。ただし，これには一部戦中のものが含まれてゐる。

3　犯

初～前 age	0 月～4 月	1 5～9	2 10～15	3 16～21	4 22～27	5 28～33	6 34～39	7 40～51	8 52 月以上	計
21～25		2	6	2	4	4	1	4		23
26～30		1	4	3	3		2		4	17
31～35			1					1	1	3
36～40			1			1				2
41～45					1		1		2	4
46 以上									1	1
計		3	12	5	8	5	4	5	8	50

平均28.9

3　犯

前～本 age	0 月～4 月	5～9	10～15	16～21	22～27	28～33	34～39	40～51	52 以上	計
21～25		4	11	4	2	1		1		23
26～30	1	4	5	5	1	1				17
31～35		1	2							3
36～40			1	1						2
41～45			1	2	1					4
46～									1	1
計	1	9	20	12	4	2		1	1	50

平均 16.0

平均的にみると（初－前）犯より，（前－本）犯の方がはるかに期間がみぢかくなつてゐる。

その，ちらばり方（時期的ひろがり）もはるかに小さくなつてゐる。　この事は全く注目に値する。　刑期の点，釋放時期の点（初犯の時よりも再犯時の方がむしろながいと思はれる）からみてもこの数字は犯罪の頻発性をものがたるものである。

ここで各人について（初－前）犯，（前－本）犯についての時期の関係をみてみよう、　まづ相関表をとってみると

3　犯

初～前	m 29.15	σ 16.77
前～本	m 15.98	σ 9.54

$\rho = -0.060$

前＼初 本＼前	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
0									1	1
1			1	1	1	1		2	3	9
2		2	5	1	6	2	1	2	1	20
3			3	2	1	2	1		3	12
4		1	2				1			4
5			1				1			2
6										
7				1						1
8									1	1
計		3	12	5	8	5	4	4	9	50

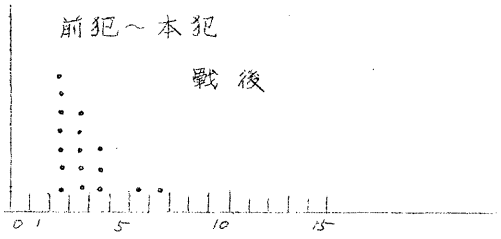
このCodeのいみは

月	月	
0～	4	0
5～	9	1
10～	15	2
16～	21	3
22～	27	4
28～	33	5
34～	39	6
40～	51	7
52～		8

（初－前）犯　平均 29.15　標準偏差 16.77
（前－本）犯　〃　15.98　〃　9.54
相関係数　－0.06　となる。
両者の間に強い関係はみうけられない。
つまり（初－前）犯で期間の長いもの今度必ずしも長いとはかぎらず，その間に一定の傾向はみうけがたい。　この結果も興味ある所である。　言はば犯行は本性的のものでなく多く偶然的條件に左右されてゐると言ふことを示すのかもしれない。

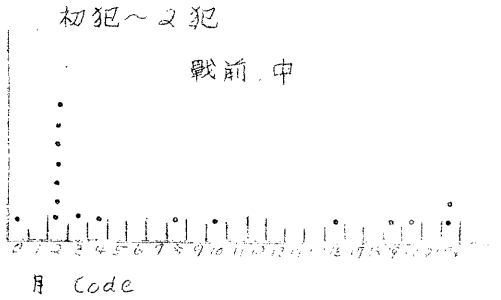
次に，期間の上で差があるか否かをみるために Code を，（0，1，2）（3）（4以上）とまとめて χ^2－検定を行うと，$\chi^2 = 20.6$（D.F.2）となり，有意な差がみとめられ，初－前よりも，前－本犯の方が期間がみじかくなってゐる傾向がみられる。

4犯 ＋ 5犯のものについてみると



犯から犯までの期間
Code

0.	0～4
1	5～9
2	10～15
⋮	
	5ヶ月間隔



となり犯行の期間は全くちがってゐることを知る

次に，3犯のものについて年令別にわけて犯行期間の相関をとると次の様になるが年令別にはいちぢるしい差はみられない。

年令別犯行期間の相関

21～25才

初犯前科 ＼ 前犯前科	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
0										
1			1		1	1		1		4
2		1	3	1	3	1		2		11
3						2	1		1	4
4		1	1							2
5			1							1
6										
7				1						1
計		2	6	2	4	4	1	3	1	23

31～51才

初犯前科 ＼ 前犯前科	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
0										
1								1		1
2			1		1	1			1	4
3			1						2	3
4							1			1
5										
6										
7										
8									1	1
計			2		1	1	1	1	4	10

26～30才

初犯前科 ＼ 前犯前科	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
0									1	1
1				1					3	4
2		1	1		2		1			5
3			2	2	1					5
4			1							1
5							1			1
6										
7										
8										
計		1	4	3	3		2		4	17

(ii) 初犯の年令

さきに最初の不良行為についてみたが，今度は戦前，中，後について初犯の年令分布をみてみよう。

初犯の時期

初犯年令 age	戦前	戦中	戦后	計
16	1			1
17	2	2		4
18	1	1	1	3
19	1	4	5	10
20	4	2	13	19
21	2	3	17	22
22	1	3	15	19
23		2	5	7
24	2	1	10	13
25	3		9	12
26	2	2	12	16
27				
28	1		3	4
29			4	4
30	1		5	6
31			1	1
32			4	4
33	1		4	5
34			3	3
35				
36			1	1
37			1	1
38	1		1	2
39			1	1
41			4	4
45			1	1
50			1	1
57			1	1
計	23	21	122	165
平均	23.3	20.1	26.0	

平均を出すと右の如くなる戦事中の初犯年令の低いのは年の多いものは兵役に服してゐたためであらう。

戦前，戦後では目にみえたいちぢるしさは感じられない。

因に若年20才以下のものは別としてをつくると年令分布上にも戦前戦後に差のないことがたしかめられる。

	戦前	戦後
21-25	8	56
26以上	6	47

次に，さらに犯数別にわけてみると次の通りになる。

初犯の年令

時期 / 年令 \ 犯数	戦前 2 3 4以上	戦中 2 3 4以上	戦後 2 3 4以上
15～20	0 2 7	0 8 1	12 7 0
21～25	0 0 8	0 8 1	44 11 1
26～30	0 0 4	0 2 0	19 5 0
31～35	0 0 1	0 0 0	7 4 1
36～40	0 0 1	0 0 0	3 1 0
41～45	0 0 0	0 0 0	3 2 0
46以上	0 0 0	0 0 0	2 0 0
平均	—17.5 23.3	—21.1 20.3	25.8 25.7 28.0

戦後において2，3犯の間に差は少いものとみうけられる。
後についてはサムプル少なるため何とも言へない。

（iii）罪質の関係

犯数別にみると

2犯　罪質

前＼本	窃盗 〃	窃盗 詐欺	詐欺 〃	詐欺 窃盗	其の他 同	其の他 異	計
a	29		1	1	1	2	34
b	22	1	3			5	31
c	13	1	2	1	1	7	25
Total	64	2	6	2	2	14	90

a, b, c は，在社会期間をあらはし

a ……2ヶ月未満

b ……2ヶ月～6ヶ月未満

c ……6ヶ月以上

である。

今，同一犯罪，異種犯罪にわけて，
a, b, c 間で差の有無をみるに $S^2_{(a)} = 0.0122$ 判別値が 0.53 となり有意な差はみとめられない。つまり，罪質の区別は在社会期間と有意な関係がみられない。

次に，3犯，4犯についてみると

3 犯

初	窃	窃	その他	窃	不明	不明		◎	サギ	計
前	〃	〃	窃	その他	窃	異	異	×	〃	
本	〃	その他	〃	窃	〃			◎	セフ	
3a	6		3	2	7	1	2	1		22
3b	10		3		3	1			1	18
3c	4	1			5					10
計	20	1	6	2	15	2	2	1	1	50

◎ は同一罪質をあらわす。

4 犯

初犯	窃	その他	窃	不明	窃	サギ	サギ	不明	
2犯	〃	窃	その他	〃	〃	〃	〃	〃	
前	〃	〃	窃	窃	〃	〃	その他	サギ	計
本	〃	〃	〃	〃	その他	〃	サギ	窃	
4a	1	1	1		1	1			5
4b	1	2							3
4c		1		1			1	1	4
計	2	4	1	1	1	1	1	1	12

である。

2犯のものについて，窃盗の率 86.7% その他の率 13.3% としてみて初犯と2犯，との間で罪質の関係が独立におこるものとみると

2犯	窃	窃	其他	其他	計
	〃	其他	窃	其他	
計算*	68	10	10	2	90
実際	64	11	4	11	90

囲＊ 計算と言ふのは独立におこるとの假説である。
となり，マクロ的にみるとき独立におこるものとの假説を棄却できない，3犯の時も同様の考への下に出してみると

3 犯

	窃	窃 2	窃 1	その他	計
	3	その他 1	その他2	3	
計 算	22	24	3	1	50
実 際	20	24	1	5	50

となり，2犯の時と同様の傾向が見受けられる。 この事はミクロ的にみた第二章の時の罪質の固着性の箇所の議論をさらにうらがきするものである。（窃盗と其他にわけた時の論述）

（IV） 職業と罪質との関係

さきに職業についてはのべたがここでは犯行時期，犯数と，職業，罪質との関係をみてみよう。

戦後の初犯

職＼罪	窃盗	詐欺	恐喝	強盗	運搬	不法所持	不明	故売	計
なし	11						4		15
徒食	12		1	1					14
人夫土工	38	2				1	2		43
大工左官	5	2	1						8
勤務者	16	3					1		20
商人	9	2			1		1	1	14
農業	3	1					1		5
不明	1						3		4
計	95	10	2	1	1	1	12	1	123

戦后の2犯目

職＼罪	窃盗	詐欺	恐喝	強盜	賭博	ぞう物関係	横領	政令違反	傷害	不明	計
なし	26	2		1	1	1			1		32
徒食	15	2	1	2				1			21
人夫大工	40	1				1	1			1	44
大工左官	5	1		2							8
勤務者	11	1	1								13
商人	13	1				2					16
農業	3	2									5
不明	6		1								7
計	119	10	3	5	1	4	1	1	1	1	148

戦前中の初犯

職＼罪	窃盜	詐欺	ちょう用逃	賭博	公文偽造	不法持	逃亡	不明	計
なし	1							4	5
徒食	2	1						1	4
人夫土工	1		1					2	4
大工左官	3							3	6
勤務者	1	2	2	1		1		3	10
商人	3	2						3	8
農業									
不明	1							2	3
軍					1		1		2
計	12	5	3	1	1	1	1	18	42

戰前中の2犯目

職＼罪	窃盜	しん入	サギ	横領	上官暴行	不明	計
なし	3					3	6
徒食						1	1
人夫土工			1			1	2
大工左官							
勤務者							
商人	1			1			2
農業						1	1
不明	2	1				3	6
軍					1		1
計	6	1	1	1	1	9	19

戰后3犯目

職＼罪	窃盜	詐欺	恐喝	故意	傷害	計
なし	10				1	11
徒食	8	1	1			10
人夫土工	20	2		1		23
大工左官	3					3
勤務者	4	1				5
商人	7	1				8
農業	2					2
不明	1					1
計	55	5	1	1	1	63

戦前中 3犯目

職＼罪	窃盗	不明	計
なし		3	3
徒食	2	1	3
人夫土工		1	1
大工左官			
勤務者			
商人			
農業		1	1
不明	1	3	4
計	3	9	12

戦後犯罪の初犯，2犯，3犯 間での職業分布（全体及び窃盗）の関係をみると

	窃盗			全体		
職業＼	初犯	2犯	3犯	初犯	2犯	3犯
なし	11	26	10	15	32	11
徒食	12	15	8	14	21	10
人夫土工	38	40	20	43	44	23
大工左宮	5	5	3	8	8	3
勤務者	16	11	4	20	13	5
商人	9	13	7	14	16	8
農業	3	3	2	5	5	2
不明	1	6	1	4	7	1
計	95	119	55	123	146	63

となる。

今，全体について，初犯と2犯以上とにわけて χ^2 検定を行ふと $\chi^2 = 8.25$（D.F.6）となり，有意な差はみられない。

しかし，これをわけて，なしと其他勤労者と分類をかへてみると $\chi^2 = 7.07$（D.F.2）でこれより大なる χ^2 を得る確率は2%－4%の間にある。信頼度を甘くすれば有意とみなすことが出來，初犯には「なし」が少く「勤労者」が多い傾向がみられる。この事は甚だ興味ある所で，理論的にも首肯せられる所である。

戰前中の初犯，戰後の初犯との間で，職名分布上の差をみると

職業	戰前中の初犯	戰后の初犯
なし	5	15
徒食	4	14
人夫土工	4	43
大工左官	6	8
勤務者	10	20
商人	8	14
農業		5
不明	3	4
軍	2	
計	42	123

となる。定性的にみても戰後とはおもむきをことにする，なし，徒食は同じ傾向であるが戰後は人夫，土工，が多く，又大工，勤務者，商人に於て少い傾向がみられる，特に農業が戰後にみられるのも一応参考とすべきだ。

5. 犯罪心理的事項について

前犯，本犯について心理的なことを質問したのであるが前犯のものは記憶の不たしかのため或は信頼性うすいものかもしれない。

しかし犯罪の様な印象の強いものははつきり記憶してゐるとも考へられる。

各人の心理は綜合されたものであるに拘らず質問事項が分析的であるため、答へ難い様なことも相当あつたと思はれる。

・内容が内容だけに答への虚偽も全くないとは考へられないし，又，心理的にみて微妙なものであるからその発言の信頼性（Reliability）もさう高いと思はれないのであるが，現在迄綜合的な資料がないので，一応信ずべき資料であるとして参考のためいろいろ分析してみることにした。

当然解釋上の制限は考へられねばならない。

（特に，本犯，前犯の區別をはつきりつけ讀まれたい，前犯は本犯より信頼性がうすいと思はれるからである）。　但（本犯の結果のみについてはやや見るべきものがあると考へられる。

さらに將來の研究に俟つ所が大である。

（イ）　どのような氣持で，犯行するに至つたか，

		2犯	3犯	4以上	計	%
前犯	1	27	21	5	53	32.2
	2	17	11	7	35	21.2
	3	7	4	3	14	8.5
	4	7	6	7	20	12.1
	5	4	1		5	3.0
	6	1	2	1	4	2.4
	7	15	2		17	10.3
	8	8		2	10	6.1
	9	1	2		3	1.8
	10		1		1	0.6
	11					
	0	3			3	1.8
	その他					
	計	90	50	25	165	100.0

		2犯	3犯	4以上	計	%
本犯	1	18	13	7	38	23.1
	2	27	11	8	46	29.9
	3	9	6	4	19	11.5
	4	10	9	3	22	13.3
	5	3	1		4	2.4
	6	1	2		3	1.8
	7	10	7	1	18	10.9
	8	8		2	10	6.1
	9					
	10	3			3	1.8
	11					
	0	1			1	0.6
	その他		1		1	0.6
	計	90	50	25	165	100.0

（コードの意味）

0　無　答

1　欲望の充足のみ（唯うまく思ふ事が達せられるとよい）

2　道徳感の弛緩（やらねば食べられぬ）

3　現に金、一もうけ（それによる將來の社会生活を考へてゐる）

4　積極的にわるいという感情がない。

5　悪いとはしりつゝ

6　復讐、反逆

7　フラフラ

8　や　け

9　わからない

10　理由なし

これをみると差のありそうな所は，コードで 1，2 の所でそれ以外はさしたる特色はない。　本犯では欲望の充足（唯うまく思ふことが達せられるとよい）よりも，犯行せねば食へぬと言ふ様なことが多くなつてゐさうに思はれる。　しかしこれをみるために χ^2 検定を行ふと

（　Code を (1), (2), 其他として

$\chi^2 = 4.19$　（D.F. 2）　で

有意な差はみうけられない。　Code を (1), (2), (3), (4), (7), (8), (其他) とまとめても　$\chi^2 = 5.00$（D.F. 6）で有意な差はみとめられないので上述の豫想を行ふことは無理である。

前犯，本犯での関係を犯数別にわけてみると

全．どの様な気持で犯行するに至ったか

本＼前		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	
1	2犯	6	1	1	4	1		4		1			18
	3〃	8	1	1	1					1	1		13
	4〃	1	1										2
	5以上	2			2				1				5
2	2〃	4	10	3	1	2	1	3	3				27
	3〃	4	3	1	1	1				1			11
	4〃	1		1	1				1				4
	5		4										4
3	2〃	5	1	1				1	1				9
	3〃	1	1	2	1		1						6
	4〃		1	1									2
	5				1		1						2
4	2〃	4	1	2	1			1	1				10
	3〃	3	3		2			1					9
	4〃				2								2
	5				1								1
5	2〃	1				1			1				3
	3〃		1										1
	4〃												
	5												
6	2〃	1											1
	3〃	1						1					2
	4〃												
	5												
7	2〃	4	1		1			2	1			1	10
	3〃	4	1		1		1						7
	4〃		1										1
	5												
8	2〃	2	3					1	1			1	8
	3〃												
	4〃	1											1
	5			1									1
9	2〃												
	3〃												
	4〃												
	5												
10	2〃							3					3
	3〃												
	4〃												
	5												
0	2〃											1	1
	3〃												
	4〃												
	5												
その他	2〃												
	3〃	1											1
	4〃												
	5												
	2〃	27	17	7	7	4	1	15	8	1		3	90
	3〃	22	10	4	6	1	2	2		2	1		50
	4〃	3	3	2	3				1				12
	5	2	4	1	4		1		1				13

全，どの様な気持で犯行するに至ったか。

本＼前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	
1	17	3	2	7	1		4	1	2	1		38
2	9	17	5	3	3	1	3	4	1			46
3	6	3	4	2		2	1	1				19
4	7	4	2	6			2	1				22
5	1	1			1			1				4
6	2						1					3
7	8	3		2		1	2	1			1	18
8	3	3	1				1	1			1	10
9												
10							3					3
0											1	1
その他		1										1
	53	35	14	20	5	4	17	10	3	1	3	165

となる。

全体の所でのべた結論は2犯のものにのみあてはまってある様である

犯＼コード		1	2	7	それ以外
2	前	27	17	15	31
	本	18	27	10	35
3	前	21	11	2	16
	本	13	11	7	19
4以上	前	5	7	0	13
	本	7	8	1	9

犯数別に前，本の関係をみると

2犯では　$\chi^2 = 5.31$（D.F. 3）

3犯では　$\chi^2 = 1.97$（D.F. 2）---- 7と其れ以外一緒

4犯では　$\chi^2 = 0.79$（D.F. 2）---- 7と其れ以外一緒

となり，有意な差はみとめられない。

又，本犯について犯数間での差をみると

$\chi^2 = 2.22$　（D.F. 4）

となり，これにも有意な差はみとめられない。

（ロ）　犯行する前何を一番強く感じたか。

前 Code		2犯	3犯	4～	計	%	本 Code		2犯	3犯	4～	計	%
1	1	20	15	6	41	24.9	1	1	18	20	5	43	26.1
〃	2						〃	2		1		1	0.6
〃	3	3		1	4	2.4	〃	3	2			2	1.2
〃	4		2		2	1.2	〃	4		1	1	2	1.2
2	1	20	14	6	40	24.3	2	1	20	8	7	35	21.2
〃	2	4	2	1	7	4.2	〃	2	7	3	2	12	7.3
3	1	4	1	1	6	3.6	3	1	4	1		5	3.0
〃	2	3	2		5	3.0	〃	2	1	3		4	2.4
4	1	9	4	3	16	9.7	4	1	9	2	2	13	7.9
〃	2	11	2	1	14	8.5	〃	2	8	4	1	13	7.9
〃	3						〃	3	2	1		3	1.8
〃	4	4	3	4	11	6.7	〃	4	11	3	2	16	9.7
5		3	1	1	5	3.0	5		1		1	2	1.2
6		1	2		3	1.8	6		4	3	4	11	6.7
0		8	2	1	11	6.7	0		3			3	1.8
計		90	50	25	165	100.0	計		90	50	25	165	100.0

犯行する前何を一番感じたか.

0　無　答

1
- 1　欲望的
- 2　復讐的
- 3　愉快
- 4　犯行をうまくしたい

2
- 1　平氣（無関心）
- 2　仕方なし

3
- 1　自棄的
- 2　夢中

4
- 1　犯行に対する恐怖
- 2　心配,自己の良心のとがめ
- 3　心配,家族に対して
- 4　圧迫感
- 5　嫌だ

5　わからぬ

6　その他

このコードをまとめなほすと

本＼前	1	2	3	4	5	6	0	計	%
1	23	8	2	10	1	3	1	48	29.1
2	8	19	4	10	1		5	47	28.5
3		5		3	1			9	5.4
4	15	10	4	14	1		1	45	27.3
5				1	1			2	1.2
6	1	5	1	3			1	11	6.7
0							3	3	1.8
計	47	47	11	41	5	3	11	165	
%	28.5	28.5	6.7	24.8	3.0	1.8	6.7		100.0

前					本				
	2犯	3犯	4～	計		2犯	3犯	4～	計
1	23	17	7	47	1	20	22	6	48
2	24	16	7	47	2	27	11	9	47
3	7	3	1	11	3	5	4		9
4	24	9	8	41	4	30	10	5	45
5	3	1	1	5	5	1		1	2
6	1	2		3	6	4	3	4	11
0	8	2	1	11	0	3			3
計	90	50	25	165	計	90	50	25	165

前犯，本犯のとの間では有意な差はみられない。（χ^2=0.66 D.F.4）　個人時には相当動いてゐるが，さいごの結果として差の出てゐないのは興味がある。

犯数別にみると，

前犯については χ^2= 2.16（D.F.4），コードは（1）（2）（其れ以外）で有意な差はみられない。

本犯については，同様に χ^2= 8.35（D.F.4）で，有意差はみとめられない。そこで2犯，3犯以上，コードを（1）（2）（4）（其れ以外）とまとめて χ^2 を出すと χ^2= 6.10（D.F.3）で有意差はみとめられない。　いづれにしてもこの資料からは差はみとめられない。

この事は犯数別以外の特色によるものか，或は又陳述の嘘偽によるものか，質問が質問だけに嘘があると思はれるがたとへ「うそ」であるとしても個人的には，前犯本犯の間で相当うごいて居るが最後の結果に差は出てゐない。今個人的にはあっこうとつかいわけて「うそ」をついてゐるとしても最後の結果が同様になつて

ゐるのは「うそ」の集団的恒常性とも言へ興味あるところである。

この事は以下のべる心理的なきはどい質問の場合多くあてはまつてゐる事柄である。（個人的にはうごいてゐるが marginal で差のない場合にあてはまる！）

犯数別に前犯，本犯の関係をまとめると，

全・犯行前何を一番強く感じたか．

本＼前		1				2		3		4				5	6	0	計
		1	2	3	4	1	2	1	2	1	2	3	4				
1	1	20		2	1	4	2	1	1	2	3		2	1	3	1	43
	2									1							1
	3					1							1				2
	4					1				1							2
2	1	3				15	1	1	2	1	3		3	1		5	35
	2	5				3		1		2	1						12
3	2					3							1	1			5
	3					1	1			1	1						4
4	1	4				1	1		1	1	2		2			1	13
	2	3		1		2		1	1	3	1			1			13
	3	1								1	1						3
	4	4		1	1	6		1		1	1		1				16
5										1				1			2
6		1				3	2	1		1	1		1			1	11
0																3	3
		41		4	2	40	7	6	5	16	14		11	5	3	11	165

全．犯行前何を一番強く感じたか

本＼前			1				2		3		4				5	6	0	
			1	2	3	4	1	2	1	2	1	2	3	4				
1	1	2犯	8		1		1	1			2	2		1		1	1	18
		3〃	9			1	2	1	1	1		1		1	1	2		20
		4〃	1		1													2
		5以上	2				1											3
	2	2〃																
		3〃									1							1
		4〃																
		5																
	3	2〃					1											1
		3〃																
		4〃																
		5																
	4	2〃																
		3〃					1											1
		4〃																
		5									1							1
2	1	2〃	2				8	1		1	1	3					4	23
		3〃	1				5			1				1				8
		4〃					1							1			1	3
		5					1		1					1	1			4
	2	2〃	3				1		1		1	1						7
		3〃	1				1				1							3
		4〃	1				1											2
		5																
3	1	2〃					3								1			4
		3〃												1				1
		4〃																
		5																
	2	2〃						1										1
		3〃					1			1		1						3
		4〃																
		5																
	1	2〃	2				1	1		1		2		2				9
		3〃	1														1	2
		4〃																
		5	1								1							2
4	2	2〃	1		1		1		1	1	2				1			8
		3〃	2				1				1							4
		4〃																
		5										1						1
	3	2〃	1									1						2
		3〃									1							1
		4〃																
		5																
	4	2〃	3		1		4		1		1	1						11
		3〃				1	2											3
		4〃	1											1				2
		5																
5		2〃													1			1
		3〃																
		4〃																
		5									1							1
6		2〃						1	1		1	1						4
		3〃	1				1										1	3
		4〃					1	1						1				3
		5					1											1
0		2〃															3	3
		3〃																
		4〃																
		5																
		2〃	20		3		20	4	4	3	9	11		4	3	1	8	90
		3〃	15			2	14	2	1	2	4	2		3	1	2	2	50
		4〃	3		1		3	1						3			1	12
		5	3				3		1		3	1		1	1			13

（ハ）犯行時，どんな氣持であつたか．

（イ）無頓着　（ロ）無関心　（ハ）愉快　（ニ）不愉快　（ホ）恐怖　（ヘ）無中　（ト）その他

全

本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	無答	計	%
イ	7	3		2	3	4		19	11.5
ロ	3	7		2		7		19	11.5
ハ	2	1	1		1	1		6	3.7
ニ		2	2	4	5	8		21	12.7
ホ	4	3		1	15	9		32	19.4
ヘ	5	4	1	3	16	33	1	63	38.2
ト			1			1		2	1.2
無答				1	1	1		3	1.8
計	21	20	5	13	41	64	1	165	
%	12.7	12.1	3.0	7.9	24.9	38.8	0.6		100.0

個人的にはうごいてゐるが marginal では本犯，前犯に差がみられない。

犯数別にみると

		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	無答	
前犯	2犯	8	9	3	6	27	37			90
	3犯	9	6	1	5	11	17	1		50
	4犯	4	5	1	2	3	10			25
	計	21	20	5	13	41	64	1		165
本犯	2犯	9	10	4	10	20	32	2	3	90
	3犯	5	5	1	10	9	20			50
	4犯	5	4	1	1	3	11			25
	計	19	19	6	21	32	63	2	3	165

本犯について（イ＋ロ）（其の他）と code をわけて χ^2 をみると　$\chi^2 = 2.82$（D.F.2）で有意な差は認められない。

3　犯

本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	無答	計
イ	2	1		1		1			5
ロ	1	1				3			5
ハ	1								1
ニ		2	1	2	2	3			10
ホ	2	1			5	1			9
ヘ	3	1		2	4	9		1	20
ト									
計	9	6	1	5	11	17		1	50

2　犯

本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	計
イ	3	2			2	2		9
ロ	2	3		2		3		10
ハ	1	1			1	1		4
ニ			1	1	3	5		10
ホ	1	2		1	9	7		20
ヘ	1	1	1	1	11	17		32
ト			1			1		2
無答				1	1	1		3
計	8	9	3	6	27	37		90

4　犯

本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	計
イ	2			1	1	1	5
ロ		3				1	4
ハ			1				1
ニ				1			1
ホ	1				1	1	3
ヘ	1	2			1	7	11
計	4	5	1	2	3	10	25

解答はちらはり特異な形はみられなかつた。

（二）犯行時の心理

これは具体的に自由回答の形で書かせたものである。この時犯行時どんな気持であつたかと言ふ multiple choice とかみ合せてとつてみた。

前犯 61	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	無答	計	%	本犯 67/68	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	無答	計	%
1			(1)	3	24	8			36	21.8	1	(1)			3	14	8	1		27	16.4
2					12	1			13	7.9	2				2	10	2			14	8.5
3	(3)	(3)		1	1	16			24	14.5	3	(3)	(4)			2	12			21	12.7
4	1	4	1	2	1	13		1	23	13.9	4		4		3	2	13		3	25	15.2
5	4	1				10			15	9.1	5	2	1			1	7			11	6.7
6		1							1	0.6	6	3			1	1	1			6	3.6
7	1	1				1			3	1.8	7	2	1		1		1			5	3.0
8		1	1	3	1	1			7	4.2	8		1		9	1	2	1		14	8.5
8'	2	1			1	5			9	5.5	8'	1	2				10			13	7.9
9	2		2		1	(4)			9	5.5	9	3		2			(3)			8	4.8
10	6	8				1			15	9.1	10	3	4	2			1			10	6.1
11			1						1	0.6	11		2	2						4	2.4
12	2			4		3			9	5.5	12	1			2	2	2			7	4.2
計	21	20	6	13	41	63		1	165	100.0	計	19	19	6	21	33	62	2	3	165	100.0

コード

1. 犯行そのものの恐怖不安（良心のとがめ）
2. 犯行による悪い報い
3. 夢　中
4. 無　言
5. 考へぬ

6.　何となく

7　自棄的あきらめ

8　その他

8'　早くとつて逃げることのみ（欲望の達成のみ）

9　犯罪によつて得たもののつかい方

10　犯行に対して悪を感ぜず

11.　犯行に対して興味を感ず

12　犯行に対して悪は感じてゐるが仕方なし

Codeの1,3,4,が他に比して大きい様である。Code 9（犯行によつて得たもののつかひ方を考へてゐる）が約5%，Code 10（犯行に対して悪を感ぜず）が約6%，Code 11（犯行に興味を感ず）が約2%がある。

なほ，以上の結果をみると，60（67）のMultiple choiseの内容のValidity性が検討されるわけである。多くの場合は妥当なものと言へるが中には60と61（67と68）とで陳述の多少矛盾のあるものが見受けられる。

なほ，60と61との内容は相当質のことなるものが出てくるのは当然である。

この種質問の信頼性の一つの目安をあたへるであらう。

なほ○が，矛盾のあるものである。

この比率は，約7%である。

(ホ) 犯行後まづ何を感じたか

前犯 Code		2犯	3犯	4以上	計	%	本犯		2犯	3犯	4以上	計	%
1	1	30	20	11	61	37.0	1	1	20	23	7	50	30.3
2	1	9	5	2	16	9.7	2	1	16	2	6	24	14.5
3	1						3	1	1			1	0.6
〃	2						〃	2			1	1	0.6
〃	3	4	5	2	11	6.7	〃	3	5	4	6	15	9.1
4	1	8	4	5	17	10.3	4	1	15	10	3	28	17.0
〃	2	7			7	4.2	〃	2	5	1		6	3.6
5	1	6	4	2	12	7.3	5	1	7	2		9	5.5
〃	2	15	5		20	12.1	〃	2	12	3	1	16	9.7
〃	3	5	3	3	11	6.7	〃	3	6	1	1	8	4.9
0		6	4		10	6.0	0		3	4		7	4.2
計		90	50	25	165	100.0			90	50	25	165	100.0

コード

0　無　答

1 1　犯行につながる欲望の達成を感ず

2 1　無関心的（何にも感じない）

3 1　口惜し
〃 2　あきらめ　} 目的が達せられないため
〃 3　しまった

4 1　犯行に対する圧迫感（又刑務所か---など）
　2　恐　怖

5 1　被害者世間に対する後悔
　2　自己に対する後悔
　3　その他（不快，恥かしい，家族への心配など）

これをまとめると

まとめ　　本犯　　前犯

本＼前	1	2	3	4	5	0	計	%		2犯	3犯	4～	計		2犯	3犯	4～	計
1	28	2	2	7	9	2	50	30.3	1	20	23	7	50	1	30	20	11	61
2	7	4	2	4	5	2	24	14.5	2	16	2	6	24	2	9	5	2	16
3	6		1	3	4	3	17	10.3	3	6	4	7	17	3	4	5	2	11
4	14	5	4	3	7	1	34	20.6	4	20	11	3	34	4	15	4	5	24
5	6	3	2	6	15	1	33	20.1	5	25	6	2	33	5	26	12	5	43
0		2		1	3	1	7	4.2	0	3	4		7	0	6	4		10
計	61	16	11	24	43	10	165		計	90	50	25	165	計	90	50	25	165
%	37.0	9.7	6.7	14.5	26.1	6.0		100.0										

となる。　欲望の達成を感ずるもの30％　無関心15％，圧迫感20％，後悔感20％　がみられる。

前二つのものをくらべみると　犯数は　[illegible]　とみられる。　コードと合せみるときうなづける点も多い。

ことにコード5において犯数の少いものが多く　コード1において犯数の少いものは小である点，コード4において差があまりないと言ふ点は面白い。

Codeをそのまゝにして，$S^2_{(5)}$ を求めると $S^2_{(5)}=0.0117$ 判別値2.60，又，2犯と3犯以上に分けて χ^2 検定を行ふと，$\chi^2=14.48$ (D.F 4) となり有意な差がみとめられる。

つまり，犯数別に差がみられるのである。　これは上述の結論を保証してゐるものと言へる。

二概をくわしくみると

[全]　[犯行後先づ何を感じたか]

	前 / 本	1	2	3			4		5			0	計
		1	1	1	2	3	1	2	1	2	3		
1	1	12 3 **12** ①	**2**			1 **1**	4 1 **1**	1	**2** ①	**4**	1 ①	1 **1**	20 4 **23** ③
2	1	4 **1** ②	2 1 ①			1 1	1 1	2	1 **1**	2	1	2	16 3 **2** ③
3	1									1			1
	2	①											①
	3	3 2				**1**	1 ②		**1**	1	①	1 **2**	5 3 **4** ③
4	1	6 1 **5** ①	3 **1**			2 **2**	1 **1**		1	1	**1** ①	1	15 1 **10** ②
	2	1	1					1		2 **1**			5 **1**
5	1						1 **1**		3	2	1 **1**		7 **2**
	2	2 **2**	1 **1**				1	2	①	5		1	12 **3** ①
	3	2	1			1 **1**		1		1	1		6 1 **1**
0			1 **1**				**1**		1		1 **1**	**1**	3 **4**
	計	30 6 **20** ⑤	9 1 **5** ①			4 2 **5**	8 3 **4** ②	7	6 **4** ②	15 **5**	5 **3** ③	6 **4**	90 12 **50** ⑬

(細字：2犯　太字：3犯　下に一のあるもの4犯　○でかこんであるもの5犯)

(ハ)　犯行後の心理状態はどうであつたか。

a.　意識状態について

(イ) 唯夢中であつた (ロ) 自己意識がしつかりしていた (ハ) 何とも言えぬ (ニ) わからない

前犯と本犯とについてみると

a	前 / 本	イ	ロ	ハ	ニ	悪事と思はぬ	無答	計	%
	イ	37	11	5	3	1		57	34.5
	ロ	25	38	4	5		1	73	44.3
	ハ	4	1	11	1		1	18	10.9
	ニ	6	4	1	2			13	7.9

	無答	1	1		1			3	1.8
	気味悪し			1				1	0.6
	計	73	55	22	12	1	2	165	
	%	44.3	33.3	13.3	7.3	0.5	1.2		100.0

となる。　これによると約45%が気がしっかりしてしてゐることがわかる。　前犯と本犯との間では $\chi^2 = 4.94$ (D.F 3) となり有意差はみとめられぬ。(Codeをまとめて、(イ)、(ロ)、を中心にするも同様)

これを犯数別にみると

2　犯

a	本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	答なし	計	%
	イ	21	6	4	3		34	37.8
	ロ	18	15	2	3	1	39	43.3
	ハ	2		6	1		9	10.0
	ニ	2	1	1	2		6	6.7
	答なし		1				1	1.1
	意味わるし			1			1	1.1
	計	43	23	14	9	1	90	
	%	47.8	25.6	15.5	10.0	1.1		100.0

3，4　犯

a	本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	悪事と思はぬ	無答	計	%
	イ	15	4	1		1		21	33.8
	ロ	7	17	2	1			27	43.6
	ハ	2	1	3			1	7	11.3
	ニ	2	3					5	8.1
	無答	1			1			2	3.2

	計	27	25	6	2	1	1	62
	%	43.6	40.3	9.7	3.2	1.6	1.6	100.

3 犯

本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	無答	悪事とは思はぬ	計
イ	13	4	1			1	19
ロ	6	9	2	1			18
ハ	2	1	3		1		7
ニ	2	3					5
無答				1			1
計	23	17	6	2	1	1	50

5 犯 以 上

a	本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	計	%
	イ	1	1			2	15.4
	ロ		6		1	7	53.8
	ハ			2		2	15.4
	ニ	2				2	15.4
	計	3	7	2	1	13	
	%	23.1	53.8	15.4	7.7		100.0

となる。 ここで2犯3犯以上の本犯について又2犯の前，本犯及び2犯の本犯3犯の前犯との関係の有無を検するために χ^2 検定を用ひると

$\chi^2 = 0.31$ (D.F. 3)

$\chi^2 = 6.86$ (D.F. 3)

$S^2_{\frac{1}{2}} = 0.00162$ 判別値 1.34

となり，孰もの間にも有意差はみとめられない。

b. 愉快さについて

(イ) 非常に愉快 (ロ)少し愉快 (ハ)感じない (ニ)少し不愉快

(ホ) 非常に不愉快

6	本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	無答	イ+ハ	計	%
	イ	3				2			5	3.0
	ロ	1	9	1	7	2			20	12.1
	ハ		7	12	9	1			29	17.6
	ニ		5	11	33	8			57	34.6
	ホ	2	2	6	17	18	3		48	29.1
	無答		1		1	2	1		5	3.0
	わからぬ					1			1	0.6
	イ+ハ									
	計	6	24	30	67	34	4		165	
	%	3.6	14.6	18.2	40.6	20.6	2.4			100.0

これによると約15%が犯行に対して抵抗を感じておることがわかる。

犯数別にみると

2　犯

6	本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	特記事項	答なし	計	%
	イ	1				1			2	2.2
	ロ		4	1	2				7	7.8
	ハ		4	7	5	1			17	18.9
	ニ		5	5	19	5			34	37.8
	ホ		2	3	9	11	1		26	28.9
	答なし		1			1		1	3	3.3
	わからない					1			1	1.1
	計	1	16	16	35	20	1	1	90	
	%	1.1	17.8	17.8	38.9	22.2	1.1	1.1		100.0

3.4 犯

b	本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	無答	イ,ハ	計	%
	イ	1				1			2	3.2
	ロ	1	4		5	2			12	19.4
	ハ		2	3	3				8	12.9
	ニ			4	12	3			19	30.7
	ホ	1		3	6	6	2		18	29.0
	無答				1	1			2	3.2
	イ,ハ							1	1	1.6
	計	3	6	10	27	13	2	1	62	
	%	4.8	9.7	16.1	43.6	21.0	3.2	1.6		100.0

5 犯 以 上

b	本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	計	%
	イ							
	ロ		1				1	7.7
	ハ		1	2	1		4	30.8
	ニ			2	2		4	30.8
	ホ	1			2	1	4	30.7
	計	1	2	4	5	1	13	
	%	7.7	15.4	30.8	38.4	7.7		100.0

となる。 2犯の前，本犯間にも有意な差はみとめられない

因に前者については $\chi^2 = 3.27$ (D.F. 3)

((イ)と(ロ)を合せる)

後者については $\chi^2 = 5.16$ (D.F 3)

((イ)と(ロ)を合せる)

C. 恐怖について

(イ) 大いに感ず　(ロ) 少し感ず　(ハ) 感じない　(ニ) 何とも言えぬ

C 本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	無答	計	%
イ	37	13	7	1	2	60	36.4
ロ	15	39	8	1	1	64	38.8
ハ	6	10	14	2		32	19.4
ニ	1	2			1	4	2.4
無答	1	2	1		1	5	3.0
計	60	66	30	4	5	165	
%	36.4	40.0	18.2	2.4	3.0		100.0

恐怖感をもたぬものは約20%である。

次に，犯数別にわけてみると

2 犯

C 本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	特記事項ナシ	答なし	
イ	19	8	4				31
ロ	10	22	2	1			35
ハ	4	7	8	1			20
ニ					1		1
答なし		1	1			1	3
計	33	38	15	2	1	1	90

3.4 犯

C 本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	無答	
イ	18	5	2	1	2	28
ロ	4	9	6			19
ハ	2	3	5	1		11
ニ	1	1				2
無答	1	1				2
計	26	19	13	2	2	62

5 犯 以 上

C 62＼69	イ	ロ	ハ	ニ	無答	
イ			1			1
ロ	1	8			1	10
ハ			1			1
ニ		1				1
計	1	9	2		1	13

2犯の前，本犯間には有意な差はみとめられない。犯数毎にみるとき，5犯以上で(ロ)が大半を占めてゐるのはうなづける。2犯3犯の本犯との間の関係は

$S_{\frac{1}{2}}^{2} = 0.0023$ 判別値 1.02

となり有意差はみとめられない。　なほ(ニ)答なしをぬかしてχ^2検定を行つてみると　$\chi^2 = 2.14$（D.F.2）で同様な結果である。

d. 良心に対して

(イ) 非常に良心から咎められた　(ロ)少し　(ハ)少しも咎めない

本＼前	イ	ロ	ハ	無答	計	%
イ	53	22	5	2	82	49.7
ロ	15	49	3		67	40.6
ハ	3	3	4		10	6.1
無答	5		1		6	3.6
計	76	74	13	2	165	
%	46.0	44.9	7.9	1.2		100.0

良心にとがめないものは約6%みとめられる。

犯数別にみると，2犯

69＼62	イ	ロ	ハ	
イ	33	10	3	46
ロ	12	22	2	36
ハ	2	2	2	6
答なし	1		1	2
計	48	34	8	90

3，4犯

69＼62	イ	ロ	ハ	無答	
イ	17	9	2	2	30
ロ	3	21	2		26
ハ	1	1	1		3
無答	3				3
計	24	31	5	2	62

となつて2犯の前，本犯間にも犯数別にも有意な差はみとめられない。　前，本犯で少しも良心にとがめないと考へたものの理由をみると，

5犯

69＼62	イ	ロ	ハ	
イ	3	3		6
ロ		5		5
ハ			1	1
無答	1			1
計	4	8	1	13

犯数	前犯
2	考へなかつた
〃	相手は個人ではないと思つた
〃	賭博女色が出來る爲
〃	自分が何時もやられてゐて最后にやつたのだから
〃	人もやつてゐるし捨てたものと思ひ
4	どうにでもなれと思つた
〃	無　答
〃	別に考へなかつた
3	わからない
3	この様な世だからこれ位はかまわない、
〃	何もしらないでやつた
2	無　答
2	無　答

犯数	本犯
2	無　答
〃	無　答
〃	無　答
〃	賭博女色が出来る爲
〃	共犯が盗んだから
〃	親もとは地理的に離れたところで犯行した
4	無答
3	これ位の事は昔とちがつてかまわない
〃	唯夢中であつたから
〃	夢　中

e 圧迫感について

(イ) ホッとした　(ロ)感じない　(ハ)何か重苦しさを感じた

本＼前	イ	ロ	ハ	少し感じた	不明	計	%
イ	24	5	20			49	29.7
ロ	2	10	9			21	12.7
ハ	22	9	52	2	2	87	52.7
イ＋ハ			1			1	0.6
無答	1	1	5			7	4.3
計	49	25	87	2		165	
%	29.7	15.2	52.7	1.2	1.2		100.0

全体的な結果は上の通りである。

犯数別にみると

2 犯

69＼62	イ	ロ	ハ	少し感じた	計
イ	16	1	10		27
ロ		5	6		11
ハ	13	3	32	1	49
イ.ハ			1		1
答なし	1	1			2
計	30	10	49	1	90

2犯の本，前犯との間に有意な傾向はみとめられない。この時 $\chi^2 = 0.18$ (D.F.2) である。その他については決定的なことはのべられない。

3. 4 犯

69＼62	イ	ロ	ハ	無答	計
イ	6	4	10		20
ロ	2	2	2		6
ハ	6	6	18	2	32
無答			4		4
計	14	12	34	2	62

5 犯 以 上

67＼62	イ	ロ	ハ	計
イ	2			2
ロ		3	1	4
ハ	3	1	2	6
無答			1	1
計	5	4	4	13

（ト）　犯行時何をせねばならなかつたか。

前犯 Code		2犯	3犯	4以上	計	%	本犯 Code		2犯	3犯	4以上	計	%
1	1	22	11	10	43	26.1	1	1	28	15	6	49	29.7
〃	2	4	6	1	11	6.7	〃	2	7	3	2	12	7.3
〃	2'	11	2		13	7.9	〃	2'	8	4	5	17	10.3
2	1	2		2	4	2.4	2	1		3		3	1.8
〃	2	8	2		10	6.1	〃	2	5	3	1	9	5.5
〃	3	1			1	0.6	〃	3	1			1	0.6
〃	4	21	14	6	41	24.8	〃	4	21	9	4	34	20.6
3	0						3	0	2			2	1.2
〃	1		1		1	0.6	〃	1		2		2	1.2
〃	2		1		1	0.6	〃	2					
〃	3		1		1	0.6	〃	3					
〃	4	3	1	2	6	3.6	〃	4	4	3		7	4.2
〃	5						〃	5	1			1	0.6
0		17	11	4	32	19.4	0		13	8	7	28	17.0
不明		1			1	0.6							
計		90	50	25	165	100.0			90	50	25	165	100.0

コード

1
- 1　欲望の達成
- 2　いんぺい工作
- 2'　逃げよう

（2+2'同等）

2
- 1　云へぬ
- 2　夢中
- 3　ためらい
- 4　無関心

3
- 0　刑への圧迫感
- 1　つかまらねばよい
- 2　おそろしい
- 3　後悔
- 4　犯行後の回心
- 5　自首する

コードをまとめてみると，

前＼本	1	21	22	23	24	3	0	計
1	52		3		16	1	6	78
21	1				1		1	3
22	1		1		4		3	9
23	1							1
24	5	2	4		15	1	7	34
3	3	1	1	1	2	3	1	12
0	4	1	1		3	4	15	28
計	67	4	10	1	41	9	33	165

左の様になるが，犯数別にさして強い傾向はみとめられない様である。
念の爲くわしい表をあげておくと
（次頁）

犯行時には，欲望の達成を感ずるもの多く47％，無関心20％，後悔感は7％で流石に甚だ少いものである。

これを今までのもの（犯行後のもの，この時後悔感約20％）とくらべるとき興味ある所である。

前犯　　本犯

	2犯	3犯	4犯	計	%		2犯	3犯	4犯	計	%
1	37	19	11	67	40.6	1	43	22	13	78	47.2
21	2		2	4	2.4	21		3		3	1.8
22	8	2		10	6.1	22	5	3	1	9	5.5
23	1			1	0.6	23	1			1	0.6
24	21	14	6	41	24.8	24	21	9	4	34	20.6
3	3	4	2	9	5.5	3	7	5		12	7.3
0	17	11	4	32	19.4	0	13	8	7	28	17.0
不明	1			1	0.6	不明					
計	90	50	25	165	100.0	計	90	50	25	165	100.0

全　　紀行時何をせねばならぬと思つたか

本＼前		1			2				3					0	
		1	2	2′	1	2	3	4	0	1	2	3	4	5		
1	1	14 2 / 8 ③	1 / 1	4 / 1		1		7 / 4		1					1 1	28 3 / 15 ③
	2	2 / 1	2 / ①	2				1 / 1							1 ①	7 / 3 ②
	2′	2 / ①	1 / 1	4 / 1		1 / 1		1 / 1 ①							1 1	8 3 / 4 ②
2	1	1						1							1	3
	2		1			1		3 1							1 / 2	5 1 / 3
	3	1														1
	4	2	2	1	1 ①	4		8 1 / 4 ②					1		4 / 3	21 1 / 9 ③
3	0				1		1									2
	1		1			1										2
	2															
	3															
	4	1						1 / 1					2 / 1		1	4 / 3
	5	1														1
0		2 1 / ①			1	1		2 ①			1	1	2		10 / 4 ①	13 4 / 8 ③
		22 5 / 11 ⑤	4 / 6 ①	11 / 2	2 1 / ①	8 / 2	1	21 2 / 14 ④		1	1	1	3 2 / 1		18 2 / 11 ②	90 12 / 50 ⑬

(4) 被害者に対してどんな感じをもつたか

a. 関心の程度

(イ) 大いにある (ロ)少しある (ハ)ない (ニ)何とも言えぬ

本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	無答	被害不明		%
イ	41	12	7		3		63	38.2
ロ	5	26	12	6		1	50	30.3
ハ	4	9	30	1			44	26.7
ニ	1	1	1	2			5	3.0
無答	2				1		3	1.8
計	53	48	50	9	4	1	165	
%	32.1	29.1	30.3	5.5	2.4	0.6		100.0

関心のないもの27%ある。関心の大いにあるもの38%ある。

犯数別にみると

69＼62	イ	ロ	ハ	ニ	被害不明	答なし	計
イ	20	6	5			1	32
ロ	3	12	6	4	1		26
ハ	2	8	15	1			26
ニ	1	1	1	2			5
答なし						1	1
計	26	27	27	7	1	2	90

犯数間に著しい差はみとめられない。

69＼62	イ	ロ	ハ	ニ	無答	計
イ	16	5	2		2	25
ロ	1	13	5	2		21
ハ	2	1	12			15
ニ						
無答	1					1
計	20	19	19	2	2	62

現＼前	イ	ロ	ハ	ニ	計
イ	5	1			6
ロ	1	1	1		3
ハ			3		3
ニ					
無答	1				1
計	7	2	4		13

b. 同情感について

(イ) 気の毒に思つた (ロ)少し気の毒に思つた (ハ)何とも思わぬ (ニ)少し良い気味だつた (ホ) 大いに良い気味

本＼前	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	なし	答なし	被害不明		%
イ	56	15	6	1			2		80	48.5
ロ	6	36	10	1				1	54	32.7
ハ	4	7	13	1					25	15.2
ニ										
ホ					1				1	0.6
無答	3					1	1		5	3.0
	69	58	29	3	1	1	3	1	165	
%	41.8	35.2	17.6	1.8	0.6	0.6	1.8	0.6		100.0

犯数別にみると

69＼62	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	なし	被害不明	答なし	計
イ	30	7	5						42
ロ	5	21	4	1			1		32
ハ	2	4	8						14
ニ									
ホ									
答なし						1		1	2
計	37	32	17	1		1	1	1	90

3.4 犯

69＼62	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	無答	計
イ	21	7	1	1		2	32
ロ	1	12	5				18
ハ	2	3	5	1			11
ニ							
ホ							
無答	1						1
計	25	22	11	2		2	62

5犯以上

69＼62	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	計
イ	5	1				6
ロ		3	1			4
ハ						
ニ						
ホ					1	1
無答	2					2
計	7	4	1		1	13

特にとりたてて言ふことはないが，被害者に対して同情的なことを表明してあるものが大半である。　しかしこの信憑性はきわめて薄いのではないかと思はれるが，これについてはさらに突込んだ調査が必要である。

C. 良心に対しての問い

(イ) 悪いことをしたと思った　(ロ)少し悪いと思った

(ハ) 悪いことをしたと思わない.

全部

本＼前	イ	ロ	ハ	なし	無答	被害者不明	計	%
イ	73	25	1		2	1	102	61.8
ロ	11	44					55	33.4
ハ	3		1				4	2.4
無答	2			1	1		4	2.4
計	89	69	2	1	3	1	165	
%	54.0	41.8	1.2	0.6	1.8	0.6		100.0

2犯

69＼62	イ	ロ	ハ	なし	不明 被害者	答なし	計
イ	39	12	1		1		53
ロ	9	23					32
ハ	2		1				3
答なし				1		1	2
計	50	35	2	1	1	1	90

犯数別にみる

（ハ）と答へたものの理由をみると

（i）後で支拂ふつもりであた。
（ii）自分でぬすまないから
（iii）どうせ金持の自転車だから
（iv）唯夢中であつたから

であつた。

3犯と4犯

69＼62	イ	ロ	ハ	無答	計
イ	29	9		2	40
ロ	2	18			20
ハ	1				1
無答	1				1
計	33	27		2	62

69＼62	イ	ロ	ハ	ニ	計
イ	5	4			9
ロ		3			3
ハ					
無答	1				1
計	6	7			13

前項1でのべた事と全く同一であるが1項と合せ，犯数別に同様の傾向が表現せられてゐるのは興味がある。

たとへ表明せられたことがある程度嘘偽であつても（イ）（ロ）（ハ）の比率が相似てゐるのは別の面からも興味がある。

d. 復讐に対する恐怖

(イ) 非常に恐ろしかつた (ロ)少し恐ろしかつた (ハ)恐ろしくなかつた。

本＼前	イ	ロ	ハ	感ぜず	考へぬ	無答	被害不明	計	%
イ	11	8	2		1	2		24	14.5
ロ	6	22	13		2	1	1	45	27.3
ハ	2	6	31		1			40	24.3
感ぜず	1		1	13	4	1		20	12.1
考へぬ	1		1	5	20	2		29	17.6
無答		1	1		1	4		7	4.2
計	21	37	49	18	29	10	1	165	
%	12.7	22.4	29.7	10.9	17.6	6.1	0.6		100.0

犯数別にみると　2 犯

62＼69	イ	ロ	ハ	感ぜず	被不明	考へぬ	答なし	計	%
イ	9	4						13	14.4
ロ	4	9	9		1	2	1	26	28.9
ハ	1	3	12					16	17.8
感ぜず	1		1	7		2	1	12	13.4
答なし			1				2	3	3.3
考へぬ	1		1	4		14		20	22.2
計	16	16	24	11	1	18	4	90	
%	17.8	17.8	26.7	12.2	1.1	20.0	4.4		100.0

3，4 犯

69＼62	イ	ロ	ハ	無答	感じない	考へぬ	計	%
イ	2	3	2	2		1	10	16.1
ロ	2	10	3				15	24.2
ハ	1	3	16			1	21	33.9
無答				1		1	2	3.2
感じない					5	1	6	9.7
考へぬ				2	1	5	8	12.9
計	5	16	21	5	6	9	62	
%	8.1	25.8	33.8	8.1	9.7	14.5		100.0

5 犯 以 上

69＼62	イ	ロ	ハ	感ぜず	考へず	無答	計
イ		1					1
ロ		3	1				4
ハ			3				3
感ぜず				1	1		2
考へず					1		1
無答		1				1	2
計		5	4	1	2	1	13

おそろしいとするものが2犯に多い傾向がみられる。　その他特にとりたてて言ふことはない。

(4)　一般的に問はれた犯行後の心境

前						木					
計	2犯	3犯	4犯	計	%	計	2犯	3犯	4犯	計	%
1 1	1	2	1	4	2.4	1 1	3	1		4	2.4
〃 2	2	3		5	3.0	〃 2	3	1		4	2.4
〃 3	6	3	3	12	7.2	〃 3	1	2	1	4	2.4
〃 4	2	4	1	7	4.2	〃 4		1		1	0.6
2 1	7	3	1	11	6.7	2 1	11	7	6	24	14.6
〃 2	3	6	3	12	7.3	〃 2	5	2	3	10	6.1
3 1	2			2	1.2	3 1	1	1		2	1.2
〃 2	1			1	0.6	〃 2		1		1	0.6
4 1	1	2	2	5	3.0	4 1	2	1		3	1.8
5 1	20	7	2	29	17.6	5 1	9	8	4	21	12.7
〃 2	17	6	2	25	15.2	〃 2	15	12	2	29	17.6
〃 3	4	4	1	9	5.5	〃 3	8	5	1	14	8.5
〃 4	22	9	8	39	23.7	〃 4	30	8	6	44	26.7
0	2		1	3	1.8	0	2		1	3	1.8
その他		1		1	0.6	その他			1	1	0.6
計	90	50	25	165	100.0	計	90	50	25	165	100.0

1 1 しめた
　 2 ほつとする
　 3 愉快
　 4 欲望の達成を感ず

2 1 平氣
　 2 馬鹿をみた残念(自嘲的)

3 1 夢中
　 2 云へない

4 1 自棄的

5 1 おそろしい不安
　 2 わるい事をした(自責の念)
　 3 申し訳ない

5 4　暗い気持、不愉快

一般的にみると Code 5 が多く，ことに暗い気持になるものが 27 % ある。 Code 1 の比率は約 8 % Code (1+2) の犯行に対する positive な感じは約 30 % である。

まとめると，

本＼前	1	2	3	4	5	0	その他	計
1	7	2			4			13
2	8	4		2	20			34
3		2			1			3
4		2		1				3
5	12	12	3	2	77	1	1	108
0		1				2		3
その他	1							1
計	28	23	3	5	102	3	1	165

前犯　　本犯

Code＼犯数	2犯	3犯	4犯	計		2犯	3犯	4～	計
1	11	12	5	28	1	7	5	1	13
2	10	9	4	23	2	16	9	9	34
3	3			3	3	1	2		3
4	1	2	2	5	4	2	1		3
5	63	26	13	102	5	62	33	13	108
0	2		1	3	0	2		1	3
その他		1		1	その他			1	1
計	90	50	25	165	計	90	50	25	165

前犯					本犯				
犯数 / code	2犯	3犯	4—	計		2犯	3犯	4—	計
1	12.2	24.0	20.0	17.0	1	7.8	10.0	4.0	7.9
2	11.1	18.0	16.0	14.0	2	17.8	18.0	36.0	20.6
3	3.3	4.0		1.8	3	1.1	4.0		1.8
4	1.1	52.0	8.0	3.0	4	2.2	2.0		1.8
5	70.1		52.0	61.8	5	68.9	66.0	52.0	65.5
0	2.2	2.0	4.0	1.8	0	2.2		4.0	1.8
その他				0.6	その他			4.0	0.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	計	100.0	100.0	100.0	100.0

くわしくみると

本＼前		1				2		3		4	5				その他	0	
		1	2	3	4	1	2	1	2	1	1	2	3	4			
1	1	1 1		1		1					1						3 1
	2			1			1				1			1			3 1
	3	1		1	1									1			1 1 2
	4				1												1
2	1			1 2	1	1 (1)	2			1	4 1 1	1 2		1 2 3			11 5 7(1)
	2	(1)	1 1	1						(1)	2 1			1 (1)			5 2(3)
3	1					1					1						1 1
	2					1											1
4	1					2				1							2 1
5	1	1		1 1			1 (1)	1		1 (1)	4 1 1	1 3	1	1 (1)			9 1 8(3)
	2		2		1 1	1	1 3(1)				5	8 1	2	2	1		15 1 12(1)
	3						2	1			1 1	2 (1)	2 1	2 1			8 5(1)
	4		1	2 1	1	1 1			1		2 2	5 1 	2 1	15 2 3(2)		1	23 4 8(2)
0						1										1 (1)	2 (1)
	その他				(1)												(1)
		1 2(1)	2 3	6 3 3	2 4(1)	7 3(1)	3 1 6(2)	2	1	1 2(2)	20 2 7	17 1 6(1)	4 1 4	22 4 9(4)	1	2 (1)	90 13 50(13)

以上のべてきた心理的項目の反応には多分に自己解護的乃至はよく思はれたいとする気持から出たものも相当あるとは思はれるが，それらが犯数別にみたとき結果として同様の態様が示されてゐる場合も多いことは注目に値する。　この様な傾向を示すこと，これがよし，正しい心からの反応の結果とするも，又嘘偽の結果であるとするも果して人間の本体であろうか。　或は又細くみるとき様子は相異るが，複雑な互に打消しあふ彼等の社会的心理的プロセスによつて全体としては同様の態様を示すものであらうか。　これは今後しらべてみなければわからぬことではあるが，ここでは唯總体的に全体の傾向を示しておいたもので，何等かの参考になるであらうと思ふ。

(リ) 裁判に対してどう感じたか

(イ) 公平　(ロ) 不公平　(ハ) わからない

前犯	イ	ロ	ハ	仕方なし	計	本犯	イ	ロ	ハ	不明	計
2犯	53	14	23		90	2犯	57	16	16	1	90
3犯	35	7	8		50	3犯	36	6	8		50
4～	16	3	5	1	25	4～	16	6	3		25
計	104	24	36	1	165	計	109	28	27	1	165

(イ)，(ロ)，(ハ)の分布（%）をみると，

	(イ)	(ロ)	(ハ)	其他
前	63.1	14.5	21.8	0.6
本	66.0	17.0	16.4	0.6

となり全体としてはいちぢるしい差はない。　しかし不公平と感ずるもの約17％あるのは注目すべきである

又，犯数別にみるも強い差はみとめられない。　今全体として前，本犯についての Cross tabulation をとると次の様になる。

本＼前	公平	不公平	わからぬ	無答	仕方なし	計
公平	84	10	15			109
不公平	14	12	1		1	28
わからぬ	6	2	19			27
無答			1			1
計	104	24	36		1	165

各個人的にはうごくが全体として一致してゐるのは（前犯と本犯の分布が同様）面白い。

感じの固着性をみると

$$\chi^2 = 32.07 \quad (D.F.4)$$

で有意差がみとめられ感じの固着性はみうけられる。

つまり不公平とするものは今度も不公平，公平とするものは今度も公平，わからとするものもわからぬとする，と言ふ傾向が有意にみとめられる。（ランダムではない！）

犯数別にくわしくみると

本＼前	公平	不公平	わからぬ	無答	仕方なし	計
公平	42 <u>5</u> **28** (9)	5 **5**	10 <u>2</u> **3**			57 <u>7</u> **36** (9)
不公平	8 <u>1</u> **4** (1)	7 <u>1</u> **2** (2)			<u>1</u>	15 <u>3</u> **6** (3)
わからぬ	3 **3**	2	12 <u>2</u> **5** (1)			17 <u>2</u> **8** (1)
無答			1			1
計	53 <u>6</u> **35** (10)	14 <u>1</u> **7** (2)	23 <u>4</u> **8** (1)		<u>1</u>	90 <u>12</u> **50** (13)

細字 - - - - - 2犯

太字 - - - - - 3犯

アンダーライン - - - 4犯

○内 - - - - 5犯以上

（又）　逮捕せられた事に不満を感じているか

(イ) 強く感じている　(ロ)少し感じている　(ハ)感じていない。

前犯	イ	ロ	ハ	計	本犯	イ	ロ	ハ	不明	わからぬ	計
2犯	14	14	62	90	2犯	11	10	67	1	1	90
3犯	12	3	35	50	3犯	12	2	36			50
4～	2	2	21	25	4～	5		20			25
計	28	19	118	165	計	28	12	123	1	1	165

比率を比較すると

	(イ)	(ロ)	(ハ)	其他
前	17.0	11.5	71.5	0
本	17.0	7.3	74.5	1.2

不満を感じてゐるとするものが28.5%もあるのは驚くべき所である。
全体としては大差はない。

犯数別（本犯）にみると

	イ	ロ	ハ	その他	計
2犯	12.2	11.1	74.5	2.2	100.0
3犯	24.0	4.0	72.0		100.0
4～	20.0		80.0		100.0

前犯本犯の関係でみると

本＼前	強く	少し	感じぬ	無答	わからぬ	計
強く	11	4	13			28
少し	2	5	5			12
感じぬ	15	10	98			123
無答			1			1
わからぬ			1			1
計	28	19	118			165

ここで固着性をみると　$\chi^2 = 9.80$ (D.F.4)　となる。
これは2%～5%の間にあり，有意水準を5%とするとき固着性があるとみうけられる。
裁判の場合との比較が面白い。

さらにくわしくみると

本＼前	強く	少し	感ぜぬ	無答	わからぬ	
強し	4 1 **5** ①1	1 1 **2**	6 **5** ②2			11 2 **12** ③3
少し	1 **1**	4 **1**	5			10 **2**
感ぜぬ	9 **6**	9 ①1	49 10 **30** ⑨9			67 10 **36** ⑩10
無答			1			1
わからぬ			1			1
	14 1 **12** ①1	14 1 **3** ①1	62 10 **35** ⑪11			90 12 **50** ⑬13

細字-----2犯
太字----3犯
アンダーライン--4犯
○付----5犯以上

さてこの理由をしらべてみると次の様になる．不満を感じてゐるものについてみると，

逮捕せられた事に対して強く感じたと答へた者に対して何故？

前犯

code	2犯	3犯	4犯	5以上	計
2	3				3
3	5	4			9
4	1				1
5	1				1
6	1				1
7	2	2			4
8					
9		4			4
10			1	1	2
11					
12					
無答	1	2			3
計	14	12	1	1	28

本犯

code	2犯	3犯	4犯	5以上	計
2	1	1			2
3	6	2	1	1	10
4					
5	1				1
6		3			3
7	3	2			5
8					
9		2			2
10		1		1	2
11				1	1
12			1		1
無答		1			1
計	11	12	2	3	28

Code.

1　社会に対する不満（不公平）
2　共犯者についての不公平
3　自分はわるくない
4　わからぬ
5　しまつた
6　捕るときの警察側の態度
7　とにもかくにもこんな事になつたのは捕つたから
8　該当外の返答
9　くやしい（不成功）
10　密告された事を
11　釋放中であつたから
12　早く出たい

少し感じた　　少し感じた

前犯　　本犯

Code	2犯	3犯	4犯	5以上	計
2	1				1
3	1			1	2
4	1				1
5	1				1
6	1				1
7	3	1			4
8					
9	3				3
10					
11					
12			1		1
無答	3	2			5
計	14	3	1	1	19

Code	2犯	3犯	計
2	1		1
3	2	1	3
4			
5			
6			
7	2		2
8	1		1
9		1	1
10	1		1
11			
12			
無答	3		3
計	10	2	12

自分は悪くないと考へてゐるものが相当あるのは注目すべき所である。　又コード7が両方を通じて多目なのも面白い。

次に感じてゐないものの理由をみると

全　逮捕せられた事について（感じてないといふ回答のなぜ？）

	2犯			3犯			4犯			5犯			
	前	本	計	前	本	計	前	本	計	前	本	計	計
当然のこと	5	7	12	7	8	15	1		1				28
自首したから	2	1	3										3
仕方ない	6	5	11	2	2	4		1	1	2	2	4	20
自分がわるい	15	15	30	9	9	18	2	3	5		2	2	55
覚悟してゐた	2	3	5				1	1	2				7
わるい事をしたから	17	17	34	7	7	14	3	3	6	2	1	3	57
あきらめてゐた		2	2				1	1	2				4
己むを得ぬ							1		1				1
運のつき										2	1	3	3
考へぬ		2	2										2
精算出来る	1		1										1
わからぬ										1		1	1
年貢のおさめ時				1	1	2							2
社会は冷い		1	1										1
dimention 外	3		3	1	1	2							5
つかれてゐた		1	1										1
無　答	11	13	24	8	8	16	1	1	2	4	4	8	50
計	62	67	129	35	36	71	10	10	20	11	10	21	241

豫想の結果が得られてゐる。

（刑罰に対して）

(イ) もう悪り悪りした　(ロ) あきらめている　(ハ) 大したことはない。

前犯	イ	ロ	ハ	感じない	無答	あきらめられぬ	計	本犯	イ	ロ	ハ	あきらめられぬ	不服	不明	計
2犯	47	38	3	1	1		90	2犯	58	28		1	2	1	90
3犯	22	26	1			1	50	3犯	33	16	1				50
4～	9	15	1				25	4犯	13	11	1				25
計	78	79	5	1	1	1	165	計	104	55	2	1	2	1	165

本犯の比率は％で表せば

イ	ロ	ハ	その他
63.1	33.3	1.2	2.4

2犯のものについて前本犯間の差をみると，$S^2_{\frac{1}{2}} = 0.00371$ 判別値 0.42 で有意差はない。

（2＋3）犯と4犯以上との間に差があるか否かをみると

		イ	ロ	ハ	その他	計
本犯	(2＋3)犯	91	44	1	4	140
	4犯以上	13	11	1		25

$S^2_{\frac{1}{2}} = 0.0053$　判別値は 0.76 で有意差はみとめられない。

さらにくわしくみると

前犯と本犯との関係

本＼前	こりごり	あきらめ	大した事なし	感ぜぬ	無答	あきらめきれぬ	計
こりごり	56	44	3	1			104
あきらめ	20	32	1		1	1	55
大した事なし	1		1				2
感ぜぬ							
無答		1					1
不明	1	1					2
あきらめきれぬ		1					1
計	78	79	5	1	1	1	165

本＼前	こりごり	あきらめ	大した事なし	感ぜぬ	無答	あきらめきれぬ	計
こりごり	33 2 18 ④	21 5 15 ②	3	1			58 7 33 ④
あきらめ	13 3 4	14 2 10 ④	1		1	1	29 5 16 ④
大した事なし	1		①				1 1
感ぜぬ							
無答		1					1
不服	1	1					3
あきらめきれぬ		1					1
計	47 5 23 ④	38 7 25 ⑧	3 1 ①	1	1	1	90 12 50 ⑬

細字，2犯　太字3犯　アンダーライン4犯　○内5犯以上

犯数別にみると，5犯以上のものは（あきらめ－あきらめ）にかたまる傾向がみられる。

ヲ. 現在被害者に対する気持

Code	2 犯	3 犯	4 犯	5以上	計	%
1 1	1				1	0.6
2 1	21	11	6	5	43	26.1
〃 2	1				1	0.6
3 1	14	10	2	3	29	17.6
〃 2	48	24	4	4	80	48.5
〃 3	1				1	0.6
〃 4	1	4		1	6	3.6
0	2	1			3	1.8
問題脱落	1				1	0.6
計	90	50	12	13	165	100.0

Posi. 1. 1 よい気味

Neu. 2. 1 感じない，無関心
2. わからない

Nega. 3. 1. 気の毒
2. 申しわけない
3. 恥かしい
4. かへす

以上心理的事項について分析したのであるが前々からのべてある様に質問が質問だけに答へに相当嘘偽がみとめられるかもしれない。 しかし一般的傾向としては前犯と本犯との間で response の質は個人的にみるとき相当移動して居り，しかし marginal の分布では一致してゐると言ふ状態がみうけられる。 これは嘘偽（自己辯護或は自己の立場の有利化のため）があるとしても，集団としてみるとき率の一定してゐることは集団における何かある

恒常性があるのは注目すべき所であらうと思はれる。

もしうそを言ふもの真実を言ふものとが交錯しあつてゐるとしても全体からみた恒常性は社会人間的な index として興味あるものと考へられる。

以上の叙述はこの点からも観察せられてよい。

6. 前犯受刑中の行動と体験

註. 問31は理由等をみると uni-dimension な答へでないのでこれを割愛することにする。面接者によつてことなる教示のしかたがなされてゐる様に思はれた。

(イ) 受刑時の諸特性

これは，行刑表からとられたものである。調査の都合から165名については資料が得られなかつた。この点やゝ注意を要する。

(i) 改悛の情

	無答	あり	稍あり	不明	計
2犯	1	60		1	62
3犯	1	34			35
4〜	1	17	1		19
計	3	111	1	1	116

(ii) 社会感情

	無答	普通	稍悪	悪し	稍あり	良し	良し	計
2犯	8	10	1	41	1	2	3	66
3犯		4		29		1	1	35
4〜	3			14		2		19
計	11	14	1	84	1	5	4	120

(iii) 逃走上の注意

	なし	普通	要視察	稍注意	不明	計
2犯		17	37	5	3	62
3犯		5	22	7	1	35
4～		2	11	6		19
計		24	70	18	4	116

犯数別に差はみとめられない.

(iv) 拘禁

	なし	強	中	計
2犯	60	1	1	62
3犯	34	1		35
4～	19			19
計	113	2	1	116

(V) 健康

	甲	乙	丙	不明	計
2犯	30	25	4	3	62
3犯	14	17	3	1	35
4～	11	6	1	1	19
計	55	48	8	5	116

犯数別にも差はない.

(vi) 労働の強度

	重労	普通	軽労	不明	計
2犯	37	18	1	6	62
3犯	24	9		2	35
4～	11	6		2	19
計	72	33	1	10	116

(ロ) 受刑中の行動評価

(i) 作業事故

	なし	要注意	怪我	計
2犯	61	1		62
3犯	34		1	35
4〜	19			19
計	114	1	1	116

(ハ) 信任の期間

信任の期間をとに角犯数別にみると

	0月	0.5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	不明	不能	計
2犯	5	3	4	5	14	8	7	5	4	2		1				3	1	62
3犯	5	4	4	1	5	4	4	2	1	1	1	2		1				35
4犯	7	1		2	1	1	2	1	1	1			1		1			19
計	17	8	8	8	20	13	13	8	6	4	1	3	1	1	1	3	1	116

となる。

平均をみると3.6ヶ月となる。これを犯数別にみると

- 2犯　3.6ヶ月
- 3犯　3.6ヶ月
- 4犯以上　3.6ヶ月

となつて全く差がみとめられない。

しかしこれでは受刑期間の問題も入るので全受刑期間に対する信任期間の比率でとつてみると

比率	0.01～0.09	0.10～0.19	0.20～0.29	0.30～0.39	0.40～0.49	0.50～0.59	0.60～0.69	0.70～0.79	0.80～0.89	0.90～0.99	1.00	不明	計
2犯	7	7	3	6	5	8	5	3	5		8	5	62
3犯	11	4	2	3	2	5	2	3	2		1		35
4～	10	3	1	2	1	1			1				19
計	28	14	6	11	8	14	7	6	8		9	5	116

となる。　この平均を出してみると

2犯	0.50
3犯	0.36
4犯以上	0.20
全体	0.41

となり

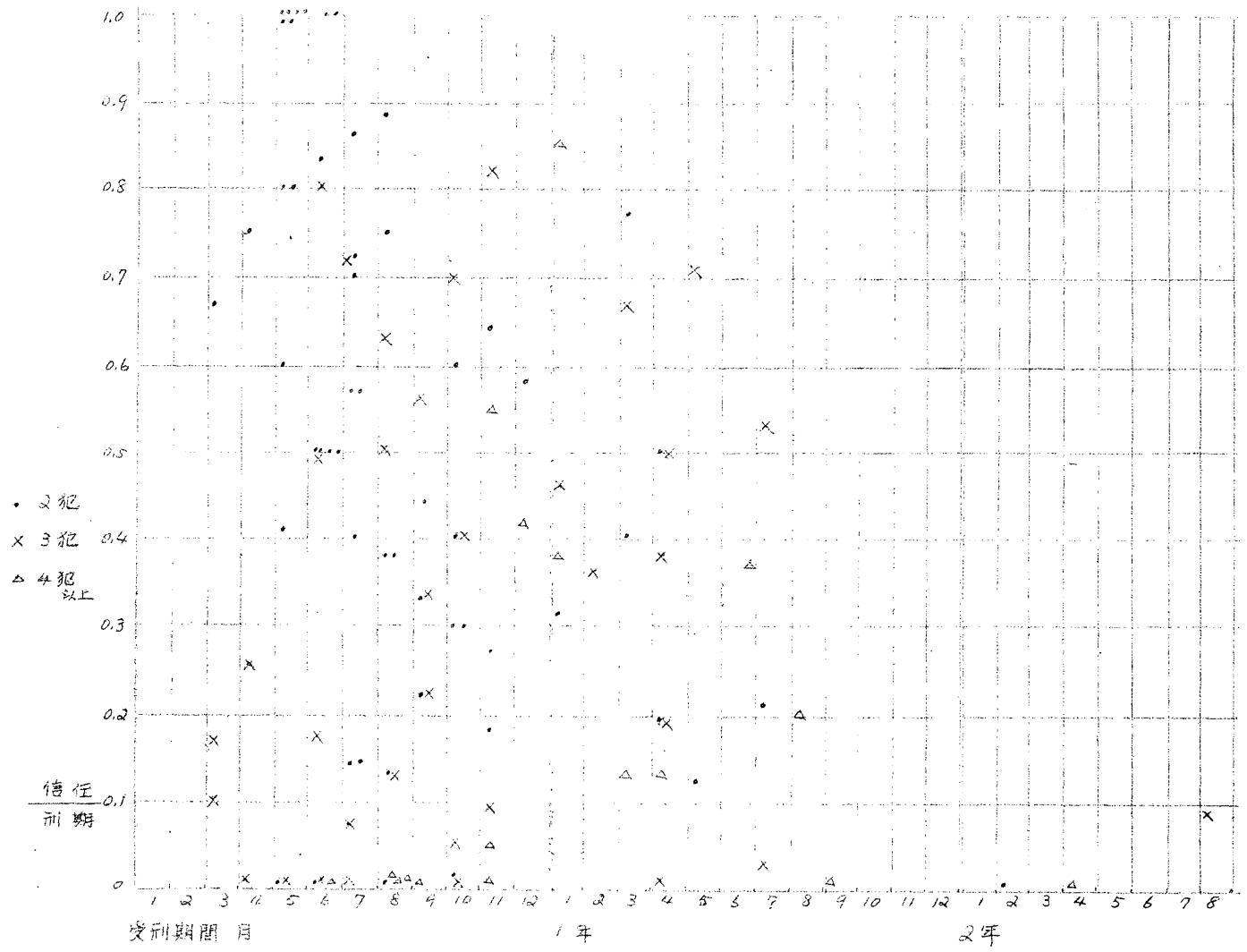
犯数の大なるほど信任期間の比率がみぢかくなつてゐるのがみうけられる。

後者のみでは十分でない。　比率のみでなく実際の信任期間がいろいろな点でものを言ふことも一応考へられるからである。

これをはつきりみるため受刑期間と比率との関係を目もると次の様になる。　これによると受刑期間と比率との関係は全く見受けられない。

二つの因子はまづ独立と考へられてよい。

そのため上述の二つの分析が夫々別のいみをもつことがわかる。


1.0
0.9
0.8
0.7
0.6
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0
• 2犯
× 3犯
△ 4犯以上
信任/刑期
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8
受刑期間 月
1年
2年

(ハ) 處遇の型（信任，普通，訓練等）による分類

いかように各受刑者がとりあつかはれて行つたかの型をみてみよう。

↗　とあるは　訓練から信任へ上昇したもの

信→　〃　さいしよからよいもの

訓→　〃　上昇せぬもの

∧↗　〃　処遇上昇し又一たび降下しまた上つたもの

∧∧↘　〃　上昇降下の再度あるもの

この型にわけてみると

	信→	普→	訓→	↗	∧∧↘	∧↗	∨∧↗	不明	計
2犯	4		1	50	2			5	62
3犯		2	1	29	1	1	1		35
4以上			4	14		1			19
計	4	2	6	93	3	2	1	5	116

さらにまとめると

（これは善はしくないもの）

	↗	信→	其他	不明	計
2犯	50	4	3	5	62
3犯	29	0	6	0	35
4犯	14	0	5	0	19
計	93	4	11	5	116

となる。

犯数の間で差の有無をみると

$$S_{\frac{2}{2}}^{2} = 0.0135 \quad (3犯+4犯と2犯)$$

判別値　0.64

となり，有意な差はみとめられない。　この資料から犯数別に差

のあることは言へない。

（二）假釋放上の觀点から

上述の点から分類すると

	反省の念あり	反省の念稍あり	反省普通	反省の念乏し	保護あり良	保護不良	なし	無答	計
2犯	16	24	1	7	4		3	7	62
3犯	1	10		16		1	1	6	35
4〜	2	2		8			1	6	19
計	19	36	1	31	4	1	5	19	116

犯数間には相当な差がみうけられる。

しかし2犯のものについてみると前犯でかうであつたものが再びつみを犯したことに思ひを致さねばならない。

これをまとめると

	利	稍利	稍不利	不利	無答	計
2犯	11	17	19	14	1	62
3犯	1	9	2	23		35
4〜	2	1	2	14		19
計	14	27	23	51	1	116

となるが前述の結論はかはらない。

（ホ）受刑中新に習得した技術

	金属工（工業技術工）	サイホー	印刷	靴工	木工	理ハツ	自動車運転	細工	石工	計
2犯	4	1	2	6						16
3犯			4	1	3	1				9
4犯	3	3	2	1			1	1	1	9
	7	4	8	8	3	1	1	1	1	34

これがどう役立てられたかについては後にのべる。

(へ) 受刑中最も印象の深かつた点

Code		
11	愉快にやつた	1
13	ほめられて嬉しい	2
14	待遇が良かつた	9
15	技術を覚えた	4
16	釋放になつた時	3
17	姉が面会に來て	1
18	社会生活と変りない	3
19	娯楽のあつたこと	2
23	外務の出來た事	19
110	自分の技術を生かせて嬉しい	1
111	お世話になつて有難い	1
112	外役で子供をみるのが嬉しい	1
21	感じない	52
22	労働と云ふものをしつた	2
24	修養といふものを身にしみて感じた	1
25	病気静養中のこと	1
28	家庭の事を云はれたこと	1
27	地道を行くのが良かつたな	1
26	親の有難味を知る	1
29	社会とは違ふものだ	1
210	釋放になつても金が無ければ再度悪事をするのは当り前	1
211	やれば何でも出來るものだ	1
212	逃亡中の友が捕つたこと	1

3 2	非常に辛い	11
3 3	他人が冷い目で見る	2
3 7	検身が辛い	5
3 11	寒かつた事	8
3 6	自由を束縛されて辛い	4
3 5	二度と來るものではない	2
3 3	早く社会に出たい	2
3 9	赤服を着た時	1
3 10	おそろしかつた	2
3 12	ちよう罰の事	2
3 13	集団逃亡のこと	1
3 14	外務で妹達をみるのが辛い	1
0	無　答	13
4	廃品回收の罐の事に対し再生は儲るだらう	1

多少見当外れの答へもあるが一応かきあげてみると上の様になつた。

犯数別にみると、

印象の深かつたこと

Code 1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
2犯	1		1	4	2	1	1						10
3犯				4	1	1		3	2				11
5犯以上			1	1							1	1	4
4犯					1	1				1			3
計	1		2	9	4	3	1	3	2	1	1	1	28

Code 2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	小計 2-1	その他
2犯	24	1	9	1	1	1	1	1				1	24	16
3犯	17		7						1	1	1		17	10
5犯以上	7		2										7	2
4犯	4	1	1										4	2
計	52	2	19	1	1	1	1	1	1	1	1	1	52	30

Code 3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	小計	
2犯		8	1		2	4	2	2	1	2	6	1			29	
3犯		3					3				1	1	1	1	10	
4犯			1								1				2	
計		11	2		2	4	5	2	1	2	8	2	1	1	41	

	Code 4	無答	總計
2犯	1	10	90
3犯		2	50
4犯		1	12
5犯以上			13
計	1	13	165

一般的に観察すると犯数の多くなるほど感じないとする傾向が多く、又不愉快な厭な感じをもつもの（Code 3）が少くなる傾向，2犯のものはその逆傾向をもつことが顕著にみうけられる。

Code

1 { 12　外役で子供をみるのが嬉しかつた。
　 11　お世話になつて有難い
　 1　愉快にやつた
　 2　唯一生懸命
　 3　ほめられて嬉し
　 4　待遇がよかつた
　 5　技術を覚えた

6　釋放になつたとき
7　姉の面会
8　社会生活と変りなし
9　娯楽があつたこと
10　自分の技術を生かして嬉しい

2
1　感じない
2　労働を知つた
3　外に出られた事
4　修養というものを身にしみて感じた
5　病氣療養中
6　親のありがたみ
7　地道にやるのさ
8　家庭の事を云はれた事
9　社会とはちがふ
10　釋放になつた時金がないからわるい事をするのだということ
11　やれば何でも出来る
12　逃亡者が捕られたのがかわいそうだつた事

3
1　ムチヤクチヤ
2　非常につらい
3　早く社会に出たい
4　自由になりたい
5　二度と来るものでない
6　自由を束縛される事が辛い
7　不愉快な事があつた（検身）
8　他人が冷い目でみる
9　赤い服
10　おそろしい

11　寒くて辛い
12　ちょう罰のこと
13　集団逃亡
14　外務で妹達をみるのが辛い

4 { 1　廃品回収の罐の事に対して再生は儲るだらうと思った。

（ト）釋放後どう生きようと思ったか

	働いて生活する事	反省的になる	家庭上の献心	再出発を誓う	とにかく家に帰る	無関心	自分の過去を踏まぬ様考へを指導する	その他	無答	計
2犯	59	12	7	1	3	3	1	3	1	90
3犯	38	5		1	1	3		2		50
4犯	9	2	1							12
5～	12					1				13
計	118	19	8	2	4	7	1	5	1	165

常識的な回答が得られてゐる。

7. 釋放後社会期間に関する事項

（イ）警察，司法保護委員への報告したもの約60％であり，各犯を通じて同様の傾向である。

	した	しない	計
2犯	55	35	90
3犯	32	18	50
4～	16	9	25
計	103	62	165

次に，監督に対する氣持をきいてみると

	計	無答	もつとよくかんとくしてほしい	悪事をしたので行けない	つまらぬ事	度が過ぎる	冷い態度	住所不定	報告中罪を犯した	一回だけで放置	かんとくなし	別に意見なし	その間はまじめ	監督されても何とも思はぬ	いやだ	不詳	監督者が悪い	監督者が良い
2犯	55	3			1	3	2	1		3	2	8	15	2	6	1	1	7
3犯	32	2	1	1		1	1	1	1	3		4	6	1	6	1		3
4—	16			2	1	1			3			1	2		1	1		4
計	103	5	1	3	2	5	3	2	4	6	2	13	23	3	13	3	1	14

これを大きくまとめてみると

監督に対して favourable	〃 〃 Unfavourable 上記のV印	報告連絡してゐるその間はおしなべ	別に意見はなし	其他	計
14	33	23	13	20	103

となり unfavourable なものが約30%あるのは注意すべき所である。（但し，更生保護制度の発足前のものが多い。）

監督関係への報告してゐるものは後にものべる様に在社会期間が長くなつてゐる様に思へる。

さうすると報告連絡させて居れば再犯をより少くすること必可能と考へられる。この場合上述の unfavourable としてゐる数の多いことは注目すべき所であり，（このために連絡しなくなるとも考へられる。然しすべてがさうであるとは言へないことは上述の分析からもしられる），この理由を研討することによつてより楽しく報告連絡させて再犯を少くする様にし得る可能性も考へられる。

（ロ）釋放後の保護者

	父	母	兄	姉	妻	叔父母	友達	紹介	保ゴ会	不明なし	いとこ	計
2犯	34	11	14	4	5	4	1	3		14		90
3犯	22	4	5	1	3	4	4			7		50
4〜	1	1	6	2	5	2			3	4	1	25
計	57	16	25	7	13	10	5	3	3	25	1	165

これと本人に対する態度をみると，

	温い	普通	冷い	わからない	不明	計
2犯	35	26	9	3	17	90
3犯	17	16	8	1	8	50
4～	10	7	2		6	25
計	62	49	19	4	31	165

となり、温いと本人の感じているのは約36％はある。

主な保護者と本人に対する態度をみてみると、

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	不明	計
父	23	23	9	2	0	57
実母	9	2	2	0	0	13
義母	2	0	1	0	0	3
実兄	8	6	5	2	0	21
妻	6	6	0	0	1	13
叔父母	1	7	1	1	0	10

となるが母は他より多く温いと感じられている様に思はれる。

保護者の職業をみると

職 / 保護者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	ヤミヤ	あそび	なし	計
父	21	2	3	3	3	10		1	7	2	4	1			57
母	1	2								1	12				16
妻	1						8	3	1						13
兄	4	3	2	6	2	1			2	4		1	1		26
弟					1										1
姉	1			2			4								7
叔父	1	1		2					3	2		1			10
従兄		1													1
知人								2	1				1		4
保ゴ											5				5
なし														22	22
不明														3	3
計	29	9	5	13	6	11	12	6	14	9	21	3	2	25	165

となり，職業は立派である。

Code		Code	
1	農林漁	10	日傭
2	商業主	11	ナシ
3	商業雇		
4	工員（鉱，工，ガス，水道）		
5	商工業主		
6	職人		
7	主婦		
8	サービス		
9	技術家，事務（会社員）		

次に行刑表から，保護者の資産状況をみると

	無答	なし	下位	稍あり	あり	普通	保護者未定	不明	計
2犯	10	46	1	1		3	2	3	66
3犯	4	26				1		4	35
4〜	3	12			1			3	19
	17	84	1	1	1	4	2	10	120

となる。　殆んど「なし」となつてゐるのは当然である。

（ハ）居住状態

(イ) 自家　(ロ)借家　(ハ)借間　(ニ)同居　(ホ)保護会　(ヘ)知人宅

(ト) その他(記入)

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	不明	計
2犯	41	13	2	8	1	7	14	2	90
3犯	26	8	3	2		4	7		50
4〜	6	4	2	4	4	2	3		25
計	73	25	7	14	5	15	24	2	165
%	44.3	15.2	4.2	8.5	3.0	9.1	14.5	1.2	100.0

(ト)の中には浮浪がふくまれてゐる。　しかしこの浮浪のいみは出所後家におちついたか否かの事であると考へられる。(以下の分析において注意)　犯罪当時の生活環境をみると浮浪状態にあつたものは甚だ多く総数で37である。

2犯では浮浪が8(約10%)数へられてゐる。

（ニ）宿の広さ

全体的傾向は次の様になる。

全

人数＼尋数	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	70	100	不明	浮浪	計
1	3		1	1					1		1								7
2		1	3	3		1		8											16
3	1			1		2	1	11	4	2	1								23
4				3		2	1	7	4	2	1								20
5			1			3	1	8	7	2	2	1							25
6							1	5	7	2	1	2							18
7								2	1	2		1					1		7
8				1				2	4			1							8
9						1		2					1						4
10										1	1								2
11									1										1
12									1										1
13								1		1									1
14								1						1					2
15									1		1								2
18												1							1
70																1			1
不明									1								9		10
浮浪																		15	15
計	4	1	5	9		9	4	47	32	12	8	6	1	1		1	10	15	165

2　犯　　犯数別にみると

人数＼犯数	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	100	不明	浮浪	計
1	1			1												2
2			1	1		1		6								9
3						1	1	5	4	2						13
4				1		2		4	1	1	1					10
5						3	1	4	3	2						13
6								4	4	1	1					10
7								1	1	1				1		4
8				1				2	2			1				6
9						1		1								2
10										1	1					2
11									1							1
12									1							1
13										1						1
14																
15											1					1
70													1			1
不明														4		4
浮浪															10	10
計	1		1	4		8	2	27	17	9	4	1	1	5	10	90

3　犯

人数＼畳数	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	40	不明	浮浪	計
1	2		1						1		1					5
2			1	2				1								4
3	1							4			1					6
4								3	2	1						6
5								4	2		2	1				9
6									1	1		2				4
7										1		1				2
8									2							2
9								1								1
10																
11																
12																
13								1								1
14								1					1			2
15									1							1
不明														4		4
浮浪															3	3
計	3		2	2				15	9	3	4	4	1	4	3	50

4 犯 以 上

人数＼量数	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	38	不明	浮浪	計
1																
2		1	1					1								3
3				1		1		2								4
4				2			1		1							4
5			1						2							3
6							1	1	2							4
7								1								1
8																
9													1			1
10																
11																
12																
18												1				1
不明									1					1		2
浮浪															2	2
計		1	2	3		1	2	5	6			1	1	1	2	25

かうすると一人当り畳数は

	平　均
2　犯	3.2 畳
3　犯	4.3 〃
4犯以上	2.6 〃
計	3.5 〃

一人当り畳数の分布

犯数＼畳数	0.5	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	7.5	8.5	17	24.5	不明	浮浪	計
2	2	19	21	14	5	6	6	2				5	10	90
3	3	3	14	8	5	4	2	1	1	1	1	4	3	50
4	1	8	5	5	1			1				2	2	25
全	6	30	40	27	11	10	8	4	1	1	1	11	15	165

となる。　この数字は，現今においてよい部に属するものである。

(ホ)　居住と犯罪

前犯の時と本犯犯行時の居住地との関係をみると

2　犯

在社会期間＼居住	変らず同	異	本犯で浮浪	本犯不明	前から家出浮浪不定	計
a	3	2	1	16	12	34
b	10	3	1	14	3	31
c	5	8		8	4	25
Total	18	13	2	38	19	90

となる。　本犯不明のものが多いのは調査の粗漏とみられ遺憾である。　a, b, c は在社会期間をあらはす。a は二ヶ月以内，b は6ヶ月以内，c は其れ以上をあらはす。

3　犯

	変らず同	同本犯異	初犯で不定	前犯で不定	本犯で不定
3 a	3		2	1	1
3 b	1		2	1	
3 c	1	2		1	
計	5	2	4	3	1

前本 不明	異本犯不明	同本犯で不明	異	初だけ異前本同	計
11	1		2	1	22
8	1	1	2	2	18
3	2		1		10
22	4	1	5	3	50

相当に異つたものが見受られる。

（へ）　近隣の関係

	浮浪	普通	風紀よろしからず繁華	商店街	下層	別荘地	田舎	不明	計
2犯	10	24	7	7	8	2	21	11	90
3犯	3	12	4	5	3		17	6	50
4～	2	11	1	2	2	1	2	4	25
計	15	47	12	14	13	3	40	21	165
%	9.1	28.5	7.3	8.5	7.9	1.8	24.2	12.7	100.0

近隣の環境はさうすべてが悪くはない様に思はれる。

特にわるいものは15％足らずである。　又田舎も相当多い。

(ト) 近隣との交際

	イ	ロ	ハ	普通	浮浪	不明	計
2犯	38	19	16	1	10	6	90
3犯	18	11	11	2	3	5	50
4〜	6	7	8	1	2	1	25
計	62	37	35	4	15	12	165
%	37.6	22.4	21.2	2.4	9.1	7.3	100.0

(イ) 多い (ロ) 少い (ハ)なし 交際のないのは犯数の多いほど多くなる様に思へる。しかし検定を行ふと $\chi^2 = 3.95$ (D.F.4) で有意な差はみとめられない。

(チ) 近隣の本人に対する態度

	イ	ロ	ハ	浮浪	わからぬ	不明	計
2犯	19	44	9	10	3	5	90
3犯	4	26	11	3	1	5	50
4〜	4	13	4	2	2		25
計	27	83	24	15	6	10	165

(イ) 良い (ロ) 普通 (ハ) 悪い 2犯と(3犯+4犯以上)として χ^2-検定を行ふと $\chi^2 = 5.57$ (D.F.2) となり有意差はみられない。(これより大なる χ^2 を得る確率は7%程度である)。したがつて有意水準を10%程度とせざるかぎり有意差ありとは言はれない。

(ハ) と答へたものの理由をみると、殆んどすべてが前科者に対する白眼視であり、のこりは自らひけ目を感じてゐると答へてゐるものである。数字的にみるとひけ目を感じてゐるもの1、他

の23は白眼視である。

（リ） 出所後ついた職業関係

（一般の所でのべた犯行時の職業との関係注意）

	なし	人夫土工	徒食	大工左官	定期的な勤務者*	商人	農業	計
2犯	26	24		13	7	11	7	90
3犯	16	20		3	1	6	4	50
4～	9	8		2	1	3	2	25
計	51	52		18	9	20	13	165

＊例へは大工場の工員、会社員など

ここに考へられるのは，近隣の本人に対する態度はすべて必近隣のせいに帰せられるべきものではない。 本人の近隣に対する態度がきわめてわるいとき，近隣も本人に対してわるい態度を示すものであり，本人の態度のよいときは近隣もまたよくなるのである。 従って，この本人の答へる回答から責めを近隣にのみ帰せしめるのは誤りである。

客観的にみて本人の態度がわるく，近隣の態度のよいときも，本人の回答は近隣の態度はよいと果して言ふであらうか，この点注意しなければならない。

要は本人からみた近隣の態度（自己の近隣に対する態度の反応）と解釋しなければならない。

なしの比率が30％もあるのは気をとめねばならない。

次に本人の生計見込みとついた職業の関係をみよう。 一方は行刑表，一方は調査の資料である。相当異つてゐるのがわかる。事前調査による見込みの実際に対する予測性をあたへる一つの資料である。

本人の生計見込と就いた職業

2 犯

見込	なし	人夫土工	徒食	大工左官	勤務者	商人	農業	計
なし	2	2		2	1	2	1	10
稍あり	1	3		1	1	1		7
あり	3	2						5
人夫土工	6	2			1	1		10
大工左官	1	2		2		1		6
勤務者	3	5		2	1	2		13
商人				1		1		2
農業	4	2				1	5	12
帰国	1							1
計	21	18		8	4	9	6	66

3 犯

	なし	人夫土工	徒食	大工左官	勤務者	商人	農業	計
なし	3	6					1	10
稍あり								
あり					1	1		2
人夫土工	2	2				1		5
大工左官	1	2						3
勤務者	2	2		1		1		6
商人	1	1					1	3
農業	1	3					2	6
計	10	16		1	1	3	4	35

4 犯

	なし	人夫	徒食	大工左官	勤務者	商人	農業	計
なし	1	2				1	1	5
稍あり								
あり						1		1
人夫	3	2						5
徒食								
大工左官	1	1				1		3
勤務者				2	1			3
商人								
農業		1						1
不明	1							1
計	6	6		2	1	3	1	19

計

見込＼実際	なし	人夫	徒食	大工左官	勤務者	商人	農業	計
なし	6	10		2	1	3	3	25
稍あり	1	3		1	1	1		7
あり	3	2			1	2		8
人夫	11	6			1	2		20
徒食								
大工左官	3	5		2		2		12
勤務者	5	7		5	2	3		22
商人	1	1		1		1	1	5
農業	5	6				1	7	19
不明	1							1
帰国	1							1
計	37	40		11	6	15	11	120

一般に，見込みと実際とはことなつてゐる。　この事は，ついた職業と犯行時の職業との比較をあはせ，假釈放審査の時注意すべき所である。

次に，犯行時と出所後ついた職業との関係をみると，

2　犯

本犯の＼就いた	なし	人夫	徒食	大工	勤	商	農	計
なし	16	4			1	4		25
人夫	5	19		2		1	3	30
徒食	4			2	2		1	8
大工		1		9				10
勤	1				4			5
商						6	2	8
農							3	3
計	26	24		13	7	11	9	90

3　犯

本犯の＼就いた	なし	人夫	徒食	大工	勤	商	農	計
なし	7	5			1	2	1	16
人夫	1	14		2			1	18
徒食	6			1			1	8
大工	1							1
勤		1						1
商						4		4
農	1						1	2
計	16	20		3	1	6	4	50

4犯以上

本犯時＼就いた	なし	人夫	徒食	大工	勤	商	農	計
なし	5	1				1	1	8
人夫	1	7						8
徒食	3							3
大工				2				2
勤					1			1
商						2		2
農							1	1
計	9	8		2	1	3	2	25

全

本犯時＼就いた	なし	人夫	徒食	大工	勤	商	農	計
なし	28	10			2	7	2	49
人夫	7	40		4		1	4	56
徒食	13			3	2		2	20
大工	1	1		11				13
勤	1	1			5			7
商						12	2	14
農	1						5	6
計	51	52		18	9	20	15	165

であり，全体的にはよく一致してゐるが個人的にはかなりうごいてゐるのが知られる。　これも注目にあたいする。*(P163に続く)

この職業の仲介者として前犯関係との関係をみると，（あり）と考へたものはわずかに2名にすぎなかつた。　さて犯罪歴の観点から職業と犯罪とがどうなってゐるかをみると次の様になる．

職業が前犯の時と本犯の時とで同一か否かをみると，

2　犯

	同	異	両方なし	片方なし	片方不明	両方不明	計
a	15	6	5	8	0	0	34
b	17	5	1	7	1	0	31
c	12	7	1	2	2	1	25
計	44	18	7	17	3	1	90

3　犯

	同	2度同	異	全なし	2度なし	1度なし 2度同	1度なし 2度異	1度不明 2度異	1度不明 2度なし	不明 1つあり	計
a	5	5	1	1	2	2	1	2	1	1	21
b	3	7	2	2	0	2	1	1	1	0	19
c	0	3	1	0	2	1	2	0	0	1	10
計	8	15	4	3	4	5	4	3	2	2	50

となる。（a, b, c は在社会期間をあらはす）在社会期間ごとにみて有意な差はみられない。

次にこれを職業の種類でわけてみると

2犯のみ

前 / 本		やくざ やくざ	やくざ かたぎ	かたぎ やくざ	かたぎ かたぎ	計
職業	a	18	2	8	6	34
	b	12	2	6	11	31
	c	9	6	4	6	25
Total		39	10	18	23	90

やくざ，かたぎの内わけ

やくざ	かたぎ
なし	大小工業工員
人夫土工	商業
徒食	勤労者
船員	農業
遊興的	

3 犯

	やくざ やくざ	かたぎ かたぎ	不明 やくざ	かたぎ かたぎ	かたぎ やくざ	かたぎ やくざ	やくざ かたぎ	不明 かたぎ	やくざ やくざ	
	やくざ	かたぎ	やくざ	やくざ	かたぎ	やくざ	かたぎ	やくざ	かたぎ	計
職業 3a	8	5	2	3	2	1		1		22
3b	5	4		1	3	2	1	1	1	18
3c	2	2	1	1		4				10
計	15	11	3	5	5	7	1	2	1	50

これをまとめると

3 犯 職業

在社会	やくざ③	かたぎ③	やくざ②	かたぎ②	不明① かたぎ① やくざ①	計
a	8	5	3	5	1	22
b	5	4	3	5	1	18
c	2	2	5	1		10
計	15	11	11	11	2	50

犯罪者はかたぎの職業についているものは少いことがわかる。次に受刑中に習得した技術を利用したか否かをみると

	金属工	裁縫	印刷	靴工	木工	理髪	自動車	石工	紙細工	計
利用	2	0	0	1	1	0	1	0	0	5
利用せず	5	4	8	7	2	1	0	1	1	29

であつて利用したものは極めて少い。

犯罪が経済的な苦しさからのみの原因であるとするならば，釋放後前に経済的に苦しかつた同じ職業につくならば前犯と言ふことのために條件はもつとわるくなつてゐることになり，経済的に更に苦しくなり再犯の素地をつくりあげることになるであらう。

この観点からみて受刑中に新な技術（一般的なものでなく技術として利用できるもの）を習得させ，これによつて新しい方向をひらかせるのがよくはないかと思はれる。

以上のものは技術利用に関する一つの資料をあたへてゐると考へられる。　利用できる様な技術を教へねばならないのである。

（又）職場の場所と環境性格

	わるい	普通	不明	不就	計
2犯	8	39	17	26	90
3犯	7	23	4	16	50
4～	2	11	3	9	25
計	17	73	24	51	165
%	10.3	44.3	14.5	30.9	100.0

特にわるいとするものは約10％ていどであり近隣関係とにたような数を示してゐる。

次に，職場の友友関係をみると，人づきあひについては，

（イ）良い　（ロ）普通　（ハ）悪い

であつて特別なものはみられない。

その程度をみても（イ）強い（ロ）普通（ハ）弱い，とするとき下の様になり特異ではない。

人づきあひ

	イ	ロ	ハ	不明	計
2犯	25	27	1	11	64
3犯	12	17	2	3	34
4犯	4	5		7	16
計	41	49	3	21	114
%	36.0	43.0	2.6	18.4	100.0

交際の程度

	イ	ロ	ハ	不明	計
2犯	8	34	7	15	64
3犯	3	23	3	5	34
4犯	2	7	2	5	16
計	13	64	12	25	114
%	11.4	56.2	10.5	21.9	100.0

又，雇主と本犯との関係をみるに，2犯に2つあり，一つは船員（同一雇主）のもの，もう一つはやはり同じ所につとめた（月給がやすいので同僚のをぬすむ）ものである。

（※p 159より）さて入所前の職業をみると

	あり	なし	不明	計
2犯	21	35	8	64
3犯	21	13	0	34
4犯以上	12	4	0	16
計	54	52	8	114

111

2犯と（3+4）犯とまとめ
あり、なしの関係をみると
（不明をのぞく）$\chi^2 = 8.59$（D.F.1）
で有意な差がみとめられる。
2犯は「なし」が多いのである
あると答へたものの多くは
農業である。

(ルル) 家 計

本人の收入は

	無職	不明	月平均 2,000円以下	〃 4,000円	〃 6,000円	〃 8,000円	〃 8,000円以上	〃 2万円以上	日平均 300円以下	〃 500円以下	〃 500円以上	食付 月3000円	〃 日30円	計
2犯	25	19	2	9	7	7	6	3	4	3	2	2	1	90
3犯	16	12	1	3	5	2	3		5	2		1		50
4〜	9	4		1	1		6	1	3					25
計	50	35	3	13	13	9	15	4	12	5	2	3	1	165

収入はこまつてゐるものばかりでなく，相当高額を占めてゐるものがあるのは注意しなければならない。

不足分の補ひは

	不明	どうやらやつてゐる	親族関係より	たけのこ	内職類	道ほし	犯罪による	借金	友人知人	計
2犯	35	17	18	6	0	3	7	2	2	90
3犯	23	9	7	0	2	2	5	1	1	50
4以上	7	7	4	1	0	0	2	2	2	25
計	65	33	29	7	2	5	14	5	5	165

で不明のものも多いがこの中でぬすみ，犯罪によつて補つてゐたと表明したものも約10％もあるのは苦日せわはならぬところである。

家計は全般的にみて（イ）大によい（ロ）普通（ハ）やや悪い　とわけてみると左の通りであり不明がきわめて多い。

	イ	ロ	ハ	ニ	不明	計
2犯	3	18	11	17	41	90
3犯	1	9	10	5	25	50
4～	2	6	2	6	9	25
計	6	33	23	28	75	165
%	3.6	20.0	13.9	17.0	45.5	100.0

しかし大いに良いとするものもあり，大いに悪いものが，20％にみたぬのは注意すべき所である。

次に家族一人当りの家計費をみると（これは収入あるもののみつまり不明と無職とを除く）次の様になる。

a，b，cは在社会期間をあらわす，aは2ヶ月未満，bは2ヶ月～6ヶ月未満，cは6ヶ月以上とする。

犯数別にはそれほど顕著な差はみとめられない。

総平均約4000円程度はさう低くはないと思はれる。

在社＼犯数	2	3	4以上	計
a	2080 (12)	3750 (10)	4833 (3)	3080 (25)
b	3310 (26)	4890 (9)	3000 (7)	3600 (42)
c	5170 (19)	4720 (7)	5167 (4)	5050 (30)
計	3640 (57)	4410 (26)	3930 (14)	3890 (97)

（ ）内はサンプル数
サンプル数が165にみたぬのは，不明をぬかしたからである。

（ヲ）不良旧知，前共犯関係者との関係をみよう

不良旧知については

関係＼	あり	なし	不明	計	ありの内＼	ぐれん隊	受刑者	共犯者	職業仲間	話し友達	賭博	学友	世話になった人	計
2犯	31	55	4	90	2犯	13	6	1	5	2	4			31
3犯	13	37		50	3犯	5	1	2			2	1	2	13
4～	7	18		25	4～	5				1	1			7
計	51	110	4	165	計	23	7	3	5	3	7	1	2	51

がみられ，ぐれん隊が多い。

共犯関係では

	あり	なし	不明	計	職業	ぐれん隊不良仲間	戰友	遊び友達	友達	差入れに来た	話しきもちがよくきた	賭博	不明	計
2犯	8	75	7	90	3	2	1	1		1				8
3犯	5	42	3	50		1			1		1	1	1	5
4～	1	23	1	25		1								1
計	14	140	11	165	3	4	1	1	1	1	1	1	1	14

である

(ワ) 常に娯楽を求めてゐた場所

これでは幾種類もあげたものは，そのまゝ全部集計を行つた。賭博と表明するもの約 11 %，花柳街 33 %，酒場 21 % がある。

	映画	演芸劇	酒場類	花柳街	ダンス	賭博	勝負事	その他	なし	不明	計
2 犯	38	4	16	32	3	8	7	8	12	7	135
3 犯	24	1	15	18	2	8	4	2	4	2	80
4 ～	10	3	4	4		2	1	3	5	3	35
計	72	8	35	54	5	18	12	13	21	12	250
%	43.6	4.9	21.2	32.7	3.0	10.9	7.3	7.9	12.7	7.3	165人中の%

この数字は他の調査と比較するとき興味がある。

(カ) 家族の本人に対する態度

家族は本人を (イ) 通常の親しい肉親として見ている。

(ロ) 見ていない.

	イ	ロ	普通	交渉なし	わからぬ	不明	計
2 犯	53	12	1	1	3	20	90
3 犯	30	9		1		10	50
4 ～	10	4	1			10	25
計	93	25	2	2	3	40	165
%	56.3	15.2	1.2	1.2	1.8	24.3	100.0

犯数間に特異な傾向はみとめられない。

つめたいとするもの 15 % ある。

(ii) どのように遇したか　(イ) 温い　(ロ)普通　(ハ)冷い

	イ	ロ	ハ	交渉なし	不明	計
2 犯	22	33	12	1	22	90
3 犯	14	17	11		8	50
4 ～	7	5	3		10	25
計	43	55	26	1	40	165
%	26.0	33.4	15.7	0.6	24.3	100.0

比率を求めると上の様になる。つめたいとするのは16%ある犯数間に特異な傾向はみえない。

(ヨ) 本人の家族に対する態度

	イ	ロ	ハ	普通	なし	無答	計
2 犯	17	24	21	1	1	26	90
3 犯	10	8	21			11	50
4 ～	3	4	7			11	25
計	30	36	49	1	1	48	165

家庭の生活での満足さを訊ねたもので

(イ) 大に満足　(ロ) 少し　(ハ) 不満

である。不満のものが相当見受けられる。次に父母，妻子，兄弟に対する愛着をきいてみたところ，次の様になつた。

(イ) は多く感ずる　(ロ) は少し　(ハ) は全く感じない，である

親に対して

	イ	ロ	ハ	母 父 イ ハ	母 父 イ ロ	継母 父 ハ イ	無答	計
2 犯	38	11	8	1		2	30	90
3 犯	22	5	3		1	1	18	50
4 ～	3		2				20	25
計	63	16	13	1	1	3	68	165

妻に対して

	イ	ロ	ハ	無答	計
2犯	14	4	2	70	90
3犯	5	3	1	41	50
4〜	3	2	3	17	25
計	22	9	6	128	165

子に対して

	イ	ロ	ハ	無答	計
2犯	10	1	1	78	90
3犯	3			47	50
4〜	7		1	17	25
計	20	1	2	142	165

兄弟姉妹に対して

	イ	ロ	ハ	普通	サイ 男 ハ	無答	計
2犯	39	13	11		1	26	90
3犯	19	10	8	1		12	50
4〜	3	5	5			12	25
計	61	28	24	1	1	50	165

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	計
2犯	25	22	20	23	90
3犯	7	15	16	12	50
4犯	3	7	3	12	25
計	35	44	39	47	165

この中無答のもののは多くはその様なものが存在しない事を意味するものである。

したがつて，それをぬかして（イ）の率の多いものは全く子であり，親妻兄弟の順であり，感じないと言ふ順は全く逆の関係になつてゐる。

家族に対する責任感をきいてみると

（イ）強い　（ロ）若干

（ハ）全く感じない

（ホ）不明とすると，

となり，犯数別に有意な差はみとめ難い。

(ダ) 特に親密なもの

	なし	男	女	無答	計
2	34	29	1	26	90
3	21	8	4	17	50
4以上	6	7	0	12	25
計	61	44	5	55	165

となり，女であるものは少い。

その交際を求めてゐた場所は

自宅	その人の家	無答	向方の家	飲屋場	服役中	遊廓	映画などあそび場	仕事場	飯場	計
11	16	9	1	4	2	1	2	2	1	49

年令は

20以下	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46以上	計
7	19	11	4	5	4	5	49

職業をみると

やくざ的	かたぎ的
16	33

である。
中に，刑事1，娼妓1，ぐれん隊1，賭博等5がある。

8. 社会に対する態度

参考のため社会に対する態度をたづねてみた。項目によつてはわからないとして答へぬものも多かつたが参考としてかかげておこう。

(イ) いま何が一番気にかかるか

社会に対する態度ではないが一般的なものとしてまづこれを訪

ねてみる。

Code	2犯	3犯	4犯	5以上	計	%
1	11	10	4	6	31	18.8
2	39	17	3	4	63	38.3
3	22	14	5	1	42	25.5
4	3	1		1	5	3.0
5	5				5	3.0
6	1				1	0.6
7	3	2			5	3.0
8	1	2			3	1.8
2.3	3	2			5	3.0
0	1	1			2	1.2
脱落	1				1	0.6
2.8		1			1	0.6
9				1	1	0.6
計	90	50	12	13	165	

Code

1 なし
2 家庭，家族のこと
3 釋放后のこと
4 刑期間中のこと
5 自分の罪への悔悟
6 考へぬ
7 早く出たい
8 心を改めよう
9 絶望

犯数別に差がみうけられる。$\chi^2 = 9.96$（D.F.2）で有意差がみうけられる。
2犯のものは他のものに比しコード1が少く，コード2,5が多いのである。

（ロ）家族について

(イ)家の事で気にかいることがあるか (イ)ある (ロ)ない

家族と別の所にあるもの（假に別居と言ふ）
家族と同じ所にあるもの（たとへ家族一人であつても!）（假に同居と言ふ） ものにわけてみると

別居

	ある	ない	不明	計
2犯	19	8		27
3犯	5	8		13
4犯	4	2	1	7
計	28	18	1	47

同居

	ある	ない	不明	計
2犯	52	8		60
3犯	28	9		37
4一	11	2	1	14
計	91	19	1	111

其他

家族あるが状態不明

	ある
2犯	1

孤独

	ある	ない	不明	計
2犯		2		2
3犯				
4犯	1	2	1	4
計	1	4	1	6

行方不明

全

	ある	ない	不明	計
2犯	72	18		90
3犯	33	17		50
4～	16	6	3	25
計	121	41	3	165
%	73.4	24.8	1.8	100.0

犯数別同居，別居の数をみると

	別	同	計
2	27	60	87
3	13	37	50
4	7	14	21
計	47	111	158

犯数別に有意な差はみられない．

なほのこりの中の6人は孤独者，一人は家族はあるが状態不明となる．同居のものが別居のものに比して「ある」と答へたものが多い。

（ii）いま何が一番気にかゝるか

別居

	0	1	2	3	4	5	6	2.3	不明	01	計
2犯	5	2		8			1	1	10		27
3犯		2	1	1			1		8		13
4犯	2			1					4		7
計	7	4	1	10			2	1	22		47
%	14.9	8.5	2.1	21.3			4.3	2.1	46.8		100.0

同居

	0	1	2	3	4	5	6	不明	01		計
2犯	21	10	4	4	2	1	4	14			60
3犯	10	7	1	5		2	2	10			37
4～		1		5		1		6	1		14
計	31	18	5	14	2	4	6	30	1		111
%	27.9	16.2	4.5	12.6	1.8	3.6	5.4	27.1	0.9		100.0

Code

0　家族生活

1　病氣（老令）

2　犯行について

3　家族のものの安否
（どんな風にしているか）

4.　家族のものの素行
（正しくしてゐるか）

5.　愛情がうすれないか
（家族の本人に対する）

6.　家の問題（ゴタゴタ）

全

	0	1	2	3	4	5	6	2.3	不明	01	計
2犯	26	12	5	12	2	1	5	1	26		90
3犯	10	9	2	6		2	3		18		50
4～	2	1		7		1			13	1	25
計	38	22	7	25	2	4	8	1	57	1	165

同別の間には差がみうけられる。　これは当然うなづける所のものである

(iii) 誰が一番気にかゝるか

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	12
2犯	1	14	16	9	5	3	10	1	1	1	6
3犯		8	10	6	3	4	2			1	1
4～		2	3	1	2		5				
計	1	24	29	16	10	7	17	1	1	2	7

23	34	26	56	123	24	45	36	不明	計	
1	2	1	1	1	1			16	90	2犯
								15	50	3犯
		1				1	1	9	25	4～
1	2	2	1	1	1	1	1	40	165	計

Cord

0 祖父母, 1 父, 2 母, 3 兄弟, 4 姉妹, 5 妻
6 子供, 7 家族, 8 叔父, 9 其他

この統計は家族の状況によつてことなるであらう。 妻あるものと, ないものとではことなるであらう。

さらにこれをわけることも, さして強いいみもあるとは考へられないのでこのままにしておかう。

一般的にみると, この様な工合になるのであるが他統計資料との比較の参考としよう。

(IV) 子供の一生に責任を感じているか。

(イ) いる (ロ) いない

	子なし	(イ)	(ロ)	計
2犯	77	12	1	90
3犯	47	3		50
4犯～	15	10		25
計	139	25	1	165

豫想される結果である。

(ハ) 社会に対して

(i) 今の社会に満足しているか

(イ)いる　(ロ)いない　(ハ)わからない　(ニ)無関心

	イ	ロ	ハ	ニ	無答	計
2犯	13	37	33	6	1	90
3犯	7	32	8	3		50
4〜	3	12	7	3		25
計	23	81	48	12	1	165
%	13.9	49.1	29.1	7.3	0.6	100.0

満足しているもの，約13.9%であり不満なもの49.1%

犯数別にみると

	イ	ロ	ハ	ニ	無答	計
2犯	14.4	41.1	36.7	6.7	1.1	100.0
3犯	14.0	64.0	16.0	6.0		100.0
4犯	12.0	48.0	28.0	12.0		100.0

となり，有意な差はみとめられない。

(ハ) どういふ点で

	0	1	2	2'	3	4	5	1+2	01	6	7	無答	不明	計
2犯	6	17	4	1	1	1	1	2	1			56		90
3犯	8	16	2			2			1	1	1	18	1	50
4〜		11	1									13		25
計	14	44	7	1	1	3	1	2	2	1	1	87	1	165

Cord

0. 仕事がない
1. 物価
2. 復員した許りなのに薄情
2'. いい思いをしたことない
3. せいを出す
4. 自分の氣に入らぬ矛盾だらけ

5. 人の迷惑をしらぬ　　7. 犯罪多すぎる.

6. おちついた気持なし

物質と答へるものが圧倒的に多い。然し或は受賣り的御題目かもしれない。コード2の原因のあるのも注意すべき所である。

(iii) 今後，社会は良くなると思うか.

(イ) 思う　(ロ)思わぬ　(ハ)わからない　(ニ)無関心

	イ	ロ	ハ	ニ	不明	よくならぬとこまる	計
2犯	61	5	19	3	1	1	90
3犯	25	7	18				50
4犯	15	1	7	1	1		25
計	101	13	44	4	2	1	165

肯定的な答をしてゐるものが多い。

これには，どうすればよいか

	無答	なし	わからぬ	考へぬ	受入れ方をよくする	周囲の人々との扱力	眞面目に働く	社会政府に求める	成行きにまかす	計
2犯	42		10	3	2	10	14	8	1	90
3犯	22		2	1	2	7	7	9		50
4～	10	1	2	1		6	2	3		25
計	74	1	14	5	4	23	23	20	1	165

(IV) 社会で改善したい所は何か

	無関心	犯罪関係	経済的に	その他	計
2犯	62	8	18	2	90
3犯	37	3	10		50
4～	16	1	7	1	25
計	115	12	35	3	165

これに対しては無関心がきわめて多い。あとは経済的なことでありさきの問ひと照応して首肯できる。

(V) 君は，それに対して，出所後実際どうするか．

	無関心	自信なし 方法なし	普通な気持	積極的	計
2犯	35	3	33	19	90
3犯	19	4	20	7	50
4～	7	3	8	7	25
計	61	10	61	33	165

積極的な意志を示すものが 20%，自信なしとするものは約6%ある。

表明せられた所からみると，無関心が相当みうけられるが，全く negative な気持でもないように思へる．

(VI) 一般社会が君に何をしてくれればよいと思うか

	無関心	犯罪関係	生活上の事	その他	計
2犯	30	30	23	7	90
3犯	13	17	19	1	50
4～	8	11	6		25
計	51	58	48	8	165

犯数別にも差はなく各項目の反応は約30%づつである。犯罪者の要求の実態がみうけられる。

(二) 将来の希望

(1) どのような仕事をしたいか

	なし	人夫 土工	大工 左官	勤務	商人	農業	自分に合ふ	派手	犯罪者更生事業	生活できる何でも	其他	計
2犯	4	12	13	21	22	12	2	1	1	1	1	90
3犯	1	3	6	17	11	5	3	1		3		50
4犯	1	5	3	4	9	2					1	25
計	6	20	22	42	42	19	5	2	1	4	2	165

商人，勤労（定期的なつとめ人）をのぞむものが多いのは豫想される結果である。　現在「なし」と言ったりして negative な気持をもつてゐるものが少いと思はれる。

この結果からは，相当健全であるとみなしうる。

(ii) それは出來ると思ふか

(イ) 思ふ　(ロ)思はぬ　(ハ)わからぬ　(ニ)無関心

	イ	ロ	ハ	ニ	無答	計
2犯	78		11		1	90
3犯	41		6		3	50
4～	23		2			25
計	142		19		4	165
%	86.1		11.5		2.4	100.0

殆んど肯定的な結果であり，(i) でのべたことをうらづけてゐるものと考へられる。

(iii) 出所後どんな生活をしてみたいか。

	無答	なし	わからぬ	考へぬ	真面目になる	働くこと	普通並な生活	家庭生活をよくする	今迄通りやる	その他	計
2犯	3	2	2		28	6	31	15	1	2	90
3犯	1	1		2	8	3	23	11		1	50
4～				1	5	3	9	4	1	2	25
計	4	3	2	3	41	12	63	30	2	5	165
%	2.4	1.8	1.2	1.8	24.9	7.3	38.2	18.2	1.2	3.0	100.0

(i)，(ii)，(iii)，の結果を併せみるに自棄的なものは殆んどみうけられない。

(IV) それにはどうしようと思ふか

	無答	なし	わからぬ	考へぬ	普通	真面目に働く	強い奮起力をもつ	家族の力を頼る	物価を下げる	計
2犯	10	1	3	1	1	56	11	7		90
3犯	5		1		3	32	5	3	1	50
4〜	1					17	4	3		25
計	16	1	4	1	4	105	20	13	1	165

当然さう答へると豫期される様な質問であるが上の様な結果が得られた。

(V) 子供についての希望

子供ありと答へた26名のものについてである。

(a) どのような教育をさせたいか、

	無答	小学校	義務中学	中学以上	家庭的基礎教育	出来る限りの最高	子供本人	すなおに	計
2犯	2	1	4	3	1	2			13
3犯			2			1			3
4〜	1	1	4	2			1	1	10
計	3	2	10	5	1	3	1	1	26

(b) どんな仕事をやらせたいか

	無答	子供ホコロビ考へぬ	子供本位	商的	務人	仕事士職人	自分の仕事	何もさせぬ	わからぬ	現在の仕事	計
2犯	1	1	4	1	1	2	1	1	1		13
3犯		1				2					3
4犯		1	3	2	2	1				1	10
計	1	3	7	3	3	5	1	1	1	1	26

(c) どんな生活をさせたいか

	無答	楽な生活	真面目な生活	普通な生活	愛情を示したい	たのしい生活	本人の希望	温い生活	考へぬ	素直に育つ事	計
2犯	1	4	2	3	1	1	1				13
3犯				1				1	1		3
4～		1	3	3		1	1			1	10
計	1	5	5	7	1	2	2	1	1	1	26

(d) そのためにどうしようと思ふか

	無答	真面目になる	一生懸命働く	云ふ事をきかせる	一緒に生活する	わからぬ	円満にする	手本となる	よい教育をする	愛情を注ぐ	幼少なる為考へぬ	親らしくなる	元気な事を知らしてやりたい	世間通りの服装をさせる	計
2犯	1	1	5	1	1	1	1	1	1						13
3犯			1							1	1				3
4～	1	3	2									2	1	1	10
計	2	4	8	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	26

とりたてて言ふ様な事はみあたらない。

(vi) 父母に対して（父母あるものについて）

(a) どんな生活をさせたいか

	無答	無関心なし	楽にさせたい	安心させたい	一人前なみな生活	孝行をする	自分と一緒にやってほしい	父母仲よくやってほしい	元の漢師に	母は楽に父はどうなってもよい	父は楽に母はどうなってもよい	
同居	3	4	43	13	6	1	2		1	1	1	75
別居	5	7	10	3	2	1						28
同別居			1	1				1				3
計	8	11	54	17	8	2	2	1	1	1	1	106

(b) それにはどうすればよいか

	無答	無関心	一生懸命働く	楽しくともかまえする	真面目になる	兄弟助け合う	母と呼ぶ	母のたのもしいようになる	出来そうもない	計
同居	3	4	47	2	18	1				75
別居	5	7	6		8			1	1	28
同別居					2		1			3
計	8	11	53	2	28	1	1	1	1	106

常識的な結果であり，自発的なものはあまり見当らない。無答，無関心は約20％程度ある。

(VII) 兄弟に対して（兄弟あるものにだけ）

(a) どんな生活をさせたいか

	無答	考へぬ	わからぬなし	たのしい生活	よき嫁入りを	自力で生活出来る様	真面目な生活
同居	8	13	6	4	2	1	5
別居	19	16	9	1		2	3
計	27	29	15	5	2	3	8

	ひけ目を感ぜぬ生活	迷惑をかけない様する	家の商売を	学校へやりたい	一緒に生活したい	自分のよい方へ進ませる	らくに	計
(同居)	4	7		2	1		15	68
(別居)	2	7	1			1	8	69
計	6	14	1	2	1	1	23	137

これには，無答，考へぬ，わからぬなしが，71あり，約50％　あるのは前の本人の家族に対する態度の所とあわせみるときうなづかれる所である．

(b)　それにはどうするか

	無答	わからぬなし	考へぬ	真面目になる	一生懸命働く	正しくなり手本となる	迷惑かからぬ様	力を合せる	ほがらかに	方法なし	計
同居	17	3	10	13	15	3	2	3	1	1	68
別居	27	7	11	7	7		5	5			69
計	44	10	21	20	22	3	7	8	1	1	137

(VII) 妻に対して　(妻あるものに対して)

(a)　どんな生活をさせたいか

	無答	なし	考へぬ	かたぎな生活	裕福な生活	安心させて	たのしく	扶け合って	計
同居	1	1	2	2	12	2	1	1	22
別居	1	3			2	1	1		8
計	2	4	2	2	14	3	2	1	30

無答，なし，考へぬが少く，約20％である．

（ち）それにはどうするか

	無答	なし	懸命に働く	真面目になる	明るい生活	扶け合って	生活のたてなおし	妻の意見をきいて	計
同居	4		9	5	1	1	1	1	22
別居	2	3	1	1		1			8
計	6	3	10	6	1	2	1	1	30

（ホ）家族への願望

（i）父母にはどうしてもらいたいか

	無答	時になし	わからぬ	よき生活を送ってもらう	自分の更生で安心して欲しい	ゆるして欲しい	会ひたい手紙をくれ	暖かく受入れて欲しい	指導してほしい	早く出所出来る様してくれ	入所中の父母早く出て働けるようにしてほしい	干渉しないでほしい	その他	計
同居	3	26	3	4	2	4	2	16	6	4	1	1	3	75
別居	2	15	1	1		2		2	3	1		1		28
同別居	1	1						1						3
計	6	42	4	5	2	6	2	19	9	5	1	2	3	106

（ii）子にはどうしてもらいたいか

	無答	幼少なる為なし	健康に	真面目になってもらいたい	孝行してもらいたい	温い気持で父と呼べてくれ	知らせたくない	なし	計
同居あり			5	2	1	2		3	13
別居のみ	1	1	3	2	2		1	3	13
計	1	1	8	4	3	2	1	6	26

(iii) 兄弟にはどうしてもらいたいか

	無答	わからぬなし	学校へやりたい	丈夫で	ゆるしてもらいたい	更生を知ってもらいたい	自分の様にならぬ様	家のためにやってほしい
同居	4	28	1	1	3	1	3	2
別居	13	26		1	3		1	
計	17	54	1	2	6	1	4	2

仲良くやる	面会に来てほしい	家に入れてくれる心配	心よく入れてほしい	早く出してもらいたい	よく指導してほしい	迷惑かけぬよう	身を固めたら	計
4	2	1	13	1	4			68
2			15		6	1	1	69
6	2	1	28	1	10	1	1	137

たよる気持も多く見られる。

(IV) 妻にはどうしてもらいたいか

	無答	なし	考へぬ	無事生活してくれ	仲良く助け合って	安心して働かせる様	離縁したい	自分の様な罪人にならぬ様	計
同居	3	5	2	3	6	1		2	22
別居	1	2			3		1	1	8
計	4	7	2	3	9	1	1	3	30

(i), (ii), (iii), (iv) では相当な差がみられてゐる。これらは受刑者受入れに対する一つの資料（一刑務所の一時期のものであつて偏つた資料かもしれないが）をあたへてゐるものと思ふ。

This is an issue of the projected series of reports entitled "The Research Report of the . S. M." "The Research Report of the . S. M." publishes the reports of researches done in the application of Statistical Mathematics such as initial preparations, study designs, practical procedures and handling of data.

The series aims to be beneficial not only for the theoretical workers, but for research workers who are engaged in the practical problems of surveying, analysis and so on.

Editor Chikio Hayashi

Published by The Institute of Statistical Mathematics
10, Sangenjaya-cho, Setagaya-ku, Tokyo

Printed by Sobunsha Co.
13, Takata-toyokawa-cho, Bunkyo-ku,
Tokyo

The Research Report of the I.S.M.

Number 6

Statistico-Mathematical Methods in Parole Prediction I

Feburary 1952

The Institute of Statistical Mathematics

10, Sangenjaya-cho, Setagaya-ku, Tokyo